

目 次

目 次	1
I 2022（令和4）年度の主な活動	3
*2022（令和4）年度入館者一覧	4
II 資料の収集・利用	5
II-1 資料の収集	5
1) 受 贈	5
2) 寄 託	5
II-2 資料の利用	6
1) 貸 与	6
2) その他	6
III 展示活動	7
III-1 総合展示	7
1) 〈京の歴史〉ゾーン	7
2) 〈京のまつり〉ゾーン	8
3) 〈京の至宝と文化〉ゾーン	13
4) 3階企画展	24
5) 1階企画展	26
6) ぶんぱく京都講座	27
III-2 特別展示	28
*2022（令和4）年度特別展一覧	33
III-3 映 画	33
1) 常設上映	33
2) 特別企画・共催事業	35
3) 映像ギャラリー常設展示	37
III-4 京都学・歴彩館における展示	38
IV 調査研究活動	40
IV-1 学芸員の活動	40
1) 研 究	40
2) 出講・委嘱	40
3) 業 績	41
V 普及活動	43
V-1 出版物	43
1) 研究紀要『朱雀』	43
2) 年報	43
3) 展覧会図録	43
V-2 音楽会	44
V-3 京都アート・クラフトマーケット	44
V-4 学習普及外部連携室	45
1) ボランティア	45
2) 「ぶんぱく子ども教室」事業	45
3) 団体見学案内	45
V-5 博物館実習	46

V-6	資料・情報公開	46
1)	資料閲覧室	46
2)	ホームページによる広報とWebコンテンツの提供	47
V-7	外部連携活動	47
1)	他館との連携	47
2)	京都府内の学校との連携事業	47
3)	地域との連携	48
V-8	京都文化博物館友の会	49
1)	会 員	49
2)	事業概要	50
V-9	文化財保護基金室	50
1)	貸付け事業	50
2)	文化財保護に関するよろず相談	50
3)	文化財保護の啓発普及	50
V-10	「福寿園・お茶の文化賞」	51
VI	ギャラリー事業	52
VI-1	5・6階展示室	52
1)	美術・工芸作家の利用	52
2)	京都文化財団展示室運営委員会	53
3)	生涯学習的発表期間の利用	53
4)	一般の利用	55
VI-2	別館ホール	55
VII	管理・運営	58
VII-1	組織と職員	58
1)	組 織	58
2)	京都文化財団	58
3)	京都文化博物館	59
VII-2	施 設	60
1)	本館関係	60
2)	別館関係	60
VII-3	館内店舗	63
1)	ろうじ店舗一覧	63
2)	別館店舗一覧	63
3)	博和会・ろうじ店舗行事	63
VIII	新型コロナウイルス感染症予防対策	64
VIII-1	新型コロナウイルス感染症予防対策による 休止等の対応	64
VIII-2	新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン (第3次版)	65
IX	2022(令和4)年度のあゆみ	66

※本文および表中の敬称は、一部略させていただいた。

I 2022(令和4)年度の 主な活動

I 概要

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応に追われた一年であったが、2022年度の年度末近くになってようやく変化がみられるようになった。2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類へと移行されることを念頭に、3月13日からは個人の主体的な選択が尊重されることになり、マスクの着用も個人の判断が基準となった。当館においては一般来館者はその方針に沿うが、来客対応スタッフについては5月8日までマスクの着用をすることとし、サーモグラフィーや消毒液なども5類変更時まで設置を続けた。

特別展では、「鈴木敏夫とジブリ展」(4/23～6/19)が始まると、連日大勢の来館者が訪れ、入館者数を調整するため、15分刻みの整理券の発行、エレベータの搭乗人数の制限、ソーシャルディスタンスの呼びかけや見守り、展示室の二酸化炭素濃度の監視などをして、三つの密(密閉、密集、密接)を回避、リスクの低減に努めた。来館者に混乱等は見受けられなかったが、特に土、日、祝日は昼過ぎ頃に整理券の配布が終了し、会期終了前になると、払い戻しなどについての対応が必要となった。

続く「ゴールデンカムイ展」(7/9～9/11)においては、先の「鈴木敏夫とジブリ展」で培ったノウハウを基に感染防止対策を行った。しかし、開館前の待機者が多く、多い時は整理券取得のための500人以上の長蛇の列ができ、真夏という季節の待機ということもあり、整理要員や開館時間の前倒しなどを行い解消に努めた。さらに、本展では、当初より物販スペースへの入場制限を行う必要性が想定され、その待機列をどのように吸収するかなどに苦慮したが、2階コネクションホールの利用や整理券方式などを準備し、想定内におさめることができた。「鈴木敏夫とジブリ展」、「ゴールデンカムイ展」いずれにおいても若年層が多く、事前チケットの購入やSNS情報を事前に確認してくる傾向が強く、これまでとは違った情報発信のあり方を考えさせられるきっかけともなった。

秋には「新選組展2022」(10/1～11/27)を開催したが、直前の「ゴールデンカムイ展」と時代的に近く、土方歳三などの共通する人物などにも話題が集まり、引き続いて来館する人も少なくなかった。京都文化博物館では2004年にNHK大河ドラマに合わせて「新選組展」を開催しているが、その後明らかとなった新知見を生かし、新選組とも縁の深い会津の福島県立博物館とタッグを組んでの開催であり、新選組が歴史上の人気のコンテンツであることを再認識することができた。

Kyoto Art for Tomorrow2023(2023/1/21～2/5)では、例年、京都を中心に活動する若手作家を紹介し、次世代を担う作家たちを京都から発信していくことを目的に開催し、今年度は40名の作家の作品を紹介した。また新たに前年度選抜展の最優秀賞受賞者藤井俊治氏を別館ホールにゲスト作家として招聘し、多様な画材を用いた装飾的平面作品を展観した。

「知の大冒険-東洋文庫 名品の煌めき-」(2023/2/21～4/9)では、アジア学では世界五大図書館のひとつにも数えられる東洋文庫の希少な図書資料や地図などを紹介する絶好の機会となった。

2階総合展示では、日本文学研究者として知られているドナルド・キーン氏と京都の洋画家井澤元一氏との交友を軸に足跡を振り返る展示のほか、3階では、宮中や門跡寺院などの障壁画などを手掛けたことで知られる原派を大規模に紹介する展示を開催した。

このほか、文化庁の補助金(ARTS for the future)事業として、1階において①「五劫のすりきれ」(9/24～10/10)今村遼佑と小宮太郎展と、②藤浩志展「龍の存在を無視できない」(11/29～12/11)を開催し、現代美術作品を紹介した。

3階映画・フィルムシアターでは、新型コロナ感染予防措置を講じながら、さまざまな映画関係機関と連携を図り、夏の「EUフィルムデーズ」をはじめ、「京都フィルムメーカーズラボ」では世界各国から若手映画作家を招く合宿形式のワークショップなど、多彩な企画を実施した。

5、6階貸展示室および別館ホールの利用については前年度に続き厳しい状況であったが、年度後半に向けて徐々に回復の傾向にあるとも感じられた。

また、令和4年9月から令和5年4月にかけて、熱源設備（空調）等改修工事を実施した。改修工事にかかる休館期間は、極力短期間となるよう3回に分けて実施した（①9月15日～22日、②12月25日～1月6日、③2月6日～14日）。

2022(令和4)年度入館者一覧

年 月	総合展			特別展			計			ギャラリー				ろうじ 店舗	総計
	有料	無料	計	有料	無料	計	有料	無料	計	作家	一般	別館	計		
2022.4	1,176	1,398	2,574	22,241	3,401	25,642	23,417	4,799	28,216	5,893	674	12,617	19,184	6,621	54,021
5	1,794	1,978	3,772	75,394	7,364	82,758	77,188	9,342	86,530	2,220	2,325	12,322	16,867	8,747	112,144
6	2,021	2,683	4,704	59,295	6,220	65,515	61,316	8,903	70,219	1,024	2,586	5,719	9,329	7,587	87,135
7	3,073	2,817	5,890	30,043	1,718	31,761	33,116	4,535	37,651	3,604	721	6,680	11,005	7,916	56,572
8	1,728	1,965	3,693	38,908	2,452	41,360	40,636	4,417	45,053	2,081	1,806	4,800	8,687	8,444	62,184
9	1,739	2,331	4,070	23,199	2,075	25,274	24,938	4,406	29,344	0	1,108	16,048	17,156	6,033	52,533
10	1,252	3,483	4,735	23,100	3,504	26,604	24,352	6,987	31,339	5,593	4,624	6,340	16,557	9,531	57,427
11	1,330	3,799	5,129	25,189	4,139	29,328	26,519	7,938	34,457	2,589	4,414	6,991	13,994	10,494	58,945
12	1,592	2,870	4,462	0	0	0	1,592	2,870	4,462	608	3,231	6,870	10,709	5,131	20,302
2023.1	2,149	1,921	4,070	7,678	1,191	8,869	9,827	3,112	12,939	310	1,929	8,036	10,275	3,158	26,372
2	2,370	2,082	4,452	9,001	1,736	10,737	11,371	3,818	15,189	1,705	3,275	7,517	12,497	3,536	31,222
3	3,136	2,021	5,157	14,335	1,976	16,311	17,471	3,997	21,468	2,475	4,797	26,466	33,738	7,655	62,861
年度計	23,360	29,348	52,708	328,383	35,776	364,159	351,743	65,124	416,867	28,102	31,490	120,406	179,998	84,853	681,718
1日平均 (総290日) (特217日)	81	101	182	1,513	165	1,678	1,213	225	1,437						

※熱源整備(空調)等改修工事による臨時休館 1回目：9月15日～22日、2回目：12月25日～2023年1月6日、3回目：2月6日～2月14日

Ⅱ 資料の収集・利用

Ⅱ 概要

当館の所管資料は、大きく二つに分かれる。一つを館資料、もう一つを管理資料と呼ぶ。館資料は、埋蔵文化財の発掘調査で出土した考古資料が中心で、他に若干の絵画資料や歴史資料など、限られた範囲のものである。一方、管理資料は、京都府立京都学・歴史館（旧京都府立総合資料館）所蔵資料のうち、当館が管理をする美術工芸、歴史民俗資料等の文化資料（博物館資料）をいう。これらの資料については、当館の設立以来、その収集、管理、展示公開業務を京都学・歴史館から委託されており、具体的には同館の収蔵庫で管理しながら、展示を京都文化博物館および京都学・歴史館で行うとともに、収集、利用等の業務を当館で行っている。

なお、2022年度末での管理資料は55,396点、寄託資料が391点、一時保管資料が49点であった。

Ⅱ - 1 資料の収集

1) 受 贈

【管理資料】

分野	資料名	点数	寄贈者
彫刻	村上炳人《貌一変容一》ほか	2	村上 隆
日本画	小早川秋聲《熱河朝陽所見》	1	伊藤 明子
日本画	堀 泰明《祭囃子》	1	堀 泰明
洋画	西川 純《明治大正京洛往来帖》ほか	26	宮崎 かほる
洋画	吉田 光慶《トレドの丘》	1	吉田 共成
洋画	井澤 元一《公園の性格》ほか	3	宮脇 豊
日本画	三宅 凰白《春秋図屏風》ほか	3	梅田 洋子
日本画	案本一洋・池田遙邨《朝暉》	1	林 やゑ
民具	放下鉾模型	1	稲垣 義一
日本画	案本 一洋《文》ほか	5	中 和子
日本画	案本 一洋 案本一洋関係資料（アルバム1冊、吉井勇ほか短冊9枚、色紙類17枚）ほか	4	案本 敏夫
書・日本画・木竹	頼春水《詩書》ほか	8	中村 栄子
陶芸	竹中 浩《染付彫椀文筆筒》ほか	20	竹中 浩
洋画	井澤 元一《魚柳》	1	宮脇 豊
漆芸	伊藤 裕司《雲と波と》ほか	19	伊藤 裕司
洋画	井澤元一関連資料一式ほか	2	井澤 猛
洋画	松崎 政雄《フィンガーペイント》ほか	21	星野 桂三
日本画	四季京名所押絵貼屏風	1	吉田 希子
		小計 120点	

2) 寄 託

種 別	分 野	件点数	分 野	件点数	分 野	件点数	分 野	件点数	分 野	件点数	小 計
館資料	歴史資料	95件1384点	美術工芸	228件234点	考 古	19件 510点					342件 2128点
管理資料	日本画	9件 30点	陶 器	1件 89点	民 俗	7件 268点	武 具	2件 5点	染 織	3件 3点	22件 395点

II - 2 資料の利用

1) 貸 与

【館蔵資料】

分野	資料名	点数	申請者	使用目的（展覧会名）
考古	西賀茂瓦窯出土軒瓦	2	向日市教育委員会	常設展
考古	旧日本銀行京都支店金庫棟外壁赤れんが	2	舞鶴市立赤れんが博物館	常設展
考古	平安京左京三条三坊十一町出土大甕	2	備前市教育委員会	備前市埋蔵文化財管理センター常設展
考古	緑釉碗 ほか	2	愛知県陶磁美術館	特別展「平安のやきもの—その姿、うつろいゆく」
歴史	六壬式盤（復元模型）	1	多賀城市埋蔵文化財調査センター	企画展「多賀城 祈りとまじないの世界」
日本画	誓願寺門前図屏風	1	市立伊丹ミュージアム	企画展「信長と戦った武将、荒木村重」
考古	洛中洛外図屏風（歴博甲本）レプリカ 一式	1	京都市考古資料館	企画展「路上カオス—歴史にみる可能性—」
考古	「理」銘平瓦 ほか	20	国立歴史民俗博物館	企画展示「いにしえが、好きっ！—近世好古図録の文化誌—」

【管理資料】

分野	資料名	点数	申請者	使用目的（展覧会名）
風俗	「女諸礼集」ほか計2点	2	奈良県立美術館・福井市立郷土歴史博物館	展覧会「寿ぎのきもの ジャパニーズ・ウェディング—日本の婚礼衣装—」に出品のため
日本画	宇田荻郵「鴨川の夕立」ほか計2点	2	三重県立美術館	展覧会「開館40周年記念 宇田荻郵展」への展示のため
日本画	土農力「あまのはしだて」ほか計7点	7	京都府文化スポーツ部文化芸術課	府民ギャラリー事業二役室展示のため
日本画	土郷ぞ妙法院休息	1	福島県立博物館	展覧会「新選組展2022」に出品のため
民具	デンチ網	1	京都府立京都学・歴史館	展覧会「あやしい・・・京都」に出品のため
日本画	幸野樗嶺《妓女図》ほか計3点	3	京都市美術館	特別展「綺羅めく京の明治美術
陶芸	(三代)清風與平《青華磁牡丹唐草花鳥文花瓶》	1	(京都市京セラ美術館)	—世界が驚いた帝室技芸員の神業—」に出品のため
染織	「鹿に薄」ほか計2点	2	一般財団法人 NHKサービスセンター	展覧会「刺繍絵画の世界展—明治・大正期の日本の美—」に出品のため
日本画	山口華楊「白鷺」ほか計2点	2	堂本印象美術館	展覧会「山口華楊—いのちに心をよせて—」に出品のため
日本画	木島櫻谷《僊客採芝図》ほか計8点	8	泉屋博古館	展覧会「木島櫻谷—山水夢中—」に出品のため
日本画	唐鞍絵馬下絵	1	奈良国立博物館	展覧会「春日大社 若宮国宝展—祈りの王朝文化—」に出品のため
日本画	曲子明良「丹後暮色」ほか計7点	7	京都府文化スポーツ部文化芸術課	府民ギャラリー事業二役室展示のため
郷土玩具	伏見人形制作工程資料「暫」	1	京都市考古資料館	展覧会「成田屋人形の原型と土型—歌舞伎十八番の暫・矢の根・助六—」に出品のため
日本画	大豊世紀「刻」ほか計7点	7	京都府文化スポーツ部文化芸術課	府民ギャラリー事業二役室展示のため
日本画	土佐光武「紙雛図」	1	茶道資料館	展覧会「古今歳時記—12か月のくらしと暦—」に出品のため
日本画	國府克「風景」ほか計5点	5	南丹市立文化博物館	展覧会「國府克展—山の魅力に惹かれて—」に出品のため
日本画	木下育應「黒谷待春」ほか計6点	6	京都府文化スポーツ部文化芸術課	府民ギャラリー事業二役室展示のため
日本画	猪熊佳子「杜の雫」ほか計2点	2	内閣府迎賓館京都事務所	京都迎賓館における貴賓の接遇のため
陶芸	六代清水六兵衛「青磁耳付花瓶」	1		

合計 17件 60点

2) その他

【館蔵資料・管理資料担当】

特別撮影・利用・特別観覧

館蔵資料：撮影・利用 18件 76点 特別観覧 3件 35点／管理資料：撮影・利用 26件 46点 特別観覧 7件 26点

寄託資料—一時持ち出し・貸与

	分野	資料名	点数	申請者	使用目的
寄託資料	民俗	緋羅紗地波瀾飛魚文様刺繍水引 ほか	2	公益財団法人四条町大船鉾保存会	修理のため
寄託資料	民俗	神功皇后御天冠 ほか	27	公益財団法人四条町大船鉾保存会	祭礼
寄託資料	民俗	祇園祭鯉山毛綴見送 ほか	6	公益財団法人鯉山保存会	祭礼

Ⅲ 展示活動

Ⅲ 概要

京都文化博物館は、昭和63年の開館以来、京都の歴史や美術・工芸、文化を紹介する施設としての役割を担ってきたが、平成23年にこれまでの固定的な常設展を一新し、四季折々に「ほんまもん（京都の至宝やゆかりの名品）で体感する」を基本コンセプトに、名称を「総合展示」と改めるとともに、国宝・重要文化財を含む多様な展示にフレキシブルに対応できる展示室を整備した。京都市内で唯一、京の通史を紹介する〈京の歴史〉ゾーンを核とし、ここでは語り尽くせないテーマを様々な角度から取り上げ「ほんまもん」で紹介する企画展示ゾーン〈京の至宝と文化〉〈京のまつり〉から構成されている。館蔵資料、管理資料、寄託資料をはじめ、他の美術館や博物館、寺社などの貴重で多彩な名品の数々で、展示内容や規模によって3階展示室も柔軟に利用しながら京都文化を紹介している。永い歴史に育まれた京都文化を語るには総体的な展示スペース不足の問題があるが、規模は大きくなくとも年間14～15に及ぶ質の高い企画展を展開しており、多様で重層的な京都文化の様々な側面を幅広く来館者に楽しんでもらっている。

Ⅲ-1 総合展示

1) 〈京の歴史〉ゾーン

本エリアは、平安京の成立から近代都市として脱皮を遂げた明治・大正期までの京の歴史を概観する展示である。展示構成としては、平安時代から江戸時代における都市・京都の姿を描いた絵画資料を用い、大画面でその様子を伝える「絵巻回廊」、通史的な都市形態の変遷をCGで叙述した「京のかたち」、時代ごとの

政治的・文化史的な要素を豊富なグラフィックで紹介しながら実物資料を配置する各展示ケースで構成される。狭小な展示スペースながら、隣接する「京のまつり」「京の至宝と文化」の各ゾーンで展開する展示活動の歴史的な核となるよう運用を行っている。

【〈京の歴史〉ゾーン 展示資料】

	コーナー名	No.	資料名	員数	所蔵
	イントロダクション	1	平安時代の軒丸瓦 平安京跡出土	3点	〈* *〉
絵巻回廊		2	駒競行幸絵巻	1点	和泉市久保惣美術館
		3	一遍上人絵伝	1点	東京国立博物館
		4	洛中洛外図屏風 歴博甲本	1点	国立歴史民俗博物館
		5	洛中洛外図屏風 歴博F本	1点	国立歴史民俗博物館
		6	古写真 八坂神社から見る四条通	1点	国際日本文化研究センター
デジタル資料 近代都市京都の誕生		7	古写真 新京極の風景 昭和初期	1点	京都府立京都学・歴史館
		8	古写真 円山公園 明治末～大正期	1点	京都府立京都学・歴史館
		9	古写真 平安神宮地鎮祭余興 明治29年	1点	平安神宮
		10	古写真 四条寺町をまがる船鉾	1点	京都府立京都学・歴史館
		11	古写真 大丸前を巡行する長刀鉾 大正2年頃	1点	京都府立京都学・歴史館
		12	動画 祇園祭風景 大正期	1点	大阪芸術大学映像復元プロジェクト
		13	動画 時代祭風景 昭和8年	1点	〈* *〉
		14	古写真 三代事業起工式 明治41年	1点	京都市上下水道局
		15	古写真 疏水舟だまり風景 明治25年	1点	京都市上下水道局
		16	古写真 東丸太町での水道管敷設 明治43年	1点	京都市上下水道局
		17	古写真 四条烏丸を走る市電 大正初期	1点	京都府立京都学・歴史館
		18	古写真 ウイーン万国博覧会 日本参加団集合写真 明治7年	1点	有田町歴史民俗資料館
		19	古写真 柳池小学校 明治20年頃	1点	京都府立京都学・歴史館
		20	古写真 英学校及び女紅場	1点	京都府立京都学・歴史館
		21	古写真 絵画専門学校授業風景 明治42年	1点	京都市立芸術大学 芸術資料館

デジタル資料	近代都市京都の誕生	22	古写真 京都帝国大学	1点	京都府立京都学・歴史館
		23	古写真 同志社大学クラーク記念館	1点	同志社社史資料センター
		24	動画 京都駅など町並み 昭和5年頃	1点	<*>
		25	古写真 朱雀二条商店街の盛況 昭和35年頃	1点	世界人権問題研究センター
実物資料	京のかたち	26	京都文化博物館近辺の土層はざとり標本	1点	<*>
	平安京の造営	27	磚(敷瓦) 西賀茂瓦窯跡出土	18点	<*>
		28	鬼瓦 平安宮朝堂院・豊楽院跡出土	2点	<*>
		29	緑釉軒瓦 平安宮朝堂院・豊楽院跡出土	5点	<*>
	平安貴族のくらしと文化	30	池亭記(複製資料)	1巻	<*>
		31	土器 雲林院跡出土	37点	<*>
		32	緑釉陶器耳皿 雲林院跡出土	1点	<*>
		33	中国製青磁碗 雲林院跡出土	1点	<*>
	中世都市市民の生活	34	中国製白磁碗 雲林院跡出土	1点	<*>
		35	常滑大甕 平安京左京五条三坊十五町跡出土	1点	<*>
		36	備前大甕 平安京左京三条三坊十一町跡出土	1点	<*>
		37	中国製四耳壺 平安京左京八条三坊二町跡出土	1点	<*>
		38	埋納銭 平安京左京八条三坊七町跡出土	一式	<*>
		39	鑄造関連遺物(刀装具、仏具、鏡等) 平安京左京八条三坊二町跡出土	一式	<*>
		40	中国製磁器 平安京左京八条三坊二町跡出土	一式	<*>
近世町人のなりわい	41	金箔押瓦 聚楽第跡出土	4点	<*>	
	42	京童	1冊	<*>	
	43	都名所図会	1冊	<*>	
	44	つぼつぼ	9点	<*>	
	45	でんぼ	1組	個人	
	46	伏見人形 布袋	1点	<*>	
	47	伏見人形 饅頭喰い	2点	<*>	
	48	鏡師工房関連遺物 京都市下京区坂東屋町出土	一式	<*>	
	49	柄鏡	1点	<*>	

※所蔵欄 <*>印の資料は京都府立京都学・歴史館(旧総合資料館)蔵(当館管理)、<*>印の資料は当館蔵

2)〈京のまつり〉ゾーン

① 祇園祭—鷹山復興記念展—

会 期：2022年6月11日(土)～8月7日(日)
 概 要：祇園祭は日本を代表する祭礼として名高く、特に山鉦巡行に登場する数々の山や鉦は、豪華絢爛な装飾品で飾られ「動く美術館」とも称されている。祇園祭の山鉦には数々の変転があり、時には災害にみまわれ巡行の行列からその姿を消していった山鉦もある。そのひとつが鷹山で、文政9年(1826)の大風雨の被害を受けて鷹山は休み山となり、その後元

治元年(1864)の大火によって部材を焼失し、長くその姿を見ることはなかった。しかし、近年鷹山復興の機運が生まれ、2022年の山鉦巡行では鷹山が江戸時代以来の姿を披露した。この展示では、祇園祭の山鉦に関する歴史や文化を紹介するとともに、復活を遂げる鷹山についての資料も公開した。

出品資料数：17点
 担当者：橋本 章

出品資料一覧

番号	資料名	員数	時代	所蔵
1	鷹山御神体人形図	1幅	天保2年(1831)	公益財団法人鷹山保存会
2	「鷹山かざり物覚」(三条衣棚町文書)	1枚	宝暦6年(1756)	京都府立京都学・歴史館
3	「鷹山人形飾付一式覚」(三条衣棚町文書)	1枚	天明2年(1782)	京都府立京都学・歴史館
4	「鷹山人形飾付一式覚」(三条衣棚町文書)	1枚	天明5年(1785)	京都府立京都学・歴史館
5	「口上覚」(三条衣棚町文書)	1枚	寛政10年(1798)	京都府立京都学・歴史館
6	「山飾附之事」(三条衣棚町文書)	1冊	享和3年(1803)	京都府立京都学・歴史館
7	「鷹山破損二付諸方掛合」(三条衣棚町文書)	1冊	文政7年(1824)	京都府立京都学・歴史館
8	六月十四日祇園會山鉾列書・祇園會御祭禮御行列次第	1枚	江戸時代後期	京都府立京都学・歴史館
9	祇園會七日十四日山鉾鋳附記	1冊	文政7年(1824)	京都府立京都学・歴史館
10	『繪本洛陽祭禮鑑』	1冊	天明6年(1786)刊	京都府立京都学・歴史館
11	洛中洛外図屏風(松居家本)	6曲1双	江戸時代後期	個人蔵
12	菊水鉾巡行模型	一式	昭和46年(1971)	京都府(京都文化博物館管理)
13	月鉾模型	1台	昭和時代	京都府(京都文化博物館管理)
14	『祇園御霊会細記』	2冊	宝暦7年(1757)刊	京都府(京都文化博物館管理)
15	長刀鉾模型	1台	昭和時代	京都文化博物館
16	月鉾模型	1台	明治時代	京都文化博物館
17	『都名所図会』	5冊	安永9年(1780)刊	京都文化博物館

② 池大雅と玉瀾

会期：2022年8月13日(土)～10月10日(月・祝)

概要：池大雅(1723～1776)は、近世日本の文人画史を代表する巨匠の一人である。大雅が生を受けたのは、江戸幕府成立100年を経て、社会・経済が十分に成熟した江戸時代中期の京都。好奇心旺盛で学識に溢れたこの都市の住人に囲まれ、少年時代から書画に才能を発揮した大雅は、同時代の最新のモードであった中国の文人文化に大きな興味と憧れを抱き、

書画家としての人生を歩み始めた。諸国を歴訪して見聞を深め、古今の漢詩、学問に触れ、まだ見ぬ大陸への憧れを自由でおおらかな独特の筆さばきで表現した。本展示では、池大雅美術館より京都府へ寄贈されたコレクションを毎年公開するものである。今年度は大雅とその妻・玉瀾の作品を紹介した。

出品資料数：28件

担当者：有賀 茜

出品資料一覧

通番	作品名	作家名	員数	制作年	制作年元号	技法・材質	法量(縦×横cm)	コレクション名
1	池大雅居室之図	野呂介石	一幅	1792	寛政4年	紙本墨画	18.2×24.2	I
2	慶子老舞踊図	池大雅	一幅			紙本墨画	28.6×46	I
3	池大雅肖像	月峰	一幅			紙本着色	130×28.4	I
4	違棚		一棹			木製	幅65.6x奥行65.0x高21.5	I
5	机		一基			木製	幅93.5x奥行93.5x高29.5	I
6	竹筆		二点			竹製	大39.0cm 小37.5(全長)	I
7	近世畸人傳 四	伴高蹊	一冊			紙本木版		
8	山関図	池大雅	一幅			紙本墨画	33.5×32.8	I
9	石崖図	池大雅	一幅			紙本墨画	28.2×31.8	I
10	なでしこ図	玉瀾	一幅			紙本墨画	24.1×38.8	I
11	墨菊図	玉瀾	一幅			紙本墨画	99.2×25.1	Y
12	梅図 木盃	玉瀾	一点			漆工	口径11.0	I
13	祇園社寄付金受取覚		一幅	1770	明和7年	紙本墨書	30.3×32.3	I

14	書簡 万里小路殿宛	玉瀾	一幅		紙本墨書		I
15	玉瀾和歌草稿「葦菜、杜若」	玉瀾	一幅		紙本墨書	14.1×31.3	I
16	玉瀾和歌草稿「藤花、山吹」	玉瀾	一幅		紙本墨書	14.1×34.4	I
17	玉瀾和歌草稿「泉、葵」	玉瀾	一幅		紙本墨書	14.1×35.1	I
18	玉瀾和歌草稿「三月盡荒和祓」	玉瀾	一幅		紙本墨書	14.1×37.6	I
19	和歌「寄鳥恋、橋辺霞」	池大雅	一幅		紙本墨書	15.2×44.1	I
20	和歌「櫻」	池大雅	一幅		紙本墨書	15.7×45.1	I
21	「詠松遐年友和歌」懐紙	池大雅	一幅		紙本墨書	32.6×44.6	I
22	池大雅墓碑銘拓本		一幅		紙本墨拓	128.4×61.7	I
23	玉瀾墓碑拓本		一幅		紙本墨拓	104.5×53.7	I
24	梶百合之歌碑拓本		一幅		紙本墨拓	84.7×53.5	I
25	和歌 葛花をむすめに見せ侍るとて詠める	百合	一幅		紙本墨書	29.3×47.7	I
26	和歌短冊 郭公	梶	一幅		紙本墨書	35.8×5.7	I
27	百合女風流	谷口香嶠	一幅	明治時代	絹本著色	114×50.4	Y
28	祇園梶女歌意図	上田万秋	一幅		紙本淡彩	31×42.5	Y

※いずれも京都府蔵(京都文化博物館管理)。ただし、Iは池大雅美術館コレクション、Yは吉川観方コレクション

③ ある画家による京都 西川純の素描

会 期：2022年10月15日（土）～12月11日（日）
 概 要：本展では、明治後期から昭和にかけて活躍した洋画家・西川純（1886 - 1974）が描いた京都の街並みを紹介した。西川は、明治後期に鹿子木孟郎の室町画塾、浅井忠の聖護院洋画研究所に学び、多くの優れた素描を残した。銀閣寺道、白川村、浄土寺村、岡崎などの風景を鉛筆で描き、当時の様子を今に伝える。風景の他にも、浅井忠に指導を受けた人物デッサン、馬やライオンの写生があり、明

治後期の画塾でのデッサン技術の高さを物語る。昭和に入ると西川は、記憶を頼りに回想の中の京都の街並みを描き、「京都民家写生水彩画」や「京の家々スケッチ」として、300点余りを残した。今回の展示では、初期の明治期のデッサンを中心に、水彩画、油彩画を含む、京都の風景にまつわる西川の画業の一端を紹介した。

出品数：63点
 担当者：植田彩芳子

出品作品一覧

No.	作品名	制作年
1	郊外写生第一号 宗像神社絵馬堂	1904年11月10日
2	郊外写生第三号 御所	1904年11月15日
3	京都清水寺	1905年3月15日
4	京都東山銀閣寺附近	1905年4月24日
5	嵯峨村	1905年5月23日
6	岡崎美術院の裏	1905年10月13日
7	白河村	1905年11月24日
8	堀川二条	1905年11月27日
9	聖護院の研究所にて	1906年
10	嵯峨天龍寺内ニテ	1906年2月3日
11	(社寺風景)	1906年4月29日
12	宇治ニテ、黄ばく山	1906年5月6日
13	寺町丸太町上ル所で	1906年5月20日
14	川端丸太町ニテ	1907年5月11日
15	保津川	1907年7月28日
16	浄土寺町大興寺内	1907年11月9日
17	下鴨の森	1908年2月16日

18	下鴨の森にて	1908年3月14日
19	浄土寺村	1908年4月21日
20	(森)	
21	川端壇王	
22	疏水仁王門にて	
23	粟田青蓮院	
24	FACE OF TIGER / AT THE ZOOLOGICAL GARDEN	1907年8月5日
25	LION EATING / AT THE ZOOLOGICAL GARDEN	1907年11月10日
26	HEAD OF A LION 動物園ニテ	1907年11月10日
27	(ライオン)	
28	動物園ニテ	1908年2月9日
29	松ヶ崎の農家にて	1908年5月5日
30	(馬頭部)	1908年6月3日
31	老人スケッチ	1905年9月4日
32	青年スケッチ	1906年12月12日
33	壮年スケッチ	1908年2月8日
34	裸婦スケッチ	1908年1月31日
35	高瀬川にて	1906年10月
36	さが天龍寺前 西川純の家 嵯峨の手ひねり焼かま元	1906年6月
37	四条南座界隈の朝 前方の洋館は銀行：京の家々集 no.86	1969年2月
38	岡崎公園 京都市美術館：京の家々集 no.87	1969年10月
39	下鴨の社家の表：京の家々集 no.94	
40	四条の南座と磧の涼み風景：京の家々集 no.97	1969年
41	二条の川東 旧二条新地：京の家々集 no.107	1965年7月
42	疏水仁王門の船だまり場、前方の家は運送屋：京の家々集 no.109	
43	祇園町と知恩院の遠望：京の家々集 no.113	
44	京の名物 大仏餅屋 今は無し：京の家々集 no.122	
45	突き上げ窓のある西陣の商家、大宮今出川北：京の家々集 no.126	
46	西之京そうめい散本舗：京の家々集 no.127	
47	縄手三条南 お茶づけうなぎ本舗：京の家々集 no.133	1963年
48	伏見の街で見る風景：京の家々集 no.135	1965年6月
49	京のしもたやの構え：京の家々集 no.136	1961年5月
50	烏丸三条角の美しい京の町の西洋風景：京の家々集 no.141	1968年8月
51	やがて無くなる明治の洋館、東川端荒神橋京都織物会社：京の家々集 no.143	1963年3月
52	初代の京都駅（京言葉でヒッチョノステンシヨ）明治9年創業：京の家々集 no.145	
53	三条通東洞院 郵便局前から東方を見る：京の家々集 no.150	
54	烏丸七条丸物の前身京都産館：京の家々集 no.153	1962年2月
55	三条通高倉 日本銀行京都支店、現平安博物館：京の家々集 no.156	
56	堀川通四条附近と電車：京の家々集 八の6. no.205	
57	かも川二条橋と電車：京の家々集 八の7. no.206	
58	三条柳馬場Y.M.C.A：京の家々集 八の13. no.252	1961年5月
59	木屋町二条 島津製作所：京の家々集 八の20. no.279	
60	高瀬川曳舟	1955年
61	京の商家	
62	明治大正京洛往来帖	
63	こんな事もあった集	

※すべて作者は西川純、所蔵は京都府(京都文化博物館管理)。

※作品名は作者による記載のあるものはそれに従い、無いものは便宜上、仮タイトルをつけ()で表記した。

④ 信仰の美—筆に託した祈りの世界—

会 期：2022年12月17日(土)～2023年2月5日(日)
 概 要：わが国に仏教が伝来して以降、貴賤を問わない人々が、それぞれの祈りを筆に託して、経典の書写を行った。これら敬虔な信仰から生み出された品々は、時として目に見える美しさを伴うものである。本展では、古写経や石

経などの実際に書き写された経文と、それらの文字に宿る美しさに注目し、平安時代から近世に至るまでの信仰世界的一端を紹介した。

出品資料数：19件

担当者：佐藤稜介

出品資料一覧

No.	名称	作者	年代	員数	所蔵
1	大般若経 卷第四百九十一		奈良～平安時代	1巻	京都府立京都学・歴史館
2	大般若経 卷第五百八十(大蔵寺経)		平安時代 永久3年(1115)	1巻	公益財団法人古代学協会(当館寄託)
3	大般若経 卷第三百十五(川合宮一筆経)		平安時代 久寿2年(1155)	1帖	公益財団法人古代学協会(当館寄託)
4	大般若経 卷第三百五(桑原貞助発願一日頓写経)		平安時代 保延4年(1138)	1帖	京都府立京都学・歴史館
5	大般若経 卷第九十二(東大寺八幡経)		鎌倉時代 13世紀	1巻	京都府立京都学・歴史館
6	大般若経 卷第八十五(春日版)		鎌倉時代 13世紀	1巻	京都府立京都学・歴史館
7	仏説瞿曇弥記果経		平安時代	1巻	京都府立京都学・歴史館
8	瓦経(伊勢・小町塚経塚出土)		平安時代 承安4年(1174)	1点	公益財団法人古代学協会
9	石経(京都市左京区東山將軍塚付近出土)		鎌倉時代	7点	公益財団法人古代学協会
10	仏性論 卷第四(北野経王堂一切経)		室町時代 応永19年(1412)	1帖	京都府(当館管理)
11	西国三十三所巡礼札(平安京三条西殿出土)		室町時代	3点	当館
12	銅製如来立像(平安京左京八条三坊七町跡出土)		室町時代	1点	当館
13	仏母出生三法蔵般若波羅蜜多経 卷第二十一(宋版)		中国・南宋時代 12世紀	1帖	京都府立京都学・歴史館
14	注妙法蓮華経 卷第十四・十五(元版)		中国・元時代 大徳10年(1306)	2帖	京都府立京都学・歴史館
15	舎利講式		鎌倉時代 正中2年(1325)	1巻	京都府立京都学・歴史館
16	天神講式		江戸時代 天保8年(1837)	1巻	京都府(当館管理)
17	般若心経(池大雅美術館コレクション)	池大雅筆	江戸時代	1幅	京都府(当館管理)
18	如意輪観音像(池大雅美術館コレクション)		中国・明～清時代	1軀	京都府(当館管理)
19	扇面古写経下絵 模本	荻生天泉筆	近代	1巻	当館

⑤ 雛人形名品展

会 期：2023年2月15日(水)～4月9日(日)
 概 要：京都府には、江戸時代からの様々な人形とその関連資料が収蔵されており、例年、上巳の節句(桃の節句)にあわせた展示を行っている。本年は、京都府コレクションから選りすぐった雛人形の優品とあわせ、江戸時代後期の天児や大正時代の御殿雛、明治時代の女性

の小袖などを紹介した。

なお本展示は2月11日(土・祝)開室の予定であったが、空調工事のための休館期間があったため2月15日(水)の開室となった。

出品資料数：23件

担当者：林 智子

出品資料一覧

	作品名	制作年	展示期間
1	天児	江戸時代後期	通期
2	雛人形 立雛	江戸時代後期	通期
3	雛人形 立雛	明治時代	通期

4	雛人形 元禄雛	江戸時代中期	通期
5	雛人形 享保雛	江戸時代中期	通期
6	雛人形 有職雛	江戸時代後期	通期
7	雛人形 有職雛	江戸時代後期	通期
8	雛人形 古今雛	江戸時代後期	通期
9	雛人形 古今雛	江戸時代後期	通期
10	雛人形 古今雛	江戸時代後期	通期
11	雛人形 享保雛	江戸時代末期	通期
12	御殿雛	大正時代	通期
13	御殿雛	大正時代	通期
14	一文雛	江戸時代末期～明治時代	通期
15	一文雛	江戸時代末期～明治時代	通期
16	一文雛	江戸時代末期～明治時代	通期
17	繡立雛	江戸時代後期	通期
18	雛屏風 ほか	江戸時代後期	通期
19	雛道具	江戸時代後期	通期
20	市松人形	昭和時代	通期
21	春草文様着物	明治時代	通期
22	几帳文様着物	明治時代	通期
23	桜花鴛鴦文様振袖	明治時代	通期

3)〈京の至宝と文化〉ゾーン

① 鎌倉武士の物語と京都

会 期：【第1部】2022年4月2日(土)～5月29日(日)

【第2部】2022年4月9日(土)～6月5日(日)

概 要：源頼朝によって鎌倉に新たな政権が打ち立てられた後、武士たちの活躍を元にした物語はさまざまな形で語り継がれ、書物はもとより絵画や玩具などの題材としても取り上げられ後世に広く知られていった。この展覧会では、平安時代中頃の武士の世の始まりから説き起こし、保元・平治の乱から源平合戦、そして鎌倉幕府内での暗闘を経て北条氏を軸とした武家政権が確立してゆく様相を、武士たちがまどっていた「物語」を軸にしつつ、京都府所蔵の資料を中心に紹介していった。

出品資料数：64件

担当者：橋本 章



「鎌倉武士の物語と京都」ちらし

出品資料一覧

第1章 源氏と鎌倉～武士の世の始まり～

番号	資料名	作者等	員数	時代	備考	展示期間
1	源義家像		1幅	江戸時代	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/9～6/5
2	源義光足柄山吹笙図	郵田 丹陵	1幅	明治時代	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/9～6/5
3	鳥羽法皇像		1幅	桃山時代	公益財団法人古代学協会蔵	4/9～6/5
4	慈鎮(慈円)像	中院通純 賛	1幅	江戸時代	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/9～6/5
5	『愚管抄』	慈円	2冊	江戸時代中期写	京都府立京都学・歴史館蔵	4/9～6/5
6	常盤御前雪行図	塩川 文麟	1幅	江戸時代後期	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/9～6/5
7	『平家物語』屋代本 巻二		1冊	室町時代中期写	京都府立京都学・歴史館蔵	4/9～6/5
8	『幼学綱要』	元田 永孚	7冊	明治16年(1883)	個人蔵	4/9～6/5
9	僧正坊牛若遊戯	狩野 栄信	1幅	江戸時代後期	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/9～6/5
10	文覚修行	榊原 文翠	1幅	明治時代	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/9～6/5
11	武者行列模型		1式	昭和時代	京都文化博物館蔵	4/9～6/5
12	僧俊寛像		1体	昭和時代	京都文化博物館蔵	4/9～6/5
13	鉄雲龍文銅象嵌金銀鍍鍬形(復元)	山本 英頭	1面	昭和63年(1988)	京都文化博物館蔵	4/9～6/5
14	飾甲冑 赤絲威胴丸鎧	中嶋 信太郎	1領	昭和55年(1980)	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/9～6/5
○15	黒韋緘肩白胴丸 大袖喉輪付		1領	室町時代	公益財団法人浄妙山保存会蔵	4/9～6/5
16	源頼政像	中島 来章	1幅	江戸時代後期～明治時代初期	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/9～6/5

第2章 戦う鎌倉武士～もののふ達の物語～

番号	資料名	作者等	員数	時代	備考	展示期間
17	源頼朝像	岸 竹堂	1幅	江戸時代後期～明治時代	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2～5/29
18	富士川大勝図(下絵)	竹内 栖鳳	1幅	明治27年(1894)頃	個人蔵	4/2～5/29
19	義経勝浦上陸図	谷口 香嶠	1幅	大正2年(1913)	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2～5/29
20	紙本着色 源平合戦図	狩野 氏信	六曲一双	江戸時代	滋賀県立琵琶湖文化館蔵	4/2～5/29
21	『あつもり』		2冊	江戸時代初期	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2～5/29
22	『絵本義経一代実記』	勝川 春章	4冊	天明7年(1787)刊	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2～5/29
23	「宇治川先陣双六」	一英齋芳艶画	1枚	江戸時代後期	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2～5/29
24	「新版頼朝旗揚高名双六」		1枚	年未詳	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2～5/29
25	『和漢英勇画伝』	梅亭金鷲 著、歌川国芳 画	2冊	江戸時代後期刊	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2～5/29
26	『前賢故実』	菊池 容斎	10冊	明治36年(1903)	個人蔵	4/2～5/29
27	定家俊成対面図	柴田 是真	1幅	江戸時代末期～明治時代	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2～5/29
28	新古今和歌集卷第十六断簡(桂切)	伝・九条良経	1幅	鎌倉時代中期	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2～5/29
29	『明月記』		41冊	寛文2年(1662)写	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2～5/29
30	『新古今和歌集』		2冊	文明14年(1482)写	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2～5/29
31	『建禮門院右京大夫集』		1冊	江戸時代写	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2～5/29
32	「於鶴岡若宮静歌舞ノ図」	初代歌川国貞	1枚	文化～弘化年間(1804～44)	個人蔵	4/2～5/29

第3章 動揺する鎌倉～そして北条氏の台頭～

番号	資料名	作者等	員数	時代	備考	展示期間
33	『吾妻鏡』		51冊	江戸時代初期写	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2～5/29
34	曾我五郎	伝・田中 訥言	1幅	江戸時代	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2～5/29
35	富士巻狩図(小下図)	今尾 景年	双幅	明治24年(1891)頃	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2～5/29
36	『大江廣元日記』		24冊	江戸時代後期写力	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2～5/29
37	仁田四郎猪退治図	森 徹山	1幅	江戸時代後期	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2～5/29
38	建保六年八月御歌会絵巻		1巻	江戸時代初期	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2～5/29
39	後鳥羽院様御宸影 写		1枚	江戸時代	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2～5/29
40	『後鳥羽院宸記』建保四年		1冊	江戸時代写	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2～5/29
41	『承久記』		2冊	寛永年間(1624～44)刊	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2～5/29
42	『後鳥羽院御集』	大西家文書	3冊	承応2年(1653)写	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2～5/29
43	『後鳥羽院隠岐百首』	下橋家資料	1冊	江戸時代中期写	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2～5/29

◎	44	後白河院庁下文案	東寺百合文書	1枚	治承2年(1178)6月20日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2~4/24
◎	45	順徳天皇宣旨	東寺百合文書	1枚	建保6年(1218)2月11日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/26~5/29
◎	46	北条時政書状案	東寺百合文書	1枚	建仁3年(1203)8月5日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2~4/24
◎	47	北条義時書状案	東寺百合文書	1枚	承元4年(1210)9月11日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2~4/24
◎	48	北条泰時書状案	東寺百合文書	1枚	嘉禎2年(1236)8月27日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/26~5/29
◎	49	六波羅探題北条長時書状	東寺百合文書	1枚	(年未詳)11月13日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/26~5/29
◎	50	六波羅裁許状	東寺百合文書	1枚	正元元年(1259)5月24日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2~4/24
◎	51	関東御教書	東寺百合文書	1枚	正応4年(1291)8月5日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/26~5/29
◎	52	北条時頼・同政村連署書状	東寺百合文書	1幅	建長8年(1256)9月2日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2~4/24
◎	53	北条高時巻数返事	東寺百合文書	1幅	嘉暦3年(1328)12月29日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/26~5/29
◎	54	関東御教書案	東寺百合文書	1枚	文永11年(1274)11月1日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2~4/24
◎	55	六波羅施行状	東寺百合文書	1枚	永仁4年(1296)8月13日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/26~5/29
◎	56	関東裁許状	東寺百合文書	1幅	乾元2年(1303)閏4月23日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2~4/24
◎	57	播磨国矢野庄重藤名地頭寺田範兼誥状	東寺百合文書	1幅	正和2年(1313)9月12日	京都府立京都学・歴史館蔵	4/26~5/29

第4章 武士の世を統べる新たな物語

番号	資料名	作者等	員数	時代	備考	展示期間
58	『御成敗式目』	大西家文書	1冊	元和10年(1624)正月刊	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2~5/29
59	『北条時頼記』		10冊	元禄4年(1691)刊	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2~5/29
60	『古今著聞集』	橘成季	20巻	元禄3年(1690)刊	京都府立京都学・歴史館蔵	4/2~5/29
61	武内宿禰図	鈴木百年	1幅	江戸時代末期~明治時代	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2~5/29
62	北条宣時観月図	伝・浮田一蕙	1幅	江戸時代	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2~5/29
63	大浜の土人形「勸進帳」	(愛知県碧南市)	1体	昭和時代中期	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2~5/29
64	伏見人形「成田屋人形・暫」	(京都市伏見区)	1体	昭和時代中期	京都府蔵(京都文化博物館管理)	4/2~5/29

◎印・・・国宝 ○印・・・重要文化財

② 没後70年 案本一洋~優美なる日本画の世界~

会 期：2022年6月4日(土)~7月31日(日)

担当者：植田彩芳子

概 要：案本一洋(1893~1952)は、近代京都で活躍した日本画家である。本年は、一洋の没後70年にあたる。これを機に、本展では京都府コレクションを中心とした作品、資料から一洋の画業を振り返った。京都の染織図案を営む家に生まれた一洋は、京都市立美術工芸学校・京都市立絵画専門学校(現在の京都市立芸術大学)を卒業後、山元春挙に師事し、その画塾・早苗会で研鑽を積んだ。文展、帝展を中心に活躍し、大和絵に学んだ優雅な人物画で知られるようになる。1931年頃からは同時代の婦人像を描いた作品を発表、また風景画へと展開。師の春挙が没すると、同門の川村曼舟に師事し、早苗会の中心的な画家となった。曼舟没後は、早苗会を解散、新団体・耕人社を結成し、その中心となる。当館では2001年秋に特別展「案本一洋展」を開催しており、本展は21年ぶりの展覧となった。

出品数：33点



「没後70年 案本一洋~優美なる日本画の世界~」
ちらし

出品資料一覧

No.	作者	作品名	初出展	制作年和暦	員数	材質技法	所蔵
1	案本 一洋	菫摘み		1915（大正4）年頃	1面	絹本着色	
2	案本 一洋	壬生狂言の楽屋	第9回文展	1915（大正4）年	2曲1双	紙本着色	
3	案本 一洋	稚児文殊		1916（大正5）年頃	1幅	絹本着色	個人蔵
4	案本 一洋	木の下閣	第24回早苗会展	1923（大正12）年	1幅	絹本着色	
5	案本 一洋	女人高野	大阪毎日新聞社主催 日本美術展	1923（大正12）年	2幅	絹本着色	
6	案本 一洋	酒典童子	第10回帝展	1929（昭和4）年	1面	絹本着色	京都府立医科大学
7	案本 一洋	髪	第12回帝展	1931（昭和6）年	2曲1隻	絹本着色	個人蔵
8	案本 一洋	四季十二趣		1930～40年代	1冊	絹本着色	
9	案本 一洋	月下清韻		1930～40年代	1幅	絹本着色	
10	案本 一洋	湖畔晴日	早苗会試作展	1942（昭和17）年	2曲1隻	絹本着色	
11	案本 一洋	秋映		1942（昭和17）年	1幅	絹本着色	個人蔵
12	案本 一洋	午下り	第3回日展	1947（昭和22）年	2曲1隻	紙本着色	
13	案本 一洋	秋	第4回日展	1948（昭和23）年	2曲1隻	紙本着色	
14	案本 一洋	宇部風景		1949（昭和24）年	1面	紙本着色	
15	案本 一洋	源氏物語（賢木・明石）		1949（昭和24）年	6曲1双	絹本着色	
16	案本 一洋	饞春		1930～40年代	1幅	絹本着色	個人蔵
17	案本 一洋	江口		1930～40年代	1幅	絹本着色	個人蔵
18	案本 一洋	蓬萊		1930～40年代	1幅	絹本着色	個人蔵
19	案本 一洋	楠公拳兵		1930～40年代	1幅	絹本着色	個人蔵
20	案本 一洋	御燈に映ゆ		1930～40年代	1幅	絹本着色	個人蔵
21	案本 一洋	夕顔		1930～40年代	1幅	絹本着色	個人蔵
22	案本 一洋	近江名所図		1930～40年代	1面	絹本着色	個人蔵
23	案本 一洋	女房図		1930～40年代	1面	絹本着色	個人蔵
24	案本 一洋	夏火入		1940年代	1対	陶器	
25	案本 一洋	写生帖				紙、鉛筆／水彩	
26	案本 一洋	小下絵帖			1冊	紙本着色	
27	案本 一洋	下絵					
28	案本 一洋	彦火々出見尊絵巻模本			1巻	紙本墨画淡彩	
29	案本 一洋	齋田素州宛葉書		1933（昭和8）年8月22日付	1枚	紙、インク	個人蔵
30	案本 一洋	母上宛書簡			1通	紙本墨書、著色	個人蔵
31	山元画塾	早苗会第32回展覧会目録		1931（昭和6）年	1枚	紙、印刷	個人蔵
32	吉井 勇	短歌		1938（昭和13）年頃	4枚	紙本墨書	個人蔵
33		案本一洋アルバム			1冊		個人蔵

※所蔵表記の無いものは、すべて京都府蔵（京都文化博物館管理）

③ ドナルド・キーン生誕100年記念 ドナルド・キーンと画家・井澤元一

会 期：2022年8月6日（土）～10月2日（日）
 概 要：ドナルド・キーンが生誕100年を記念する本展では、キーンと京都、そして画家・井澤元一との交流に焦点を合わせながら、彼らの作品や資料を展示した。日本の文化について思索し海外に発信し続けた文学者・ドナルド・キーンと、京都というモチーフを通して独自の画風を模索し続けた画家・井澤元一。二人

の交流に着目しながらそれぞれの作品をご覧ください。彼らが「発見」した日本/京都について考える機会とした。

主 催：京都府、京都文化博物館

協 力：一般財団法人 ドナルド・キーン記念財団、県立神奈川近代文学館、公益財団法人 神奈川文学振興会、ギャラリー宮脇

出品資料数：104件、その他映像資料

担当者：清水智世



「Donald・キーン生誕100年記念 Donald・キーンと画家・井澤元一」ちらし

出品資料一覧

No.	作家名	作品名	制作年	出版社	所蔵
1	ドナルド・キーン 訳：吉田健一 解説：三島由紀夫	日本の文学	1963	筑摩書房	個人
2	ドナルド・キーン 訳：土屋政雄、徳岡孝夫、角地幸男、新井潤美	日本文学の歴史（全18巻）	1994-1997	中央公論社	個人
3	Donald Keene	Writing a History of Japanese Literature	—		個人
4	Donald Keene	World Within Walls: Japanese Literature of the Pre- Modern Era 1600-1867	1976	New York: Holt, Rinehart and Winston	個人
5	Donald Keene	Dawn to the West: Japanese Literature of the Modern Era vol. 1, 2	1984	New York: Holt, Rinehart and Winston	個人
6	Donald Keene	Seeds in the Heart: Japanese Literature from Earliest Times to the Late Sixteenth Century	1993	New York: Henry Holt and Co.	個人
7	ドナルド・キーン 訳：金関寿夫	百代の過客 上・下巻	1984	朝日新聞社	個人
8	ドナルド・キーン 訳：金関寿夫	続 百代の過客 上・下巻	1988	朝日新聞社	個人
9	Donald Keene	Travelers of a Hundred Ages	1989	New York: Henry Holt and Co.	個人
10	ドナルド・キーン 訳：金関寿夫	このひとすじにつながりて	1993	朝日新聞社	個人
11	ドナルド・キーン 訳：角地幸男	私と20世紀のクロニクル	2007	中央公論新社	個人
12	Arthur Waley (translation)	The Tale of Genji（6巻本）	1926-1933	Houghton Mifflin Co.	個人
13	Donald Keene	Remembrances of Arthur Waley	—		個人
14	Mark Van Doren	The Autobiography of Mark Van Doren	1958	Harcourt, Brace and Co.	個人
15	ドナルド・キーン	李の横顔	c. 1939		個人
16	リー・スイリン	キーンの横顔	c. 1939		個人
17	William George Aston	A History of Japanese Literature	1899	London: William Heineman	個人
18	角田柳作	井原西鶴	1897	民友社	個人
19	Ryusaku Tsunoda (text) Donald Keene and William Theodore De Bary (eds.)	Sources of Japanese Tradition	1971 (1958)	Columbia Univ. Press	個人
20	Tsunoda Ryusaku Sensei Kinen Kikin	Ryusaku Tsunoda Sensei	1968	Tsunoda Ryusaku Sensei Kinen Kikin	個人
21	長沼直兄	標準日本語読本（1997年復刻版）（全7巻）	1997 (1931)	開拓社	個人
22	北大路魯山人	常用漢字三体習字帖	1940	萩原星文館	個人
23	ドナルド・キーン	菊池寛「勝敗」の感想文	1944		個人
24	Racine	Phèdre	—	Paris: Larousse	個人
25	Donald Keene	The Eroica in Japan	1946		個人
26	ドナルド・キーン、小池政行	戦場のエロイカシンフォニー 私が体験した日米戦	2011	藤原書店	個人
27	小田実、ティナ・ペブラー、ドナルド・キーン	玉砕/Gyokusai	2006	岩波書店	個人
28	Donald Keene	The Gentlemen Cannibals	1946		個人
29	Donald Keene	The Exile of an Assassin（原稿 コピー）	1946		個人
30	高橋潭	捕虜と敵の将校（『中央公論』1955年5号）	1955.5		個人

31	編集・訳：オーティス・ケーリ	天皇の孤島	1977	サイマル出版会	個人
32	編集：ドナルド・キーン 訳：松宮史朗	昨日の戦地から 米軍日本語将校が見た終戦直後のアジア	2006	中央公論新社	個人
33	—	青島時代の名刺（ドナルド・キーン）	1945		個人
34	中村不折	雲開千嶂碧千畳 雨過落花紅半溪	—		個人
35	—	除隊カード（ドナルド・キーン）	1946		個人
36	ドナルド・キーン	横山正克宛てはがき	1946-1947		個人
37	横山正克	ふるさと遙か	1987	立花書院	個人
38	Donald Keene	The Battles of Coxinga: Chikamatsu' s Puppet Play, Its Background and Importance	1951	London: Taylor' s Foreign Press	個人
39	—	奥村家で仕立ててもらった浴衣	—		個人
40	ドナルド・キーン（碧眼芭蕉）ほか	寄書	1954		個人
41	ドナルド・キーン	谷崎松子宛て書簡	1955		個人
42	谷崎潤一郎、谷崎松子、茂山千之丞、茂山千五郎ほか	書画帖	—		個人
43	Donald Keene (ed.)	Anthology of Japanese Literature: From the Earliest era to the Mid-Nineteenth Century	1994 (1955)	New York: Grove Press	個人
44	Donald Keene (ed.)	Modern Japanese Literature From 1868 to the Present Day	1964 (1956)	Charles E. Trittle Company	個人
45	ドナルド・キーン	谷崎潤一郎宛て書簡	1956		個人
46	ドナルド・キーン 序文：谷崎潤一郎	碧い眼の太郎冠者	1957	中央公論社	個人
47	永井道雄	ドナルド・キーンあて書簡	1957		個人
48	ドナルド・キーン	近松とシェイクスピア（『思想の科学』24号）	1960.12	中央公論社	個人
49	ドナルド・キーン	谷崎松子宛て書簡	1958		個人
50	Donald Keene	Living Japan	1959	New York: Doubleday&Company	個人
51	ドナルド・キーン 訳：江藤淳、足立康 あとがき：江藤淳	生きている日本	1973	朝日出版社	個人
52	三島由紀夫	近代能楽集	1956	新潮社	個人
53	Yukio Mishima (text) Donald Keene (translation)	Five Modern Nô Plays	1989 (1957)	Charles E. Trittle Company	個人
54	ドナルド・キーン	下田の一夜	—		個人
55	徳岡孝夫、ドナルド・キーン	悼友紀行 三島由紀夫の作品風土	1973	中央公論社	個人
56	三島由紀夫	三島由紀夫未発表書簡 ドナルド・キーン氏宛の97通	1998	中央公論社	個人
57	橋本閑雪	南泉斬猫図	—		個人
58	細江英公	春本・浮世絵うつし	2003		個人
59	Donald Keene	"Good Bye Kyoto, Hello Spaceman" SHOW Vol.3 No.5	1963	NewYork: Hartford Publication	個人
60	Kôbô Abe (text) Donald Keene (translation)	Friends	1969		個人
61	Kôbô Abe (text) Donald Keene (translation)	Friends	1969	New York: Grobe Press	個人
62	Kôbô Abe (text) Donald Keene (translation)	The Man Who Turned into a Stick	1975	University of Tokyo Press	個人
63	ドナルド・キーン	安部公房の儀式ざらい	1992		個人
64	Kôbô Abe (text) Donald Keene (translation)	Three Plays By Kôbô Abe	1993	Columbia Univ.Press	個人
65	—	安部公房から贈られた「ソ連人のリトグラフ」	—		個人
66	安部公房、ドナルド・キーン	反劇的人間	1973	中央公論社	個人
67	ドナルド・キーン 訳：松宮史朗	思い出の作家たち 谷崎・川端・三島・安部・司馬	2005	新潮社	個人
68	Donald Keene	Nô: The Classical Theater of Japan	1966	Kodansha International	個人
69	Donald Keene (translation)	Chushingura: The Treasury of Loyal Retainers	1971	Columbia Univ.Press	個人

No.	作家	タイトル	制作年	材質・形状	所蔵
70	井澤元一	黄檗山の総門	1974	油彩・キャンバス	個人
71	井澤 元一	鬼おどり法楽（壬生狂言）	1959	油彩・キャンバス	ギャルリー宮脇
72	ドナルド・キーン	井澤元一宛て書簡一式	-	書簡	個人
73	井澤元一	ドナルド・キーン宛て書簡一式	-	書簡	個人
74	井澤元一	ドナルド・キーン「日本文学散歩」の挿画習作	1975	水彩・インク・紙	個人
75	ドナルド・キーン 訳：篠田一士、挿画：井澤元一	ドナルド・キーンの日本文学散歩 (全21回、『週刊朝日』)	1974-1975	雑誌	個人
76	Donald Keene (text) Motoichi Izawa (illustration)	Some Japanese Portraits (Kōdansha International LTD.)	1978	図書	個人
77	ドナルド・キーン 訳：篠田一士	日本文学散歩（朝日新聞社）	1975	図書	個人
78	編集：西川源重郎 表紙絵・挿画：井澤元一	同志社派 1巻3号	1935.7	雑誌	個人
79	編集：草野昌彦 表紙絵・挿画：井澤元一	同志社派 2巻1号	1936.1	雑誌	個人
80	編集：草野昌彦 表紙絵・挿画：井澤元一	学生評論 2巻1号	1937.5	雑誌	個人
81	ジョン・リード 訳：原光雄 装幀：井澤元一	世界を震撼させた十日間 上・下巻（三・一書房）	1946	図書	個人
82	小熊秀雄 編集：中野重治 装幀：井澤元一	流民詩集（三・一書房）	1947	図書	個人
83	加賀耿二 装幀：井澤元一	綿（三・一書房）	1949	図書	個人
84	井澤 元一	公園の性格	1942	油彩・キャンバス	京都府（京都文化博物館管理）
85	井澤 元一	銚	1957	油彩・キャンバス	ギャルリー宮脇
86	井澤 元一	ホコの民話	1958	油彩・キャンバス	ギャルリー宮脇
87	井澤 元一	京の朝	1964	油彩・キャンバス	ギャルリー宮脇
88	井澤 元一	花を売る白川女（「古都点描」より）	1979	水彩・紙	ギャルリー宮脇
89	井澤 元一	三十三間堂 南大門	1975	油彩・キャンバス	京都府（京都文化博物館管理）
90	井澤 元一	魚柳	1987	油彩・キャンバス	個人
91	井澤 元一	広隆寺 太秦牛祭	1980	油彩・キャンバス	京都府（京都文化博物館管理）
92	井澤 元一	京都三大馬祭（上賀茂神社・競べ馬、下鴨神社・流鏝馬神事、藤森神社・駈ケ馬）	1981	油彩・キャンバス	京都府（京都文化博物館管理）
93	井澤 元一	やすらい祭	1983	油彩・キャンバス	京都府（京都文化博物館管理）
94	井澤 元一	京都点描 船銚（『日本美術工芸』514号）	1981	雑誌	個人
95	井澤 元一	京都点描 ずいき祭（『日本美術工芸』517号）	1981	雑誌	個人
96	井沢 元一 序文：ドナルド・キーン	井沢元一画文集 古都点描（サンプライト出版）	1979	図書	個人
97	井澤 元一	高台寺薬医門（「古都点描」より）	1979	水彩・紙	個人
98	井澤 元一	素顔の舞妓（「古都点描」より）	1979	水彩・紙	個人
99	井澤 元一	竹林の静寂（「古都点描」より）	1979	水彩・紙	個人
100	井澤 元一	東映映画村（「古都点描」より）	1979	水彩・紙	個人
101	井澤 元一	長楽館界限（「古都点描」より）	1979	水彩・紙	個人
102	井澤 元一	蹴上のインクライン（「古都点描」より）	1979	水彩・紙	個人
103	井澤 元一	夜汽車のマッチ箱（「古都点描」より）	1979	水彩・紙	個人
104	井澤 元一	作品ノート	—	—	個人

④ 近衛家 王朝のみやび 陽明文庫の名宝12 宮廷行事と宸翰和歌懐紙

会 期：2022年10月8日（土）～12月4日（日）
 前期展示＝10月8日（土）～11月6日（日）
 後期展示＝11月8日（火）～12月4日（日）
 概 要：陽明文庫は、近衛家に伝わった平安時代以来の貴重な資料を数多く所蔵している。本展では、「宮廷行事と宸翰和歌懐紙」をテーマに、国宝『御堂関白記』をはじめとする歴代当主の古記録に導かれつつ、長い歴史の中で廃絶

した宮廷行事を描く「年中行事絵巻」や、時の天皇が自ら筆を執った和歌懐紙などを通して、宮廷社会を取り巻く風雅な世界を紹介した。

協 力：公益財団法人陽明文庫
 出品資料数：21件
 担当者：佐藤稜介

出品資料一覧

No.	指定	資料名	筆者等	制作年代	頁数	展示期間
1	国宝	御堂関白記 自筆本 長保二年上巻	藤原道長筆	平安時代 長保2年(1000)	1巻	前期
2	国宝	御堂関白記 古写本 長徳四年～長保二年巻		平安時代 11-12世紀	1巻	前期
3	国宝	御堂関白記 自筆本 寛弘九年上巻	藤原道長筆	平安時代 寛弘9年(1012)	1巻	後期
4	国宝	御堂関白記 古写本 長和五年巻		平安時代 11-12世紀	1巻	後期
5		年中行事絵巻 御燈・内宴	原在明筆	江戸時代 天保11年(1840)	1巻	通期
6	重要美術品	中御門天皇和歌懐紙「庭松春久」	中御門天皇筆	江戸時代 18世紀	1幅	通期
7		紫宸殿賢聖障子図(蕭何)	狩野常信筆	江戸時代 宝永6年(1709)	1幅	通期
8		紫宸殿賢聖障子図(太公望)	狩野常信筆	江戸時代 宝永6年(1709)	1幅	通期
9		紫宸殿賢聖障子図(房玄齡)	狩野常信筆	江戸時代 宝永6年(1709)	1幅	通期
10	重要美術品	後桜町天皇和歌懐紙「いく春も」	後桜町天皇筆	江戸時代 宝暦14年(1764)	1幅	通期
11	重要文化財	詠糸桜和歌巻	孝明天皇筆	江戸時代 安政2年(1855)	1巻	通期
12	重要美術品	孝明天皇和歌懐紙「青柳風静」	孝明天皇筆	江戸時代 慶応2年(1866)	1幅	通期
13		近衛忠熙和歌懐紙「冬日同詠三首和歌」	近衛忠熙筆	江戸時代 19世紀	1幅	通期
14	国宝	後二条殿記 応徳元年巻		平安時代 12世紀	1巻	前期
15	国宝	後二条殿記 応徳二年春夏巻		平安時代 12世紀	1巻	後期
16	重要文化財	兵範記 仁安三年三月巻	平信範ほか筆	平安時代 12世紀	1巻	前期
17	重要文化財	兵範記 仁安四年四月巻	平信範ほか筆	平安時代 12世紀	1巻	後期
18	重要文化財	猪熊関白記 正治元年春巻	近衛家実筆	鎌倉時代 正治元年(1199)	1巻	前期
19	重要文化財	猪熊関白記 建仁三年秋巻	近衛家実筆	鎌倉時代 建仁3年(1203)	1巻	後期
20	重要文化財	後法興院記 明応三年記	近衛政家筆	室町時代 明応3年(1494)	1冊	前期
21	重要文化財	後法興院記 明応九年記	近衛政家筆	室町時代 明応9年(1500)	1冊	後期

※所蔵は全て公益財団法人陽明文庫

⑤ 京都洋画新人展 1967-1975

会 期：2022年10月8日（土）～12月4日（日）
 概 要：1967（昭和42）年から1975（昭和50）年まで、主に京都府立文化芸術会館を会場に「京都洋画新人展」が開催された。京都府が所蔵する京都洋画新人展出品作を通して、価値観

が揺らぎ続ける時勢の中で、平面世界や現実社会と対峙し続けた「新人」たちの姿をたどることで、「京都の洋画」を考える機会とした。

出品資料数：15件、その他資料
 担当者：清水智世

出品資料一覧

No.	制作者	資料名	制作年	技法・材質	所蔵
1	麻田 浩	自閉風景	1967	油彩・キャンバス	京都府 (京都文化博物館管理)
2	伊庭 新太郎	海の風	1967	油彩・キャンバス	京都府 (京都文化博物館管理)
3	藤波 晃	1967年11月	1967	油彩・キャンバス	京都府 (京都文化博物館管理)
4	井田 照一	夏 (待つ)	1968	リトグラフ・紙	京都府 (京都文化博物館管理)
5	田邊 守人	人間の構図 (かつぐ)	1968	油彩・キャンバス	京都府 (京都文化博物館管理)
6	畑 千秋	すれちがう白	1968	油彩・キャンバス	京都府 (京都文化博物館管理)
7	斉藤 博	漁夫二人	1969	油彩・キャンバス	京都府 (京都文化博物館管理)
8	西 真	Space Man XY	1969	シルクスクリーン・紙	京都府 (京都文化博物館管理)
9	広重 明	作品69-A-11	1969	シルクスクリーン・紙	京都府 (京都文化博物館管理)
10	木村 光佑	現在位置-存在	1970	シルクスクリーン・オフセット・紙	京都府 (京都文化博物館管理)
11	高安 醇	赤い静物	1970	油彩・キャンバス	京都府 (京都文化博物館管理)
12	谷田 穎郎	追憶	1970	油彩・キャンバス	京都府 (京都文化博物館管理)
13	河邊 保恵	作品 (卓上)	1971	油彩・キャンバス	京都府 (京都文化博物館管理)
14	福島 一二三	幻視の遊泳	1971	油彩・キャンバス	京都府 (京都文化博物館管理)
15	鶴身 幸男	室内	1972	油彩・キャンバス	京都府 (京都文化博物館管理)

⑥ 京都府内の学校所在資料展 2

会 期：2022年12月10日 (土)～2023年1月29日 (日)

概 要：本展覧会では、歴史・考古資料を中心に学校所在の資料を紹介し、併せて学校内のユニークな資料保管・展示場所 (学校博物館) の様子やその場所作りの活動も紹介した。ご参加の学校は20校 (京都大原学院、京都市立北白川小学校、京都市立翔鸞小学校、京都府立鴨沂高等学校、京都市立朱雀第四小学校、京都市立朱雀第六小学校、京都府立北嵯峨高等学校、京都産業大学附属中学校・高等学校、京

都市立光徳小学校、京都市立檜原小学校、京都明徳高等学校、京都府立桃山高等学校、京都市立修学院小学校、京都市立朱雀第三小学校、京都市立九条弘道小学校、京都市立上鳥羽小学校、京都市立桃山南小学校、京都市立向島小学校、京都市立明親小学校、京都市立美豆小学校) で、このうち後8校はパネル展示の形で参加いただいた。

出品資料数：47件

担当者：村野正景

出品資料一覧

番号	資料名	時代	保管・管理
1	光徳小学校郷土室看板	昭和52年度 (1977)	京都市立光徳小学校
2	光徳小学校郷土室説明板	昭和52～53年頃 (1977～78)	京都市立光徳小学校
3	縄文土器	縄文時代	京都市立光徳小学校
4	復元石斧	昭和52年 (1977)	京都市立光徳小学校
5	須恵器	古墳時代	京都市立光徳小学校
6	軒瓦・平瓦	平安時代	京都市立光徳小学校
7	緑釉陶器碗	平安時代	京都市立光徳小学校/京都市考古資料館
8	胞衣壺	江戸時代	京都市立光徳小学校
9	百済寺枳形	江戸時代か	京都市立光徳小学校
10	平安京絵図	昭和時代	京都市立光徳小学校
11	児童収集の考古資料	平安時代	京都市立朱雀第四小学校
12	軒丸・軒平瓦	平安時代	京都市立朱雀第六小学校
13	大原紀勝	明治31年 (1898)	京都大原学院
14	大原のこぼ	明治34年 (1901)	京都大原学院

15	大原名勝地誌	明治36年（1903）	京都大原学院
16	大原村誌 児童用	大正10年（1921）	京都大原学院
17	大原村誌	昭和4年頃（1929）	京都大原学院
18	郷土研究アルバム	昭和27年（1952）	京都大原学院
19	牛 小松均画	昭和時代	京都大原学院
20	赤富士 小松均画	昭和50年頃（1975）	京都大原学院
21	京都大原立体模型	令和3年（2021）	京都産業大学附属中学校・高等学校
22	発掘風景写真	昭和50年頃（1975）	京都府立北嵯峨高等学校
23	校区の歴史散歩	昭和52年（1977）	京都府立北嵯峨高等学校
24	郷土 北嵯峨	昭和53年（1978）～昭和63（1988）	京都府立北嵯峨高等学校
25	郷土研究部作成冊子類（古建築の細部意匠、歴史ハイキング、文化祭パンフレット）	昭和時代	京都府立北嵯峨高等学校
26	崇福寺跡・南滋賀廃寺 瓦	平安～鎌倉時代	京都府立北嵯峨高等学校
27	作山古墳 埴輪	古墳時代	個人蔵
28	峯ヶ塚古墳 埴輪	古墳時代	個人蔵
29	大官大寺跡 軒瓦	奈良時代	個人蔵
30	椋原廃寺 平瓦	奈良時代	京都市立椋原小学校
31	御陵巡拝記念集印	昭和4年（1929）	桃山同窓会
32	国旗塔 写真	昭和6年（1931）頃	桃山同窓会
33	桃山28号・32号	昭和9年（1934）・昭和11年（1936）	桃山同窓会
34	室戸台風跡 写真	昭和9年（1934）	桃山同窓会
35	校舎落成・創立15周年祝賀会 写真	昭和11年（1936）	桃山同窓会
36	山城皇陵巡拝枝折	昭和11年（1936）	桃山同窓会
37	南やましろ 上古中古編	昭和25年（1950）	桃山同窓会
38	校地内出土の金箔瓦	桃山時代	京都府立桃山高等学校/京都府教育委員会
39	縄文土器	縄文時代	京都市立北白川小学校
40	北白川廃寺 軒瓦	白鳳時代	京都市立北白川小学校
41	軒丸瓦	平安時代	京都市立翔鸞小学校
42	京都府地子免許朱印状	明治3年（1870）	京都市立翔鸞小学校
43	西陣織裂貼交屏風	近代	京都市立翔鸞小学校
44	創立150周年記念つづれ織りタペストリー	令和2年（2020）	京都市立翔鸞小学校
45	法成寺跡 瓦	平安時代	京都府立鴨沂高等学校
46	旧制桃山高校から寄贈された瓦	桃山時代	京都府立鴨沂高等学校
47	絵葉書	大正～昭和時代	京都府立鴨沂高等学校

⑦ 続・戦後京都の「色」はアメリカにあった！

会 期：2023年2月4日（土）～2023年4月2日（日）

概 要：本展覧会は、前年度に開催した『戦後京都の「色」はアメリカにあった！』の続きにあたる展覧会で、前回展示同様に京都の占領期、1945年から52年の京都の姿をカラーで残した貴重な写真を当時の資料とともに紹介した。写真はコダクロームなどのカラースライドフィルム（リバーサルフィルム）で撮影したもので、前回展示した作品に加え新たに発見された写真も展示した。さらに関連資料の

展示やフィルムのスライド投影も行い、フィルムに残された戦後京都を鮮やかに感じられる展示となった。

また、本展は京都〈カラー写真〉研究会との調査・研究・企画協力のもと開催した。

主 催：京都府、京都文化博物館
企 画：京都〈カラー写真〉研究会
出品作品数：82件（その他資料多数）
担当者：上村茉莉絵

展示写真一覧

資料 No.	資料名	撮影者	撮影年代	技法	所蔵・管理
1	ジョン・W・ホール関係写真 John W. Hall Photographs	ジョン・W・ホール	1952年	インクジェット・プリント (デジタルデータはリバーサルフィルムからのスキャンによる)	衣川太一コレクション Taichi Kinugawa Collection
2	リチャード・J・ニューハード家関係写真 Richard John Newhard Photographs	リチャード・J・ニューハード	1950 - 1953年頃	インクジェット・プリント (デジタルデータはリバーサルフィルムからのスキャンによる)	衣川太一コレクション Taichi Kinugawa Collection
3	ディミトリー・ボリア関係写真 Georges Dimitri Boria Photograph Collection	ディミトリー・ボリア	1952年	インクジェット・プリント (デジタルデータはリバーサルフィルムからのスキャンによる)	マッカーサー記念館 MacArthur Memorial
4	ロナルド・L・ヴィンゴ関係写真 Ronald L. Vingoe Photographs	ロナルド・L・ヴィンゴ	1946年頃	インクジェット・プリント (デジタルデータはリバーサルフィルムからのスキャンによる)	マッカーサー記念館 MacArthur Memorial
5	レノックス・アンド・キャサリン・ティアニー関係写真 Lennox and Catherine Tierney Photograph Collection	レノックス・ティアニー	1949 - 1952年頃	インクジェット・プリント (デジタルデータはリバーサルフィルムからのスキャンによる)	ユタ大学J・ウィラード・マリオット図書館 J. Willard Marriott Library / University of Utah
6	リチャード・ヒロミチ・コサキ関係写真 Richard Hiromichi Kosaki Photograph Collection	リチャード・ヒロミチ・コサキ	1945年	インクジェット・プリント (デジタルデータはリバーサルフィルムからのスキャンによる)	JICA横浜 海外移住資料館 Japanese Overseas Migration Museum
7	ジェラルド・アンド・レラ・ワーナー関係写真 Gerald and Rella Warner Japan Slids	ジェラルド・ワーナー	1950年	インクジェット・プリント (デジタルデータはリバーサルフィルムからのスキャンによる)	ラファイエット大学スキルマンライブラリー Lafayette College Skillman Library
8	衣川太一コレクション Taichi Kinugawa Collection	未詳	1945 - 1954年頃	インクジェット・プリント (デジタルデータはリバーサルフィルムからのスキャンによる)	衣川太一コレクション Taichi Kinugawa Collection
9	ジョン・D・グリスマン関係写真 John D. Glismann Photographs	ジョン・D・グリスマン	1947 - 1949年頃	インクジェット・プリント (デジタルデータはリバーサルフィルムからのスキャンによる)	個人蔵

参考資料一覧

資料 No.	資料名	年代	所蔵・管理
10	フィルムカメラ キヤノン IIB	1949 - 1952年	個人蔵
11	コダック コダスライドプロジェクター モデル1A	1947 - 1951年頃	個人蔵
12	スライドケースとコダクロームスライド	1950年代	個人蔵
13	コダック コダクローム (リバーサルフィルム)	1950年頃	個人蔵
14	進駐軍向け土産用スプーン	1945 - 1952年頃	個人蔵
15	進駐軍向け観光用パンフレット	1950年頃	個人蔵

4) 3階企画展

①「原派、ここに在り—京の典雅—」

会 期：2023年2月18日（土）～4月9日（日）

50日間

開室時間：午前10時～午後7時30分まで

（入室は30分前まで）

休館日：月曜日（ただし祝日は開館、翌日休館）

会 場：3階展示室

主 催：京都府、京都文化博物館

担当者：有賀 茜

入場者：16,843人（1日平均382人）

【概 要】

江戸時代中期に初代の在中（1750～1837）が創始した原派は、宮中や春日大社などの仕事を引き受け、絢爛豪華で細密な世界を描き出しました。京都府には原派による障壁画が数多く現存しています。それらは公家や天皇・院家の人々の目を楽しませ、また裕福な町人もこぞって作品を求めました。原派を特徴づけるのは、有職故実にととった表現です。在中以降、在正、在明はそれぞれ多くの粉本を受け継ぎながら古代の紋様や装束についての知識を蓄えました。そのため徐々に原家は特異な立場を持つようになり、江戸時代以降の京都画壇で大きな力を有しました。朝廷の御用を世襲的に引き受けた土佐派や鶴澤派と肩を並べ、さらに円山応挙や呉春といった一派さえ圧倒していました。

原派は春日大社の絵所職を株として購入し、門外不出の粉本を手に入れました。また、地下官人という立場から公家との関わりを深め、正倉院の宝物を写すという一世一代の機会を得ています。こうした類稀な経験から、原派の立場はより特別なものになっていきます。当時の絵師にとっては、どれほど特別な粉本を有しているかが作品の出来栄え、そして絵師本人の評判を左右する出来事でした。

本展覧会は、原派の本格的な画業を振り返る第一歩として開催しました。京都の地にいまも息づいている原派のすぐれた作品群を、京都府が所蔵する文書の研究成果とともにご紹介したところ、京都府内外から広く反響をいただき、原派の新たな作品、再発見された作品をご紹介いただきました。

【展覧会の構成と主な出品作品】

第1章 神仏に参ず—古画学習の時代

原在中 神農図 原在義氏蔵

原在中 涅槃図 酬恩庵蔵

原在中 周茂叔愛蓮図 原在義氏蔵

第2章 原派、興隆の時代

原在中・在正・梅戸在貞 墨梅図 北野天満宮蔵

原在中・在明 春花図 泉屋博古館蔵

原在中・在明・在親・在善 福祿寿図

冷泉家時雨亭文庫蔵

第3章 有職故実を学ぶ

原在明 年中行事絵巻 御齋会 陽明文庫蔵

原在明 写真山水 京都市歴史資料館蔵

原在中 三十六峯洛外景観図

京都府蔵（京都文化博物館管理）

第4章 障壁をになう—地下官人の世界へ

原在中 馬図 聖護院門跡蔵

原在中 禁中御産屏風 京都府蔵（京都文化博物館管理）

原在正 孔雀図杉戸 重要文化財 文化庁蔵

原在明 御紋様御絵形元絵 丸紋之類

國學院大學博物館蔵

総出品作品数：49件



「原派、ここに在り」ちらし

出品資料一覽

	作品名	作家名	制作年（和曆）	技法材質	員数	所蔵
1	三面大黒天図	原在中	江戸時代後期	絹本着色	一幅	京都府蔵（京都文化博物館管理）
2	神農図	原在中	文政5年	紙本着色	一幅	原在義氏蔵
3	白髭大明神図	原在中	文化11年	紙本着色	一幅	原在義氏蔵
4	涅槃図	原在中	寛政7年	紙本着色	一幅	酬恩庵蔵
5	周茂叔愛蓮図	原在中	文政3年	絹本着色	一幅	原在義氏蔵
6	七賢人図	原在中	江戸時代後期	絹本墨画	一幅	原在義氏蔵
7	西湖図屏風	原在中	江戸時代後期	紙本着色	六曲一隻	京都府蔵（京都文化博物館管理）
8	大徳寺中天瑞寺宸殿襖図	原在中	江戸時代後期	紙本墨画	一卷	原在義氏蔵
9	花鳥図屏風	原在中	文政12年	紙本着色	六曲一双	聖護院門跡蔵
10	墨梅図	原在中・原在正・梅戸在貞	在中・在正 享和2年 在貞大正8年	絹本墨画	三幅対	北野天満宮蔵
11	春花図	原在中・原在明	享和4年～文化13年	絹本着色	一幅	泉屋博古館蔵
12	福祿寿図	原在中・原在明・原在親・原在善	江戸時代後期	絹本着色	一幅	冷泉家時雨亭文庫蔵
13	和歌懷紙	冷泉等覚	文化12年	紙本墨書	一幅	原在義氏蔵
14	樹石図	原在中・原在正・原在明	江戸時代後期	絹本墨画	一幅	原在義氏蔵
15	瀧に桜図	原在明	江戸時代後期	絹本着色	一幅	原在義氏蔵
16	滝図	原在正	江戸時代後期	紙本着色	一幅	聖護院門跡蔵
17	年中行事絵巻 御齋会	原在明	江戸時代後期	紙本着色	一卷	陽明文庫蔵
18	年中行事絵巻 目録	原在明	江戸時代後期	紙本着色	一枚	陽明文庫蔵
19	七夕花扇図	原在明	江戸時代後期	絹本着色	一幅	陽明文庫蔵
20	七夕花扇使図	原在明	江戸時代後期	絹本着色	一卷	陽明文庫蔵
21	衣		江戸時代後期		一領	陽明文庫蔵
22	三十六峯洛外景観図	原在中	江戸時代後期	紙本着色	一卷	京都府蔵（京都文化博物館管理）
23	酬恩庵庭園図	原在明	文化2年	紙本着色	一卷	酬恩庵蔵
24	東方朔・群亀図衝立	原在中・原在明	江戸時代後期	絹本着色	一基	冷泉家時雨亭文庫蔵
25	写真山水	原在明	嘉永7年 原在照奥書	紙本墨画	一冊	京都市歴史資料館蔵
26	山水写生画帖	原在明	江戸時代後期	紙本墨画	一冊	京都市歴史資料館蔵
27	淀八幡宇治天王寺住吉 真写	原在照	万延元年	紙本墨画	一冊	京都市歴史資料館蔵
28	山水写生画帖	原在照	明治2年	紙本墨画淡彩	一冊	京都市歴史資料館蔵
29	正六位下叙任祝書状	大綱宗彦	江戸時代後期	紙本墨書	一幅	原在義氏蔵
30	原在照推任之事		江戸時代後期	紙本墨書	一幅	原在義氏蔵
31	新嘗祭図	原在明	江戸時代後期	絹本着色	一幅	京都府蔵（京都文化博物館管理）
32	修学院御山荘行幸次第	原在明	江戸時代後期	紙本着色	二幅対	京都府蔵（京都文化博物館管理）
33	行列次第	原在明	文政7年	紙本墨書	一幅	京都府蔵（京都文化博物館管理）
34	還城舞図	原在明	江戸時代後期	絹本着色	一幅	京都府蔵（京都文化博物館管理）
35	馬図	原在中	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	十面	聖護院門跡蔵
36	禁中御産屏風	原在中	江戸時代後期	紙本着色	六曲一双	京都府蔵（京都文化博物館管理）
37	孔雀図杉戸	原在正	江戸時代後期	木地着色	二面	文化庁蔵
38	唐獅子絵馬下絵	原在明	江戸時代後期	紙本墨画	一枚	京都府蔵（京都文化博物館管理）
39	唐鞍絵馬下絵	原在明	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	一枚	京都府蔵（京都文化博物館管理）
40	蹴鞠図	原在明	江戸時代後期	絹本着色	三幅対	京都府蔵（京都文化博物館管理）
41	題蓬萊山図	大江成美	文政12年	紙本墨書	一幅	原在義氏蔵
42	書	岩垣東園	天保6年	紙本墨書	一幅	原在義氏蔵
43	御紋様御絵形元絵 丸紋之類	原在明	江戸時代後期	紙本着色	一冊	國學院大學博物館蔵
44	御紋様御絵形元絵 立涌禪続 ギ紋之類	原在明	江戸時代後期	紙本着色	一冊	國學院大學博物館蔵
45	円覚・真清大婦人肖像	原在敬	江戸時代後期	絹本着色	二幅対	京都府蔵（京都文化博物館管理）
46	岳陽樓図	原在照	天保7年	絹本着色	一幅	原在義氏蔵

47	安政度禁中御造営御用画写一	原在照	安政元年ごろ	紙本著色	一卷	原在義氏蔵
48	安政度禁中御造営御用画写二	原在照	安政元年ごろ	紙本著色	一卷	原在義氏蔵
49	一枚起請文	原在中	文政13年	絹本著色	一幅	原在義氏蔵
参考	原森翁像	原在中		紙本著色	一幅	個人蔵

5) 1階企画展

①「五劫のすりきれ」 今村遼佑と小宮太郎展

会 期：2022年9月24日（土）～10月10日（月・祝）
（15日間）

概 要：「五劫のすりきれ」とは、下界に降りてきた天女の羽衣が巨大な岩の表面を撫で、岩が擦り切れるまでの時間、いわば永遠に近い時間を意味し、日常的な事柄と非日常の世界とを結び付けられるものと認識される。今村遼佑と小宮太郎の作品は、私たちが日常的に目にする物にささやかな操作を施すことによって作られており、慣れ親しんだ日常的な風景としっかりとつながりながらも、その中に、今ここにあるものとは異なった時空間のスケールを持った風景を切り開いている。

会 場：京都文化博物館 1階会場

開室時間：午前10時～午後7時30分

文化庁「ARTS for the future! 2」補助対象事業

キュレーター：植田憲司、はがみちこ、安河内宏法

入場者数：361人（1日平均24人）

担当者：洲鎌佐智子



② 藤 浩志展「龍の存在を無視できない」

会 期：2022年11月29日（火）～12月11日（日）

概 要：学生時代を京都で過ごした藤浩志は、家庭で不要となったおもちゃの物々交換システム「かえっこバザール」を展開し、増え続けるプラスチック製品の問題、循環型社会や地域とアートの関係性を提起してきた。本展では、こうした問題意識とも根底でつながっている、藤氏の学生時代に強い関心を持っていた「龍」にまつわる作品を中心に紹介する。

（プレオープンイベント）

展覧会オープン直前の開場で、出品作家の藤浩志自身による簡単なフロアレクチャー付きの内覧会イベントを開催。（事前申込不要）

日 時：2022年11月27日（日）午後4時～午後5時30分

会 場：京都文化博物館 1階会場

文化庁「ARTS for the future! 2」補助対象事業

キュレーター：植田憲司

入場者数：1347人（1日平均113人）

担当者：洲鎌佐智子



6) ぶんぱく京都講座

①「鎌倉武士の物語と京都」

日 時：2022年5月14日（土）午後1時30分～3時
講 師：橋本 章
参加者数：18名
概 要：鎌倉時代に活躍した武士たちの動向について概観し、源頼朝が近代以降の国家観形成の中

で英雄的に取り扱われていくのに対して、北条一族の評価が低く抑えられたことを指摘しつつ、朝敵としての北条義時の事績が中世から近代まで顧みられなかったことについて言及した。

② 井澤元一が描く京都ー独立美術京都研究所時代からドナルド・キーンとの交流まで

日 時：2022年10月1日（土）午後1時30分～3時
講 師：清水智世
参加者数：11名
概 要：京都をモチーフに描き続けた画家・井澤元一。ドナルド・キーンの生誕100年を記念する「ド

ナルド・キーンと画家・井澤元一」展の開催に合わせ、本講座では、展示では紹介しきれなかった井澤の画業と描かれた作品を、その時代背景を通して読み解くことで、その意義と可能性について考察した。

③ 学校博物館ーなぜ学校内に博物館が作られたか

日 時：2022年12月10日（土）午前10時～11時30分
講 師：村野正景
参加者数：6名
概 要：郷土資料や考古遺物、美術品等を収蔵・展示する施設が多くの学校に設置されている。こ

のような「学校博物館」は京都市内の小学校では約6割に確認されている。本講座では、普段非公開の「学校博物館」について特別な許可をいただき、その成立の経緯や展示品の魅力について紹介した。

④ 経文を写すー筆に託した祈りの世界ー

日 時：2023年1月14日（土）午前10時～11時半
講 師：佐藤稜介
参加者数：6名
概 要：当館総合展示「信仰の美ー筆に託した祈りの世界ー」の開催に合わせて実施した本講座で

は、仏教の伝来以降、貴賤の間で盛んに行われた、「写経」という営みを題材に、写経の歴史上重要な作品を紹介しつつ、総合展示に出品した各資料が制作された時代背景とその歴史上の位置づけを検討した。

Ⅲ - 2 特別展示

① 鈴木敏夫とジブリ展

会 期：2022年4月23日（土）～6月19日（日）
〔52日／58日〕
開室時間：午前10時～午後6時まで
*金曜日は午後7時30分まで（入室は30分前まで）
休館日：月曜日。ただし4月25日（月）、5月2日（月）
は臨時開館。
会 場：4階・3階展示室
入場料：一般・大学生1,600円（1,400円）、中・高校生
1,300円（1,100円）、小学生1,000円（800円）
※（ ）内は前売券、及び20名以上の団体料金
主 催：京都府、京都文化博物館、読売テレビ、読売
新聞社、キョードー関西
特別協賛：au（KDDI株式会社）
協 賛：図書印刷
特別協力：スタジオジブリ
企画協力：ムービック・プロモートサービス、博報堂
DYメディアパートナーズ
展示協力：ア・ファクトリー
後 援：FM802、FM COCOLO
担当者：村野正景、森脇清隆
入場者：165,744人（1日平均3,187人）

【概 要】

ジブリ誕生の秘密がわかる！《書籍で紐解く鈴木敏夫》

高畑勲・宮崎駿両監督と共に、世界を代表する数々のアニメーション映画を世に送り出してきたスタジオジブリ・プロデューサーの鈴木敏夫。本展では、戦後の名古屋で育ち、昭和から平成、令和の時代を駆け続けている鈴木が「読んできた本」と「その時代背景」に注目しました。子供時代から読んできた漫画や小説、青春時代を経て、社会に出てから今もなお旺盛な好奇心で読み続けている歴史本やノンフィクション、評論

本などを通し、鈴木がその作品や作家からどんな影響を受け、自身の思考術へとつなげていったのか、そしてどのように作り手と向き合い、編集者、プロデューサーとしてスタジオジブリ映画を確立していったのか。この答えを鈴木敏夫の血肉となった約8,800冊の書籍や映画作品を通じて探りました。

【展示会の構成と主な出品作品】

- 第1章 四畳半の原風景～少年時代の思い出～
- 第2章 東京へ～激動の大学生活～
- 第3章 アニメージュへの道～雑誌記者・編集者として～
- 第4章 時代を読む眼～ジブリとメガヒットはこうして生まれた～
トトロコーナー、吊り文字コーナー
- 第5章 プロデューサーからクリエイターへ～書家、作家としての多彩な活動～
湯婆婆おみくじコーナー
- 第6章 鈴木敏夫の本棚 蔵書8,800冊を一挙公開



「鈴木敏夫とジブリ展」
ちらし

② 連載完結記念 ゴールデンカムイ展

会 期：2022年7月9日（土）～9月11日（日）
〔56日／65日〕
開室時間：午前10時～午後6時まで
*金曜日は午後7時30分まで（入室は30分前まで）

休館日：月曜日（ただし祝日は開館、翌日休館）
会 場：4階・3階展示室
入場料：一般・大学生1,500円（1,300円）、中・高校生
1,200円（1,000円）、小学生900円（700円）

*（ ）内は前売券、及び20名以上の団体料金
 主催：京都府、京都文化博物館、読売新聞社
 原作：野田サトル『ゴールデンカムイ』
 企画協力：週刊ヤングジャンプ編集部
 企画制作：ゴールデンカムイ展製作委員会
 後援：(公社)京都府観光連盟、(公社)京都市観光協会、KBS京都、エフエム京都
 担当者：橋本章、洲鎌佐智子
 入場者：98,395名（1日平均1,757名）

【概要】

明治後期の北海道・樺太を舞台に、漫画家・野田サトルが描く大人気漫画『ゴールデンカムイ』。この度、連載完結を記念し、冒険・歴史・文化・グルメ・狩猟といった本作品の魅力を凝縮した大規模展覧会を開催した。

本展は、国内の各賞を受賞し、国際的な評価も高い和風闊鍋ウエスタン、『ゴールデンカムイ』の世界を余すことなく味わえる展覧会で、120点を超えるイラストのほか、作中に登場したアイヌ民族の民具資料をはじめ、関連資料を多数展示。金塊争奪戦を発端とした元軍人の杉元佐一やアイヌの少女アシパらの躍動を体感、2人がたどった旅路を追体験できる空間をお届けした。

【展覧会の構成】

- 第1ゾーン「金塊争奪戦の開幕」
- 第2ゾーン「24人の刺青囚人」
- 第3ゾーン「命を繋ぐものたち」

③ 新選組展2022－史料から辿る足跡

会期：2022年10月1日（土）～11月27日（日）
 [50日/58日]
 開室時間：午前10時～午後6時まで
 *金曜日は午後7時30分まで(入室は30分前まで)
 休館日：月曜日（ただし10月10日は開館、翌日休館）
 会場：4階・3階展示室
 入場料：一般1,500円(1,300円)、大高生1,000円(800円)、中小生500円(300円)
 *（ ）内は前売券、及び20名以上の団体料金
 主催：京都府、京都文化博物館、読売新聞社、NHK京都放送局
 協賛：岩谷産業、きんでん、清水建設、大和ハウス

- 第4ゾーン「それぞれの役目」
- 第5ゾーン「黄金色名画廊」

【出品作品数】

134点

【関連行事】

- ①描き下ろしミニ色紙プレゼント
 (来場者に曜日替わりで野田先生描き下ろしのミニ色紙をプレゼント)
- ②脱獄王白石由竹のお面をプレゼント
 実施日：7月15日(金)・7月29日(金)・8月12日(金)・8月26日(金)・9月9日(金)
- ③鶴見中尉のお面をプレゼント
 実施日：7月22日(金)・8月5日(金)・8月19日(金)・9月2日(金)



「ゴールデンカムイ展」
 ちらし

工業、非破壊検査
 特別協力：日野市ふるさと文化財課（新選組のふるさと歴史館）
 後援：(公社)京都府観光連盟、(公社)京都市観光協会、KBS京都、エフエム京都
 担当者：西山 剛、佐藤稜介
 入場者：55,932人（一日平均 1,118人）

【概要】

新選組は、文久3年2月4日に江戸で結成された浪士組を母体とする政治集団で、会津藩に所属して京都市中の治安維持を担う一方、局長・近藤勇は一橋・会

津・桑名（一会桑）勢力の有力な周旋方として、尊王の実現を目指して政治活動に奔走しました。戊辰戦争では、旧幕府側に属して最後まで戦い抜き、東北、箱館（函館）へと転線し懸命に激動の時代を躍動しました。

このような新選組の姿は、今でも人々を魅了し、アニメ、ドラマ、映画などを通じて、我々に常に身近な存在として親しまれています。

この一方で、近年は歴史学分野でも新選組やその周辺の調査・研究が進み、新たな資料の発掘、史実の掘り起こしが進みました。

本展覧会では、近年までに明らかになった新知見を積極的に生かし、また新たな調査を行い、史実としての新選組の実態に迫りました。

【展覧会の構成】

- プロローグ 尊王攘夷の幕末
- 第1章 京都守護職と多摩の草莽
- 第2章 新選組誕生－幕末の京都政局－
- 第3章 池田屋事件と一会桑勢力
- 第4章 戊辰戦争へ
- 第5章 土方歳三の新選組と会津戦争
- エピローグ それぞれの戦後

【出品作品数】

198点

【関連行事】

- (1) 講演会「政治集団としての新選組を考える」
講師：三野行徳氏（昭和女子大学 専任講師）
日時：2022年10月2日（日）10:30～12:00
場所：京都文化博物館 3階フィルムシアター
参加者数：92名
- (2) 講演会「幕末京都の社会史 行幸・大火・新選組」
講師：西山 剛（当館学芸員）
日時：2022年10月8日（土）10:30～12:00
場所：京都文化博物館 3階フィルムシアター
参加者数：100名
- (3) 講演会「近藤勇の二人の師－清河八郎・芹澤鴨」
講師：中村武生氏（京都女子大学等 非常勤講師）
日時：2022年10月15日（土）10:30～12:00
場所：京都文化博物館 3階フィルムシアター
参加者数：97名
- (4) 歴史散策 新選組
ゆかりの地めぐり
講師：西山 剛、佐藤 稜介（当館学芸員）
日時：2022年11月5日（土）
場所：京都市内各所（壬生寺・八木 邸ほか予定）
参加費：1,500円
参加者数：18名



「新選組展2022－史料から辿る足跡」ちらし

④ 「Kyoto Art for Tomorrow 2023 －京都府新鋭選抜展－」

会 期：2023年1月21日（土）～2月5日（日）
〔14日／16日〕
開室時間：午前10時～午後6時まで
*金曜日は午後7時30分まで（入室は30分前まで）
休館日：月曜日（ただし祝日は開館、翌日休館）
会 場：4階展示室、別館ホール
入場料：（4階展示室）一般500円（400円）、大高生
400円（320円）、高校生以下無料
（別館ホール）無料
*（ ）内は20名以上の団体料金
主 催：京都府、京都文化博物館
後 援：京都新聞、朝日新聞京都総局、毎日新聞京都
支局、読売新聞京都総局、産経新聞社京都総

局、日本経済新聞社京都支社、NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都、京都商工会議所、京都日本画家協会、京都工芸美術作家協会、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

担当者：植田彩芳子
入場者：15,176人（1日平均 1,084人）

【概要】

本展は、京都を中心に活動する新進若手作家を紹介し、その創造的な作品を京都から積極的に発信しようとする企画である。また別館ホールでは昨年度新鋭展

最優秀賞受賞者の藤井俊治氏による特別出品「仮縫い」を紹介した。

【出品作家】

厚地朋子、荒川朋子、粟坂萌子、井上舞、岩泉慧、岩坂佑史、岩橋優花、大石茉莉香、オギハラフウカ、亀田ひなた、木田陽子、こしまともみ、後藤吉晃、シュライナー・コール、白井聡子、鈴木健太郎、たけもとのか、玉井佐知、堤加奈恵、堂東由佳、長田綾美、中村百花、西蘭静、西久松友花、野原万里絵、野村由香、平野泰子、松井亜希子、松岡柚歩、宮原野乃実、むらたちひろ、森田志宝、森山佐紀、八木佑介、山下茜里、山田千尋、山西杏奈、山羽春季、山本紗佑里、山本真澄（五十音順、敬称略）

【特別出品作家】

藤井俊治「仮縫い」

2009年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了。近年はティアラ、鏡、ヴェール、半透明のイメージなどを箔・雲母・油絵の具等の多様な画材を用いて制作し、絵画のもつ装飾性や奥行きを模索する平面作品を発表。主な個展に2018年「光の層-laminate the lights-」、2020年「半透明のドレープ translucent drape」。主なグループ展に2018年「VOCA展2018 現代美術の展望-新しい平面の作家たち-」、2022年「Kyoto Art for Tomorrow2022 京都府新鋭選抜展」等。主な受賞に2004年シェル美術賞2004グランプリ、2011年滋賀県次世代文化賞、2016年藝文京展2016 京都商工会議所会頭賞、

2018年VOCA展2018 VOCA奨励賞、2021年大津市文化奨励賞、2022年Kyoto Art for Tomorrow2022 京都府新鋭選抜展 最優秀賞。

【出品作品数】

40点、特別出品作1点

【関連行事】

〔1〕特別展示作家によるスペシャルトーク

日時：1月21日（土）10時30分～12時
会場：3階フィルムシアター、別館ホール
参加人数：32名

〔2〕出品作家によるギャラリートーク

日時：1月28日（土）、2月4日（土）両日とも14時～15時
会場：4階展示室
参加人数：それぞれ53名、82名



「Kyoto Art for Tomorrow 2023 - 京都府新鋭選抜展 -」ちらし

⑤ 知の大冒険—東洋文庫 名品の煌めき—

会期：2023年2月21日（火）～4月9日（日）
〔42日／48日〕

開室時間：午前10時～午後6時まで

*金曜日は午後7時30分まで（入室は30分前まで）

休館日：月曜日（ただし祝日は開館、翌日休館）

会場：4階展示室

入場料：一般1,400円（1,200円）、大高生900円（700円）、中小生500円（300円）

※（ ）内は前売券、及び20名以上の団体料金

主催：京都府、京都文化博物館、読売新聞社

監修：公益財団法人東洋文庫

担当者：村野正景、清水智世

入場者：10,772人（1日平均256人）

【概要】

東洋文庫（東京都文京区）は、1924年に三菱の第三代社長・岩崎久彌によって設立された、東洋学分野でのアジア最大級の研究図書館であり、世界五大東洋学研究図書館の一つです。本展は東洋文庫の約100万冊の蔵書の中から、国宝、重要文化財をはじめとする貴重な資料約120件を展示しました。教科書で見たことがある有名な書物や地図、絵画のほか、あまり知られていない文字や言語、服装、動植物など、新たな「知」との出会いが待つ東洋世界を紹介しました。

プロローグでは、西洋人がつくった地図や、くさび形文字（ハムラビ法典）、ヒエログリフ（ヒエログリフ辞典）といった紀元前の昔から今日まで生み出されてきた文字を通して、「東洋」が指し示す地域的な広がり、そこで育まれた多様で魅力あふれる文化を紹介しました。第1章では、東洋各地の文化や風土の特徴的な一面を紹介している百科事典、歴史書、地理書、探検記から、孔子、万里の長城、ガンダーラ、オスマン帝国といった東洋世界の魅力を、中国、朝鮮、東南アジア、インド、そしてイスラーム世界の順に巡る構成としました。第2章では、マルコ・ポーロの『東方見聞録』をはじめ、フランス王妃マリー・アントワネットが読んだと伝わる書籍や、ナポレオンが編纂を指示した漢字辞典などにより、主に西洋の人々が東洋を訪れ、見聞きし、体験した事柄を記した書物を元に、東西世界の交わりを紹介しました。第3章では、日本が「倭」として紹介されている中国の歴史書『魏志倭人伝』から、昭和初期に翻訳された『源氏物語』まで、日本を取り巻く世界の記録をひもとき、「日本」がいかにな生まれ、形づくられ、そして変化していったのか、その道のりをたどりました。エピローグでは、創立100年以上の間に、東洋文庫の貴重な蔵書を襲った数々の危機と文化財を守るためにその危機に立ち向かった人々の記録を紹介しました。経年劣化、自然災害、戦乱など今に伝わる書籍や地図、絵画などは、度重なる危機を乗り越えてきたため、鑑賞することができることをエピローグのメッセージとしました。

【展覧会の構成と主な出品作品】

プロローグ

- ・ウィレム・ブラウ、ヨアン・ブラウ『大地図帳』
1648-65年 アムステルダム刊

第1章 東洋の旅

- ・金榜筆『殿試策』 1772年（清代）
- ・『朝鮮風俗図』 江戸時代後期
- ・『越南婚葬行列図』 19世紀末-20世紀初頭

第2章 西洋と東洋 交わる世界

- ・マルコ・ポーロ口述、ルスティケッロ著『東方見聞録』 1602年 ベネチア刊
- ・『マテオ・リッチと徐光啓』 1667年 アムステルダム刊

第3章 世界の中の日本

- ・石川流宣『大日本全図』 1720（享保5）年刊
- ・フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト『日本動物誌』 1833-50年 ライデン刊

エピローグ

- ・『高潮に関連して―復旧作業記録1917-19 出勤簿』 1917-1919年

【出品作品数】

114件

【関連行事】

(1) 講演会「知の大冒険攻略ガイド―名品で旅する東洋世界―」

講師：岡崎礼奈氏（公益財団法人東洋文庫 普及展示部 学芸課長・主幹研究員）

篠木由喜氏（公益財団法人東洋文庫 普及展示部 研究員・学芸員）

日時：2023年3月21日（火・祝）午前10時30分～12時

場所：3階フィルムシアター

参加費：無料（ただし本展覧会入場券〈半券可〉が必要）

参加者：100名

(2) トンパ文字ワークショップ

講師：森田直子

日時：2023年2月25日（土）

①午前11時～12時、②午後1時30分～2時30分

場所：7階サロン

材料費：500円

参加費：無料（ただし本展覧会入場券〈半券可〉が必要）

対象：小学5年生以上

参加者：8名

(3) 展覧会担当学芸員によるギャラリートーク

日時：2023年2月23日（木・祝）、3月14日（火）

各日午後1時30分～2時

場所：4階展示室

参加費：無料（ただし当日の入場者に限る）

参加者：95人（2/23）、55人（3/14）



「知の大冒険―東洋文庫名品の煌めき―」ちらし

2022(令和4)年度特別展一覧

展覧会名	会期	日数	入場者数	一日平均	形態
鈴木敏夫とジブリ展	2022年4月23日～6月19日	52	165,744	3,187	共催
ゴールデンカムイ展	2022年7月9日～9月11日	56	98,395	1,757	共催
新選組展2022	2022年10月1日～11月27日	50	55,932	1,118	共催
Kyoto Art for Tomorrow2023 ー京都府新鋭選抜展ー	2023年1月21日～2月5日	14	15,176	1,084	委託
知の大冒険ー東洋文庫 名品の煌めきー	2023年2月21日～4月9日	42	10,772	256	共催
計5件					

Ⅲ-3 映画

1) 常設上映

上映期間	テーマ	作品名	日数	回数	鑑賞者
2022.4.1～4.22	ジャパニーズ・ロード・ムービーー旅する時代劇	弥次喜多善光寺詣り／臉の母／続清水港／東海水滸伝（改題：東海二十八人衆）／次男坊鴉／風と女と旅鴉／濡れ髪三度笠／臉の母／関の弥太っぺ／新座頭市破れ！唐人剣	19	37	1,159
2022.4.23～6.19	【鈴木敏夫とジブリ展関連映画上映】みんな映画が好きだった、僕も。ー京都府所蔵映画作品より鈴木敏夫セレクション	座頭市物語／人情紙風船／生まれてはみたけれど／風の中の子供／無法松の一生／素晴らしき日曜日／西鶴一代女／野菊の如き君なりき／夫婦善哉／浮雲／陽のあたる坂道／愛と希望の街／にあんちゃん／妖刀物語 花の吉原百人斬り／ぼんち／雁の寺／切腹／忍びの者／臉の母／関の弥太っぺ／非行少女／燃えよ剣／けんかえれじい／肉弾／男はつらいよ／仁義なき戦い／サンダカン八番娼館 望郷／ある映画監督の生涯 溝口健二の記録／大地の子守歌／はなれ瞽女おりん／泥の河／ * 4月22日夜の部に〈プレ上映＋スペシャルトーク〉を開催、上映作品『座頭市物語』ゲスト：鈴木敏夫、川上量生、依田謙一 * 5月13日に〈特別上映イベント〉として『千と千尋の神隠し』を上映	52	105	4,400
2022.6.21～7.18	EUフィルムデイズ2022 映画でつながるヨーロッパ	『言葉と行動』『ホーホヴァルト村のマリオ』『ルッツ 海に生きる』『老人』『走れ、ウエ！走れ！』『イカした人生』『わたしはダフネ』『アレクシ』『落とし穴』『サンレモ』『ピサの約束』『TOVE / トーベ』『オライの決断』『恋人はアンバー』『アントニオとレオ』『彼女の仕事』『サ・モール』『プスタ（大平原）に生きる馬たち』『ジャンプ』『サンクチュアリ』『もう雪は降らない』『オーナーズ』『近くの他人』『ユキとの写真』『02作戦』『神に仕える者たち』『リカルド・レイスの死の年』	25	53	2,999
2022.7.20～8.3	祇園祭と京の文化・伝統工芸	『京象嵌』『京くみひも』『截金（斉田梅亭（日本工芸会））』『京時絵』『車大工』『文化財を守る人たち』『祇園祭』『古都』『祇園囃子』『維新の曲』	13	26	749
2022.8.5～8.7 *8.4は準備日のため休映	第28回 京都国際子ども映画祭	『コメディ・クイーン』『ヒマラヤの通学路』『アイヌモシリ』『ミラ』『短編プログラム』『ステップバイステップ』『ブルーカレー』『ブラック・ウォータースライダー』『旅立ち』『ありのまま』『プリトリー』『キュービッド』	3	9	387
2022.8.9～9.11	【没後10年】山田五十鈴と淡島千景を偲ぶ	『国士無双』『折鶴お千』『祇園の姉妹』『鶴八鶴次郎』『大江戸五人男』『女ひとり大地を行く』『暴れん坊街道』『蜘蛛巣城』『麦秋』『命美わし』『にごりえ』『夫婦善哉』『早春』『日本橋』『螢火』	27	53	2,054
2022.8.14	大野松雄 × 谷川俊太郎『聞いてきた音これから聞く音』対談ムービー上映会 in 京都	『聞いてきた音これから聞く音』	1	1	28
2022.9.2～9.4	【第42回 日本映像学会関西支部夏期映画ゼミナール2022年】特集・東映京都撮影所ースターシステムから実録路線をこえてー	『笛吹童子第一部どくろの旗』『ひばり捕物帖 かんざし小判』『新吾十番勝負』『妖刀物語 花の吉原百人斬り』『関の弥太っぺ』『893 愚連隊』『緋牡丹博徒 お竜参上』『仁義なき戦い』	3	8	435
2022.9.13～9.30	【生誕120年記念】五所平之助監督初期作品集	『マダムと女房』『伊豆の踊子』『人生のお荷物』『朧夜の女』『花籠の歌』『木石』	9	18	641
2022.10.1～10.28	【新選組展2022記念上映】映画に見る幕末京都の青春群像	『鞍馬天狗 角兵衛獅子の巻』『花ちりぬ』『その前夜』『京洛の舞』『維新の曲』『新選組始末記』『暗殺』『幕末残酷物語』『燃えよ剣』『幕末』『竜馬暗殺』『竜馬を斬った男』	23	46	1,910

2022.10.22	京都ヒストリカ国際映画祭×立命館大学映像学部 第14回京都ヒストリカ国際映画祭プレイベント ～中国アニメ映画への招待～	『白蛇：縁起』『羅小黑戦記 ぼくが選ぶ未来』	1	2	101
2022.10.29～11.6	第14回 京都ヒストリカ国際映画祭	『鬼平外伝 正月四日の客』『ベネデッタ』『アポロンの地獄』『若き海賊—ポローニヤのバソリーニ』『阿修羅城の瞳』『夜叉ヶ池』『魔界転生』『旗本退屈男』『オベレッタ狸御殿』『冬の日』『小ぬか雨』『里見八犬伝』『ブレイブ—群青戦記—』『どろろ』『隠れ家』『無限の住人』『マリッジカウンセラー』『オールドヘンリー』『葉屋のメルキオール』『チャイコフスキーの妻』『鬼平外伝 熊五郎の顔』『殺すな』『峠 最後のサムライ』 上映以外に開会式、アフタートーク等あり	8	23	1,186
2022.11.8～12.1	【生誕110年+没後10年】映画監督新藤兼人特集	『愛妻物語』『原爆の子』『悲しみは女だけに』『第五福竜丸』『裸の島』『縮図』	13	26	804
2022.11.19～11.27	第44回ぴあフィルムフェスティバル in 京都	『ポラン』『the Memory Lane』『デカメロン』『カンタベリー物語』『水槽』『暮れる』『アラビアンアンナイト』『アクト』『幽霊がいる家』『大きな鳥と小さな鳥』『アポロンの地獄』『豚小屋』『奇跡の丘』『私立探偵演マイク 名前のない森』『路地へ 中上健次の残したフィルム』『赤ずきん』『愛の集会』『マンマ・ローマ』『石川君、行け!!』『バンド』『ロコバグ』『わたしたちの家』『ザ・ビッグ・ビート:ファッツ・ドミノとロックンロールの誕生』『スケアリーフレンド』『Lock Up and Down』『アッカトーネ』『瀉血』『MAHOROBA』『ふちしすこ』『最も無害で、あまりにも攻撃的』『J005311』『彼は誰時(かわたれどき)』『すべての夜を思いだす』	8	24	834
2022.12.2～12.4	京まちなか映画祭2022	『残菊物語』『お嬢さん乾杯』『他人の顔』『魚の目』『喜劇 駅前旅館』『KAFE 工船にオクノ修がやってきた日』 上映と作品推薦者のトーク	3	6	216
2022.12.6～12.22	忠臣蔵と義士外伝特集	『実録忠臣蔵』『四十八人目』『血煙高田の馬場』『元禄快拳余譚 土屋主税』『赤垣源蔵』『忠臣蔵』『元禄美少年記』『修羅』	14	28	806
2022.12.18	京都建築映像祭2022	『語る建築家』『Playback』『コロッサル・ユース』	1	3	92
2022.12.23	EU フィルムデイズ2022特別上映	『My Thoughts are Silent』	1	2	55
2022.12.24～12.25	UNDERGROUND CINEMA FESTIVAL' 22 サイケデリックと越境の旅	『Four』『Creation』『Head Games』『Between the Frame』『end』『Salome's Child』『No Game』『Great Society』『Yip-Out』『S No.1』『天路遍歴の神話』『リンガラジャ〜空なるものの愛に捧げる詩』『ザ・タージ・マハル・トラベラーズ〜「旅」について』『味覚革命論序説』『光風』『GOOD-BYE』『スーパードキュメント 前衛仙術』『ハイバイ・ラブ』『アンダーグラウンド・イン・N.Y.』	2	7	178
2023.1.7～2.2 ※24日(火)は大雪のため夜の部の上映中止	唄う映画〜現代劇篇・時代劇篇	『浅草の灯』『愛染かつら(総集編)』『破れ太鼓』『君の名は 第一部』『君の名は 第二部』『君の名は 第三部』『ビルマの堅琴』『雪之丞変化』『エノケンのちゃっつきり金太』『鴛鴦歌合戦』『虎の尾を踏む男達』	22	43	1,345
2023.1.20	日本映画テレビ技術協会京都支部・大阪支部共催 「映像技術賞受賞作品を見る会」	『孤狼の血 Level 2』『がちゃこん〜近江鉄道の情景〜』『MBSドキュメンタリー映像' 21「いつか帰れる日まで」〜異国で願うミャンマーの民主化〜』	1	2	174
2023.2.3～2.5	第25回 京都国際学生映画祭	『The Falling Angels』『Other Half』『The Seine's Tears』『Fatjona』『サカナ島 胃袋三腸目』『The things we hoped last summer』『SHELTER』『Jitterbug』『Identibye』『帰る』『THE OPPONENT』『The Woman with the Dog』『ただいま』『Where No One Lives』『Restless Is the Night』『Lunchbox』『イエローキッド』『Episodic memory』『レスポールが重た過ぎたんだろ』『ナイアガラ』『金魚の一生』『お父さんのバックドロップ』『EDMOND』『Under the Sun』	3	10	263
2023.2.15～2.17	戦前科学映画特集	『機関車C-57』『或日の干潟』	3	5	85
2023.2.15	文化庁 ndjc 若手映画作家育成プロジェクト 2022年度合評上映会	『うつぶせのまま踊りたい』『ラ・マヒ』『サボテンと海底』『デブリーズ』 *夜の部のみの上映	1	1	48
2023.2.18～3.1	アカデミー・フィルム・アーカイブ映画コレクション	『アンニー可愛や』『きゅうり畑のかかし』『荒馬と女』『ザ・パーソナルズ 黄昏のロマンス』『予備選挙』『クイーン・オブ・ダイヤモンド』『ブラック・アンド・タン』『草原のハーレム』『青空恋をのせて』『日本の映画作り』『AFA所蔵ホームムービー集』『ジェイソンの肖像』『孔雀夫人』	10	20	821
2023.3.2～3.12	【磁気テープの映画遺産を救え! 『わが映画人生』デジタルファイル化プロジェクト】 『わが映画人生』特別上映会 —映画監督は語る—	『わが映画人生 黒澤明監督』『わが映画人生 松田定次監督』『わが映画人生 マキノ雅裕監督』『わが映画人生 本多猪四郎監督』『わが映画人生 谷口千吉監督』『わが映画人生 堀川弘通監督』『わが映画人生 犬塚稔監督』『わが映画人生 松林宗恵監督』『わが映画人生 田中徳三監督』『わが映画人生 澤島忠監督』	10	20	701
2023.3.14	唄う映画特集大雪休止代替上映	『君の名は 第三部』	1	2	48
2023.3.15～3.31	映画にみる戦国時代 — 戦国の世を生き抜く	『気まぐれ冠者』『戦国群盗伝』『出世太閤記』『独眼龍政宗』『隠し砦の三悪人』『ジャン有馬の襲撃』『反逆児』『千利休 本覺坊遺言』	15	30	1,034

2) 特別企画・共催事業

① 2022年度外部共催上映等の実績

◆EUフィルムデーズ2022 映画でつながるヨーロッパ

期間：2022年6月21日～7月18日
共催：欧州連合代表部、欧州連合加盟国大使館・文化機関
会場：3階フィルムシアター
内容：EU代表部が加盟各国から集めた映画作品『言葉と行動』『ホーホヴァルト村のマリオ』『ルッツ海に生きる』『老人』『走れ、ウイェ！走れ！』『イカした人生』『わたしはダフネ』『アレクシ』『落とし穴』『サンレモ』『ピサの約束』『TOVE/トーベ』『オライの決断』等27作品の上映。
鑑賞者数：2,999名（120名／1日）

◆第28回京都国際子ども映画祭

期間：2022年8月5日～7日
共催：キンダーフィルムフェスト・きょうと
会場：3階フィルムシアター
内容：世界各国で製作される子ども映画を、ベルリン国際映画祭ジェネレーション部門受賞作を中心に集め、子ども審査員によりコンペティションを行う。『コメディ・クイン』『ヒマラヤの通学路』『アイヌモシリ』『ミラ』等12作品を上映。
鑑賞者数：387名（129名／1日）

◆大野松雄 × 谷川俊太郎『聞いてきた音これから聞く音』対談ムービー上映会in京都

期間：2022年8月14日
共催：Brand new day
会場：3階フィルムシアター、別館2階講義室
内容：『聞いてきた音これから聞く音』を上映と大野松雄氏のゲストトーク。
鑑賞者数：28名（28名／1日）

◆第14回京都ヒストリカ国際映画祭×立命館大学映像学部

京都ヒストリカ国際映画祭イベント ～中国アニメ映画への招待～
期間：2022年10月22日
主催：京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会（京都府、京都文化博物館、東映株式会社京都撮影所、株式会社松竹撮影所、株式会社東映京都スタジオ、巖本金属株式会社、株式会社ディレクターズ・ユニブ、立命館大学）

会場：3階フィルムシアター
内容：『白蛇：縁起』『羅小黑戦記 ぼくが選ぶ未来』の上映と氷川竜介氏の講演。
鑑賞者数：101名（101名／1日）

◆第14回京都ヒストリカ国際映画祭

期間：2022年10月29日～11月6日
主催：京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会（京都府、京都文化博物館、東映株式会社京都撮影所、株式会社松竹撮影所、株式会社東映京都スタジオ、巖本金属株式会社、株式会社ディレクターズ・ユニブ、立命館大学）
共催：KYOTO CMEX実行委員会
会場：3階フィルムシアター
内容：『鬼平外伝 正月四日の客』『ベネデッタ』『アポロンの地獄』『若き海賊一ボローニャのパゾリーニ』『阿修羅城の瞳』『夜叉ヶ池』『魔界転生』『旗本退屈男』『オペレッタ狸御殿』『冬の日』『小ぬか雨』『里見八犬伝』『ブレイブ 一群青戦記』『どろろ』『隠れ家』『無限の住人』『マリッジカウンセラー』『オールドヘンリー』『葉屋のメルキオール』『チャイコフスキーの妻』『鬼平外伝 熊五郎の顔』『殺すな』『峠 最後のサムライ』の上映と三池崇史監督、小泉堯史監督、中村梅雀氏、安藤さくら氏、柄本佑氏らのトークとオンライン上映。
鑑賞者数：1,186名（148名／1日）＋オンライン1,957名

◆第44回ぴあフィルム・フェスティバルin京都

期間：2022年11月19日～11月27日
主催：一般社団法人PFF（ぴあフィルムフェスティバル）
会場：3階フィルムシアター
内容：『ポラン』『the Memory Lane』『デカメロン』『カンタベリー物語』『水槽』『暮れる』『アラビアンナイト』『アクト』『幽霊がいる家』等33作品の上映と受賞監督、ピーター・バラカン氏のトーク。
鑑賞者数：834名（104名／1日）

◆京まちなか映画祭2022

期間：2022年12月2日～4日
主催：京まちなか映画祭実行委員会
会場：3階フィルムシアター

内容：『残菊物語』『お嬢さん乾杯』『他人の顔』『魚の目』『喜劇 駅前旅館』『KAFE 工船にオクノ修がやってきた日』上映とバンヒロシ氏らのトーク。
鑑賞者数：216名（72名／1日）

◆京都建築映像祭2022

期間：2022年12月18日
主催：京都建築映像祭 2022 実行委員会
後援：日本建築設計学会
会場：3階フィルムシアター
内容：『語る建築家』『Playback』『コロッサル・ユース』の上映。
鑑賞者数：92名（92名／1日）

◆EUフィルムデーズ2022特別上映

期間：2022年12月23日
共催：欧州連合代表部、欧州連合加盟国大使館・文化機関
会場：3階フィルムシアター
内容：『My Thoughts are Silent』（ウクライナ）の上映。
鑑賞者数：55名（55名／1日）

◆UNDERGROUND CINEMA FESTIVAL'22

サイケデリックと越境の旅
期間：2022年12月24日～12月25日
共催：アンダーグラウンド映画祭実行委員会
会場：3階フィルムシアター
内容：『Four』『Creation』『Head Games』『Between the Frame』『end』『ザ・タージ・マハル・トラベラーズ～「旅」について』等18作品の上映と細馬宏通氏らのトーク。
鑑賞者数：178名（89名／1日）

◆第25回京都国際学生映画祭

期間：2023年2月3日～2月5日
主催：公益財団法人大学コンソーシアム京都
会場：3階フィルムシアター
内容：『The Falling Angels』『Other Half』『The Seine's Tears』『Fatjona』『サカナ島胃袋三腸目』『The things we hoped last summer』等映画祭ノミネート等24作品の上映と入選監督トーク。
鑑賞者数：263名（88名／1日）

◆アカデミー・フィルム・アーカイブ映画コレクション

期間：2023年2月18日～3月1日
共催：アカデミー・フィルム・アーカイブ、国立映画アーカイブ
会場：3階フィルムシアター
内容：『アンニー可愛や』『きゅうり畑のかかし』『荒馬と女』『予備選挙』『ブラック・アンド・タン』『日本の映画作り』『AFA所蔵ホームムービー集』等13作品の上映と玉田健太氏、具珉弼氏のトーク。
鑑賞者数：821名（82名／1日）

◆【磁気テープの映像遺産を救え！

『わが映画人生』デジタルフィルム化プロジェクト
『わが映画人生』特別上映会 -映画監督は語る-
期間：2023年3月2日～3月12日
共催：国立映画アーカイブ
会場：3階フィルムシアター
内容：『わが映画人生 黒澤明監督』『わが映画人生 マキノ雅裕監督』『わが映画人生 犬塚稔監督』『わが映画人生 田中徳三監督』『わが映画人生 澤島忠監督』等10作品の上映と富田美香氏のトーク。
鑑賞者数：701名（70名／1日）

② 映画製作者・研究者・専門家向け育成・普及事業

◆第15回京都フィルムメーカーズラボ (Kyoto Filmmakers Lab 2022)

期間：2022年11月3日～9日
主催：京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会 [京都府、京都文化博物館、東映株式会社京都撮影所、株式会社松竹撮影所、株式会社東映京都スタジオ、巖本金属株式会社、株式会社ディレクターズ・ユニブ、立命館大学]

共催：第35回東京国際映画祭実行委員会、イタリア文化会館-大阪、KYOTOCMEX実行委員会
協力：京都クロスメディア推進戦略拠点
会場：東映京都撮影所、松竹撮影所、当館
内容：世界各国から若手映画作家を招き、東映、松竹の両撮影所で5分の短編時代劇2作品を製作する合宿形式のワークショップ（公用語：英語）。Web公募の結果、ラボとマスターズセッション含め166名

(アフガニスタン、アメリカ、オーストラリア、アゼルバイジャン、バングラデシュ、イギリス、ブルガリア、カナダ、モソト、中国、ドミニカ、フィリピン、ドイツ、グアテマラ、ハンガリー、インド、インドネシア、イタリア、日本、リトアニア、マレーシア、ネパール、ノルウェー、パキスタン、パラグアイ、ポーランド、ペルトリコ、シンガポール、スペイン、スリランカ、スイス、フランス、台湾、タイ、トリニダード・トバゴ、ベトナム) の応募から時代劇製作には18名が参加となった。東映、松竹の京都撮影所で宮西慶二郎(撮影監督/東映)、高橋剣(プロデューサー/東映)、大西悠嗣(プロデューサー/松竹)、熊代哲也(同)、井汲泰之(同)、永島聡(同) 監修の時代劇製作ワークショップを開催。参加人数: 18名

- ◆京都フィルムメーカーズラボ・マスターズセッション
期間: 11月3日~6日
主催: 京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会 [京都府、京都文化博物館、東映株式会社京都撮影所、株式会社松竹撮影所、株式会社東映京都スタジオ、巖本金属株式会社、株式会社ディレクターズ・ユニブ、立命館大学]
共催: 第35回東京国際映画祭実行委員会、イタリア文化会館-大阪、KYOTOCMEX実行委員会
協力: 京都クロスメディア推進戦略拠点
会場: 3階フィルムシアター、東映京都撮影所、松竹撮影所、旧武徳殿
内容: 京都フィルムメーカーズラボ参加者+マスター

③ 大学生向け普及事業

- ◆インターンシップの受け入れ
2022年度 前期 立命館大学(映像学部3名)

3) 映像ギャラリー常設展示

京都府所蔵の映画関連資料より、映像ホールでの企画上映にあわせて、ポスター・スチル・チラシ等50

点セッション参加者(18名)、ピーター・チョウ氏(Online)、サヴィーナ・ネイロッチ氏(Online)、東映剣会、三池崇史氏、前田直樹氏、石原渉氏、永島聡氏、市山尚三氏、荒木啓子氏、椎井友紀子氏、相原裕美氏、マイケル・シンガー氏、小泉堯史氏による講演。
鑑賞者数: 698名(174名/1日)

- ◆日本映画テレビ技術協会京都支部・大阪支部共催
「映像技術賞受賞作品を見る会」
期間: 2023年1月20日
共催: 日本映画テレビ技術協会
会場: 3階フィルムシアター
内容: 『孤狼の血 Level 2』『がちゃこん~近江鉄道の情景~』『MBSドキュメンタリー映像'21「いつか帰れる日まで」~異国で願うミャンマーの民主化~』の上映と加藤航平氏(撮影監督)、杉森賢治氏(撮影)、岡部雄太氏(編集)によるトーク。
鑑賞者数: 174名(174名/1日)
- ◆文化庁ndjc若手映画作家育成プロジェクト
2022年度合評上映会
期間: 2023年2月15日
共催: 特定非営利活動法人映像産業振興機構
会場: 3階フィルムシアター
内容: 『うつぶせのまま踊りたい』『ラ・マヒ』『サボテンと海底』『デブリーズ』の上映と監督のトーク
鑑賞者数: 48名(48名/1日)

点前後の資料を随時展示替えしながら公開している。2022年度は次のテーマで展示した。

【映像ギャラリー展示資料一覧】

期 間	テ ー マ
2022.4.1～4.22	ジャパニーズ・ロード・ムービー-旅する時代劇
2022.4.23～6.19	【鈴木敏夫とジブリ展 関連映画上映】みんな映画が好きだった、僕も。 - 京都府所蔵映画作品より鈴木敏夫セレクション -
2022.6.21～7.18	EUフィルムデーズ2022 映画でつながるヨーロッパ
2022.7.20～8.3	祇園祭と京の文化・伝統工芸
2022.8.5～8.7	第28回 京都国際子ども映画祭
2022.8.9～9.11	【没後10年】山田五十鈴と淡島千景を偲ぶ
2022.9.13～9.30	【生誕120年記念】五所平之助監督初期作品集
2022.10.1～10.28	【新選組展2022記念上映】映画に見る幕末京都の青春群像
2022.10.29～11.6	第14回 京都ヒストリカ国際映画祭
2022.11.8～12.1	【生誕110年+没後10年】映画監督・新藤兼人特集
2022.11.19～11.27	第44回 びあフィルムフェスティバルin京都 2022
2022.12.2～12.4	京まちなか映画祭 in 京都文化博物館2022
2022.12.6～12.22	忠臣蔵と義士外伝特集
2022.12.18	京都建築映像祭2022
2023.1.7～2.2	唄う映画～現代劇篇・時代劇篇
2023.2.3～2.5	第25回 京都国際学生映画祭
2023.2.18～3.1	アカデミー・フィルム・アーカイブ映画コレクション
2023.3.1～3.12	磁気テープの映画遺産を救え！『わが映画人生』デジタルファイル化プロジェクト 『わが映画人生』特別上映会 - 映画監督は語る -
2023.3.15～3.31	映画にみる戦国時代 - 戦国の世を生き抜く

映画事業担当者：森脇清隆、大矢敦子

Ⅲ - 4 京都学・歴彩館における展示

① 中井貞次と井俣慶人

会 期：2022年9月17日（土）～11月6日（日）
〔40日／51日〕

休館日：祝日、第2水曜日

会 場：京都府立京都学・歴彩館 1階展示室

入場料：無料

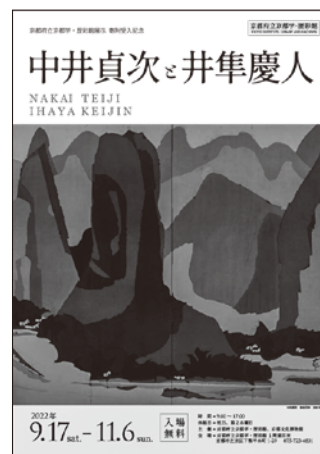
主 催：京都府、京都文化博物館、京都府立京都学・
歴彩館

担当者：林 智子

入場者：1537名（1日平均38.5名）

【概 要】

京都府では、京都の文化に資するため美術・工芸品をはじめとする京都に関する資料を広く収集・保存している。本展は令和元年度に中井貞次氏、井俣慶人氏より作品の寄附を受け入れたことを記念して実施した。中井貞次氏（1932～）は藍のろう染めで世界の様々な土地の風景をテーマに制作し、染色分野で初めて日本



「中井貞次と井俣慶人」ちらし

藝術院会員になった作家、井俣慶人氏（1941～）はやはりろう染で身近な風景や生き物を表現し色鮮やかな作品を多数制作している作家である。ろう染の大家ふたりの作品世界を来館者にじっくりと味わっていただく機会となった。

【主な出品作品】

中井貞次《桂林只中》(2005)、井俣慶人《春のゆく》(2016) など

【出品作品数】 7点

【関連行事】

〔1〕学芸員によるギャラリートーク

日時：2022年9月22日(木)、10月13日(木)、
10月27日(木)

午後2時30分～(30分程度)

場所：1階展示室内

担当：林 智子

参加者数：9月22日17名、10月13日22名、
10月27日7名

② いけばなを極める－宮本溪雄旧蔵コレクション展

会 期：2023年1月14日(土)～3月5日(日)

休館日：第2水曜日、祝日

会 場：京都府立京都学・歴彩館 1階展示室

入場料：無料

主 催：京都府、京都文化博物館、京都府立京都学・
歴彩館

担当者：畑 智子

入場者：1,581名(1日平均32名)

【概 要】

本展示会は、2005年に95歳で亡くなられた宮本溪雄氏のコレクションが京都府に寄贈されたことを記して開催。

宮本溪雄氏(1911-2005)はいけばなの一大流派・池坊において長く教授を務められた方で、寄贈された資料はほとんどがいけばなに関するもの。特定の流派に偏ることなくさまざまな流派の資料が収集されているのが特徴。絵画・書・工芸品が61件、古典籍・図書が1541件、2119冊に及ぶ膨大な華道コレクションである。

宮本氏は広島県庄原市に生まれ、11歳で池坊に入門。戦後は池坊第一回地方研究生養成所で学び、50代からはニューヨーク、パリ、南米などにおいて、いけばなを指導してその技術と美を海外へも伝えてきた。また宮本氏自身も多数のいけばなに関する著作なども残している。

【主な出品作品】

「生花之間書之絵図」毛利作右衛門(元禄10年)、「立花砂物図」大住院以信(延寶6年)、「池坊専好立花圖巻」(元禄14年)、「君台観左右帳記」真相著(江戸時



「いけばなを極める－宮本溪雄旧蔵コレクション展」ちらし

代後期)、「青蓮院宮尊朝法親王書」尊朝法親王(桃山時代)、「丹頂双鶴図」40世池坊専定(江戸時代後期)、「瓶梅図」西川一草亭(昭和4年)、四十二世池坊専正作「竹花筒 銘：立鶴」明治時代/「銅青海波文松皮菱砂鉢」金屋五郎三郎(江戸時代後期)、「現代立花之図」宮本溪雄(昭和53年頃)

【出品作品数】 52点

【関連行事】

〔1〕ギャラリートーク

日時：2023年1月19日(木)、1月26日(木)、
2月16日(木)

14時30分から30分程度

場所：1階展示室内

担当：畑 智子

参加者数：5名、16名、14名

IV 調査研究活動

IV-1 学芸員の活動

1) 研究

【博物館研究費による研究】

- 橋本 章 ・京都の口承伝承文化に関する研究②
西山 剛 ・『北野文叢』の歴史学的研究
植田彩芳子 ・近代京都絵画研究～森寛斎、案本一洋、太田喜二郎を中心に～
村野正景 ・当館所蔵の考古資料にかかる基礎的研究3
清水智世 ・近現代京都の作家と芸術団体に関する総合的研究④
有賀 茜 ・原家文書の翻刻及び伝存資料の調査研究
佐藤稜介 ・戦国期における京都・山城地域の政治権

力に関する研究

- 畑 智子 ・幕末・明治前期の京都における漢学者サークル—三国幽眠を中心に（2）

【外部研究費・共同研究費等による研究】

- 林 智子 ・「近世近代の法衣装束に関する研究—真宗大谷派井波別院瑞泉寺における事例—」（公益財団法人ポーラ美術振興財団令和4年度調査研究助成）
西山 剛 ・『北野文叢』（北野天満宮蔵）のデジタルアーカイブと資料化に関する総合的研究〈科学研究費補助金（奨励研究）〉

2) 出講・委嘱

- 洲鎌佐智子 ・滋賀県文化財保護審議員
・令和4年度京都国立近代美術館美術作品購入等評価委員（2回）
・京都国立近代美術館企画審査委員
・令和4年度京都国立博物館買取・寄贈評価委員
・令和4年度京都市美術館美術品等評価会議委員
・滋賀県立陶芸の森陶芸作品収集審査会委員
・第42回京都工芸美術作家協会展審査員
・第22回福知山市佐藤大清賞公募美術展審査
・甲賀市指定無形文化財信楽焼保持者認定検討委員会委員
・兵庫県「2022県展」工芸分野審査員
森脇清隆 ・文化庁アーカイブ中核拠点形成モデル事業検討委員
・京都府デジタルミュージメントアワード審査委員
・京都ヒストリカ国際映画祭実行委員
・京都市コンテンツ産業振興に向けた有識者懇談会委員
・京都国際学生映画祭企画検討委員
橋本 章 ・京都府祭り行事調査事業詳細調査専門調

査員

- ・京都祇園祭の山鉾行事歴史資料調査事業委員
・祇園祭山鉾装飾品等審議委員会委員
・久御山町旧山田家住宅保存活用計画検討委員会委員
・日本民俗学会第34期理事・評議員
林 智子 ・奈良県立美術館寄贈評価員
西山 剛 ・東京大学史料編纂所 画像史料解析センター 共同研究員
・世界人権問題研究センター 登録研究員
・北野天満宮 北野文化研究所 特別研究員
・藝能史研究会事務局員
植田彩芳子 ・滋賀県立美術館協議会専門委員〔収蔵品収集審査部会〕
大矢敦子 ・芸術文化振興基金運営委員会映画祭等専門委員会専門委員
・「文化庁映画週間」企画運営に関する技術提案書選定委員
・立命館大学衣笠総合研究機構アート・リサーチセンター客員協力研究員
畑 智子 ・京都日本画新展2023 審査員

3) 業績

① 論文・著作

- 洲鎌佐智子 ・「第1回京都工芸美術作家協会アーカイブ事業について」(京都文化博物館研究紀要『朱雀』第35集 2023年3月)
- 橋本章 ・『京都府祭り・行事調査事業調査報告書』(詳細調査編)「修正会(オコナイ)・寺行事」「木野愛宕神社の烏帽子着」「八瀬赦免地踊」(京都府教育委員会 2023年3月24日)
- ・『京都祇園祭の山鉾行事歴史資料調査Ⅲ』(「白楽天町文書の調査活動から」公益財団法人祇園祭山鉾連合会 2023年3月31日)
 - ・「近代における鎌倉武士のイメージの確立について～源頼朝と北条時政・義時・泰時の事例から～」(京都文化博物館研究紀要『朱雀』第35集 2023年3月)
- 林智子 ・『「袍裳 紫綾地八藤紋」ほか』(京都文化博物館研究紀要『朱雀』第35集、2023年3月)
- 西山剛 ・図録『新選組展2022』(福島県立博物館・当館・読売新聞社、2022年7月22日) 編集・執筆(コラム・解説)
- 植田彩芳子 ・「小川千甕のフランス滞在—『滞欧日記』を読む」(京都文化博物館研究紀要『朱雀』第35集、2023年3月)
- ・「太田喜二郎と京都洋画家連盟」(『美術京都』54号、2023年3月)
- 村野正景 ・「学校で資料に出会う、気づく：資源化の実際と今後の活動可能性」(『文化資源学』20/2022年6月)
- ・「サイネンショーと考古学」(『ザ・サイネンショー』／一般社団法人きりぶえ／2022年9月)
 - ・「京の史新 学芸員の視点から 27モダン建築と赤煉瓦」(『京都新聞』／京都新聞社／2022年11月25日)
 - ・「ソーシャル・キャピタルと博物館—ウイズ・コロナ時代の社会貢献を目指して—」(『資料と公共性 2022年度研究成果年次報告書』／九州大学／2023年3月)
 - ・「コラム5瓦の帖の「違い」を探る、コラム6『聆涛閣集古帖』と藤貞幹の『古瓦譜』の関係性」(『いにしえが、好きっ！—近世好古図録の文化誌—』／国立歴史民俗博物館／2023年3月)
 - ・「A Study on the Development of Public Archaeology in El Salvador: for making better strategy on improving international cooperation of archaeological activities」(『Japanese Contributions to the Studies of Mesoamerican Civilizations: The 40th Anniversary of La Entrada Archaeological Project』／金沢大学／2023年3月)
- ・「学校博物館を成長させる 京都府立鴨沂高等学校所在資料の発見と活用Ⅱ」／学校資料研究会・京都府立鴨沂高等学校京都文化科／2023年3月／編著
- 清水智世 ・「前衛画家と戦争—吉井忠と小牧源太郎、その深層への旅」(『美術フォーラム21』45号／2022年6月)
- ・「画家・井澤元一と京都—『作品ノート』からたどる「京都の洋画」の一側面①」(京都文化博物館研究紀要『朱雀』第35集／2023年3月)
- 有賀茜 ・図録『新選組展2022』(福島県立博物館・当館・読売新聞社、2022年7月22日) 編集・執筆(コラム・解説)
- ・『原派、ここに在り』展覧会図録(京都文化博物館、2023年2月)
 - ・「原派 京を飾るもう一人の絵師」(『京の史新 学芸員の視点から』、京都新聞、2023年2月)
 - ・「鶴澤派における絵画学習と地方の門人育成について」(筒井忠仁編『仏師と絵師 日本・東洋美術の制作者たち』、思文閣出版、2023年4月)
 - ・「翻刻 臥游集(二)」(京都文化博物館研究紀要『朱雀』第35集、2023年3月)
- 佐藤稜介 ・図録『新選組展2022』(福島県立博物館・当館・読売新聞社、2022年7月22日) 編集・執筆(コラム・解説)
- ・「戦国期畿内の政治と権力—畿内政治史をいかに描くのか—」(岩城卓二、上島享、河西秀哉、塩出浩之、谷川穰、告井幸男編著『論点・日本史学』、ミネルヴァ書房、2022年8月)
 - ・「斎藤基速—幕府奉行人から三好長慶の参謀へ」(天野忠幸編『戦国武将列伝7 畿内編 上』、戎光祥出版、2022年12月)
 - ・「京の史新 学芸員の視点から 経典書写に込めた祈り」(京都新聞 2023年1月11日)
 - ・「今村慶満—武家政権と京都をつなぐ潤滑油」(天野忠幸編『戦国武将列伝8 畿内編 下』、戎光祥出版、2023年2月)
 - ・「古代学協会所蔵の古写経—大蔵寺経・川合宮一筆経・東山將軍塚石経—」(京都文化博物館研究紀要『朱雀』第35集、2023年3月)
 - ・「古写経、未来へ—総合展示「信仰の美」開催に寄せて—」(公益財団法人京都文化財団編集発行『文化財

レポート』第36号、2023年3月)

畑 智子 ・「大橋松次郎と画家との交流」(『木島櫻谷
—山水夢中』展図録、泉屋博古館、2022年11月)

・「翻刻 「一洗堂年表」(幕末編) —三國幽眠の日記」
(京都文化博物館研究紀要『朱雀』第35集、2023年
3月)

② 発表・講演

森脇清隆 ・「第一回 京都映画賞受賞」(京都市、
2023年3月11日)

橋本 章 ・「鎌倉武士の物語と京都」(ぶんぱく京都
講座 別館講義室 2022年5月14日)

・「鎌倉武士の物語と京都」(京都弘教会講座 キャン
パスプラザ京都 2022年7月27日)

・「鎌倉武士の物語と京都」(京都弘教会講座 舞鶴西
総合会館 2022年7月28日)

・国立歴史民俗博物館共同研究「映像による民俗誌の
叙述に関する総合的研究～アーカイブスの実践的方
法論の検討～」第5回研究会報告「映像記録・長浜
曳山祭の曳山行事」(国立歴史民俗博物館 オンライン
2022年9月5日)

・伏見連続講座特別編「巨椋池の物語—失われた大池
と美しい自然の記憶—」(京都市伏見区役所2022年
10月12日)

・いぶき歴史アカデミー「鎌倉武士の物語と京都」(伊
吹文化資料館 2022年10月23日)

・京都民俗学会40周年記念シンポジウム「京都民俗の
40年」(オンライン 2022年12月10日)

西山 剛 ・「幕末京都の社会史—行幸・大火・新選
組」(京都文化博物館 2022年10月8日)

・「中世被差別民史研究の概括とこれからの視角」(近
代都市における地域共同体の変容に関する歴史的研
究部会 研究会/世界人権問題研究センター、2023
年1月)

村野正景 ・「連携事業をどう作るか—博物館のお仕事
—」(第62回まちカフェ「みんなで考える三条通と
博物館」—都市博物館活動と地域連携—/京都文化
博物館/2022年7月18日)

・「ソーシャル・キャピタルと博物館—ウイズ・コロナ
時代の社会貢献を目指して—」(「資料と公共性」研
究会 総括研究会/九州大学西新プラザ/2022年8
月27日)

・「メキシコの学校博物館プログラム」(古代アメリカ
学会第15回東日本部会/第13回西日本部会研究懇
談会/オンライン/2022年11月26日)

・「学校博物館—なぜ学校内に博物館が作られたか—」
(ぶんぱく京都講座/京都文化博物館/2022年12月
10日)

清水智世 ・「井澤元一が描く京都—独立美術京都研
究所時代からドナルド・キーンとの交流まで」(ぶん
ぱく京都講座/京都文化博物館/2022年10月1日)

・「京都の前衛画家」(講師/教養講座「美術にしたし
む」/NHK文化センター京都教室/2022年12月9
日)

佐藤稜介 ・「新選組が見た幕末京都—新選組展2022
に寄せて—」(京都府庁旧本館 旧議場土曜講座
2022年7月16日)

・「経文を写す—筆に託した祈りの世界—」(ぶんぱく
京都講座 2023年1月14日)

V-1 出版物

1) 研究紀要『朱雀』

【『朱雀』第35集】

発行：京都文化博物館

発行日：2023年3月31日

印刷：株式会社ITP

体裁：A4判、152ページ

編集担当：洲鎌 佐智子

掲載記事：

[論考]

・植田 彩芳子

小川千甕のフランス滞在

—『滞欧日記』を読む—

・村野 正景

京都の学校博物館の「特別公開」

—「京都府内の学校所在資料展2」の記録を兼ねて—

[研究ノート]

・清水 智世

画家・井澤元一と京都—『作品ノート』からたどる「京都の洋画」の一側面①

・橋本 章

近代における鎌倉武士のイメージの確立について—源頼朝と北条時政・義時・泰時の事例から—

[資料紹介]

・洲鎌佐智子 京都工芸美術作家協会

第1回京都工芸美術作家協会アーカイブ事業について

・林 智子

「袍裳 紫綾地八藤紋」ほか

・畑 智子

翻刻「一洗堂年表」(幕末編)—三國幽眠の日記

・佐藤 稜介

古代学協会所蔵の古写経

—大蔵寺経・川合宮一筆経・東山將軍塚石経—

・有賀 茜・松井 直人・吉野 健一

翻刻「臥游集」(二)

2) 年報

【京都文化博物館2021(令和3)年度年報】

編集・発行：京都文化博物館

発行日：2022年9月30日

印刷：株式会社ITP

体裁：A4版、68ページ

編集担当：森 麻紀子

3) 展覧会図録

【新選組展2022】

企画・編集：京都府京都文化博物館、福島県立博物館

発行：京都府京都文化博物館、福島県立博物館、読売新聞社

デザイン：大阪読売サービス

発行日：2022年7月22日

印刷：日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社

デザイン：サクサクデザイン

撮影：高野友実

発行：京都府京都文化博物館

発行日：2022年12月26日

【原派、ここに在り—京の典雅—】

編集・発行：京都府京都文化博物館

デザイン：谷浩志(クラフティ—デザイン)

印刷：株式会社スイッチ・ティフ

発行日：2023年2月18日

【basement#01 五劫のすりきれ】

編集：植田憲司、はがみちこ、安河内宏法、水野慎子

【Kyoto Art for Tomorrow 2023－京都府新鋭選抜展－】

編集・発行：京都府、京都文化博物館

体 裁：タテ29.7cm×ヨコ21cm、39ページ

発行日：2023年2月

V-2 音楽会

① 祇園祭ミュージアムコンサート

- ・公財) 鷹山保存会囃子方によるお囃子・鉦体験
- ・箏曲生田流宮城社麗調会による演奏会

日 時：2022年7月16日（土）、17日（日）
入場者数：計600名

② COOL MUSIC SPOT in The Museum of Kyoto

協 力：京都市立芸術大学、京都女子大学、同志社女子大学

日 時：2022年8月16日（火）～18日（木）
入場者数：計950名

V-3 京都アート・クラフトマーケット

今年度は秋と春に開催。ブース数を増やし、コロナ禍には控えていた広報活動についても、紙媒体やWeb・SNS媒体ともに注力した。Instagramフォロワー

数は2022年秋から2023年春にかけて約300名増加した。

【京都アート・クラフトマーケット】

	開催日	出展数	入場者数
京都アート・クラフトマーケット2022 秋	2022年9月23日（金・祝）～25日（日）	46ブース	12,248名
京都アート・クラフトマーケット2023 春	2023年3月17日（金）～19日（日）	59ブース	18,204名

V-4 学習普及外部連携室

1) ボランティア

2023年3月31日現在（2022年度）、62名のボランティアスタッフが活動している。2階総合展示室内における来館者案内や見回りを行った。通常ならば、必要に応じて音楽会や講演会、ワークショップなどのイベントのサポートにも参加するが、コロナ禍でそうした活動は控えた。日本語35名、英語22名、その他の外国語5名が朝9時45分から夜7時30分までの間、3交代制で活動を行っている。

代制で活動を行っている。

ボランティアは、2階総合展示の開始にあわせて設定される研修会に参加し、展示内容及び展示室運営を含めた総合的なレクチャーを実施するのが通例で、コロナ禍のためここ数年オンライン研修としてきたが、2022年度は対面での研修を復活した。

2) 「ぶんぱく子ども教室」事業

学習普及連携室が軸となって企画運営を行う「ぶんぱく子ども教室」を実施した。また、前年度より継続して、総合展示に来場する児童のための鑑賞のヒントや館内案内の手引きとして、「ぶんぱく手帳」を小学生向けに作成し、総合展示室入口に配置した。

担当者：洲鎌及び学習普及連携室

参加者数：それぞれ子ども10名、7名（保護者、兄弟を除く）

実施目的：①京都の三大祭のひとつである祇園祭をより身近に感じてもらう。

②祇園祭の鉦の仕組みを理解してもらう。

【祇園祭の鉦をつくろう！】

日 時：2022年7月18日（月・祝）

①午前10時半～12時

②午後2時～3時半

3) 団体見学案内

個人での来館とは別に、数人から100人程度のグループによる来館がある。これに対しては、事前の申し出があれば施設、総合展示、特別展等の解説に応じている。2022年度の来館件数は67件であった。このうち解説を行ったのは、19件である。団体来館は学校の授業、修学旅行などの行事の一環として行われることが

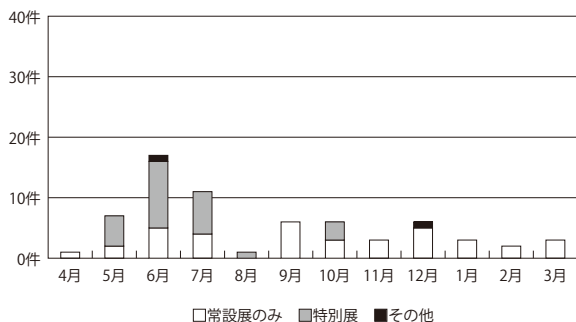
主体で、全体の半数を占めるが、各種の文化サークルや団体旅行での訪問も多い。学校の区分では大学が一番多く、高校、中学校、小学校がつづく。

本年度は、5月、6月、7月の団体申し込みが多かった。

【2022年度団体見学案内件数】

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数	5	198	404	708	54	220	236	97	221	51	18	68	2280
来館件数	1	7	18	11	1	6	6	3	6	3	2	3	67
解説件数	0	3	2	5	0	3	2	1	1	1	1	0	19

【月別申込み件数】



【団体種類別件数】

団体	件数
小学校	8
中学校	9
高校	12
専門学校	2
大学	15
支援学校	0
一般	19
合計	65

V-5 博物館実習

【実施期間】

2022年8月22日(月)～8月26日(金)までの5日間

【実習生】

武庫川女子大学	1名
立命館大学	1名
京都芸術大学	1名
筑波大学	1名
同志社大学	1名
京都府立大学	1名
武蔵野美術大学	1名
京都産業大学	1名
富山大学	1名
龍谷大学	1名(計10名)

【実習内容/担当者】

- ・博物館の活動について/橋本 章
- ・館内見学/清水智世
- ・映像資料の取り扱いについて/森脇清隆、大矢敦子
- ・民俗資料の取り扱いについて/橋本 章
- ・考古資料の取り扱いについて/村野正景
- ・美術資料の取り扱いについて/植田彩芳子・清水智世・有賀 茜
- ・染織資料の取り扱いについて/林 智子
- ・美術工芸品の取り扱いについて/洲鎌佐智子
- ・文献資料の取り扱いについて/西山 剛・佐藤稜介
- ・学習普及と地域連携について/村野正景・植田彩芳子・清水智世

V-6 資料・情報公開

1) 資料閲覧室

当館の図書資料は、歴史・考古・美術・工芸・映像など多分野にわたり、現在単行本85,492冊、逐次刊行物3,231タイトル(83,572冊)を収蔵している。なかでも埋蔵文化財の発掘調査報告書が35,748冊、展覧会図録が16,752冊と多く、また、映画のシナリオを約12,000冊収蔵しているのも特徴である。これらの図書

資料については、研究目的で特に閲覧を希望する者に対して公開している。なお、本年度の書籍の受け入れ数は1,232件であり、その内、埋蔵文化財発掘調査報告書が73冊、展覧会図録が249冊、年報・紀要類が278冊であった。

2) ホームページによる広報とWebコンテンツの提供

2022年度は、前年度に比べてホームページへのアクセス数が飛躍的に増加した。これは、ゴールデンカムイ展の情報解禁日にアクセスが集中していることや、同展の会期終了とともにアクセス数が減少していることから、WebサイトやSNSで情報を収集する来館者が多かった同展の影響が大きいといえる。

また、ホームページ内では展覧会情報へのアクセスが最も多い。ホームページやSNSでより充実した展覧

会情報を提供し、来館につながられるよう今後も努めたい。

【ホームページの利用状況】

2022年度	総数	一日平均
アクセス数	1,783,344	4,886
ページビュー数	10,436,735	28,594

V-7 外部連携活動

1) 他館との連携

① 京都市内4館連携協力協議会

京都国立近代美術館、京都国立博物館、京都市美術館、当館の4館による連携協力及び館運営にかかる情報交換を円滑にする目的で、京都市内4館連携協力協議会（「京都ミュージアムズ・フォー」）が2009年6月12日に発足した。2022年度は学芸・事務の合同部会を1回開催し、全体会議は書面にて審議した。また、以下の連携事業を実施した。

- ・京都ミュージアムズ・フォー連携講座の実施（年間5回）
- ・4館の合同年間スケジュールの作成
- ・各館友の会会員相互割引制度の実施
- ・スタンプラリーの実施（実施期間：10月1日～11月30日）
- ・秋の特別展にて4館相互割引の実施

② 事業協力

【「関西文化の日」事業への連携】

（関西の美術館・博物館、約400施設が参加）

2022年度は関西文化の日（2022年11月19日・20日）を「総合展示入場無料」とした。当館の総合展示入場者は、647人であった。

【「ミュージアムぐるっとパス関西2022」への参加】

2022年度は、関西の2府4県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）の美術館・博物館で構成する合計50施設が参加した。

当館は利用者に総合展示無料（1回）及び特別展団体料金扱い（1回）の特典を付与し、併せて館内でぐるっとパスの冊子を販売した。

2) 京都府内の学校との連携事業

京都府立鴨沂高等学校と連携授業を実施した。学芸員の出前講座を通じて文化財に生徒が触れ、観察した。また京都府内の高等学校・小学校20校と連携し、

2階総合展示「京都府内の学校所在資料展2」を実施した。

3) 地域との連携

① 京都文化博物館地域共働事業「博物館を核としたパブリック空間活用イノベーションプログラム」

令和4年度文化芸術振興費補助金（Innovate MUSEUM事業）の補助を受け「博物館を核としたパブリック空間活用イノベーションプログラム」を展開し、京の三条まちづくり協議会、姉小路界限を考える会、京都市学校歴史博物館、京都市歴史資料館、京都市考古資料館、千總文化研究所、京都古文化保存協会、京都市生涯学習総合センターと連携して（1）みち資源活用事業と（2）みちづかい可視化事業を行った。

（1）みち資源活用事業

- a) ネットワーク構築・担い手育成会議
 - 地域定例会（月1回、実行委員会と地域の方々の定例会、毎回10名程度参加。）
 - 若手推進会議（月1回、地域に居住・就労する30～40代の若手5名程度が毎回参加。）
 - モダン建築全国有数の密集地・三条通の近代建築オーナーズ会議（2022年9月13日、8名）
- b) 先進事例等の調査
 - 京都府福知山市：元市立小学校の活用事例610ベース・足立音衛門里山ファクトリー（2022年10月21日、2023年1月30日）、京都府向日市（2022年12月4日）、京都府宮津市（2022年12月9日）、山口県萩市：萩まちじゅう博物館（2023年3月10日～12日）、福岡県八女市（2023年3月12日）他
- c) シンポジウムの開催
 - 三条通の近代洋風建築—商い・魅力・エリア価値—（2022年10月2日、会場50名、YouTube 127名視聴）
 - 写真から探る学校校舎の歴史的価値（2023年2月19日、会場31名）

d) 講演会・ワークショップ

- まちカフェ「みんなで考える三条通と博物館：都市博物館活動と地域連携」（2022年7月18日、40名）
 - まちカフェ「近世の絵図から読み解く道路空間の使い方」（2022年8月11日、約40名）
 - まちカフェ「官民連携まちづくりとエリアプラットフォーム」（2022年10月22日、オンライン25名）
 - まちカフェ「三条通の未来ビジョン」—アクションプランを考えよう」（2023年1月28日、約30名）
 - まちカフェ「三条通の未来ビジョン」—将来像を描こう」（2023年3月5日、約40名）
 - 講演会（2022年12月18日、2023年1月15日、2月25日、3月12日、計135名参加）
- ##### e) 参加体験イベント・ツアー
- 近代建築ウィーク 三条通ツアー（2022年9月27日～10月2日、参加者多数）
 - 社会実験（2022年11月5日・6日、2023年3月17～19日、参加者多数）
 - 建物（校舎）活用ワークショップ（2023年2月26日、子ども向け、5名）

（2）みちづかい可視化事業

- ① 展示ワークショップ開催
 - プレ展示ワークショップ（2022年11月5日・6日、来場者多数）
 - 路上カオス展・ワークショップ（2022年12月14日～2023年1月22日、来場者1,433名）
 - 野外展示ワークショップ（2023年1月21日、約50名参加）

② 【「きものの似合うまち・京都」推進事業（京都府共催）への協力】

例年参加、協力してきた「京都きものパスポート」事業（きものを着てパスポートを提示した方への特典提供）だが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影

響を受け、2020年より休止となっている。今後については、「きものの似合うまち・京都」実行委員会により新たな和装振興事業の検討が進められている。

V-8 京都文化博物館友の会

友の会は、歴史、美術、工芸、映像等に興味を持つ人々が、京都文化博物館を通して楽しみながら博物館

活動に協力することを目的とする。

1) 会 員

【会員の特典】

- ・会員証で特別展・総合展示(映画鑑賞含む)の無料での鑑賞(B会員は特別展2回まで無料、3回目からは団体料金)
- ・会員同伴者5名様まで入場料20%割引(B会員は同伴者1名まで)
- ・当博物館発行の出版物の割引
- ・友の会が主催・後援する行事等の案内
- ・催事案内や各種行事案内等の送付
- ・当館会員証で京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都市京セラ美術館の特別・常設展が団体料金に割引及び京都府立堂本印象美術館の割引

【会 費】

- ・A会員 年会費6,000円
- ・グループ会員(2名以上) 年会費5,000円 / 1名
- ・B会員 年会費4,000円

①会員数(近年の推移)

	(単位:名)		
	2022年度	2021年度	2020年度
A会員	309	338	361
グループ会員	100	101	136
B会員	225	229	276
計	634	668	773

②新規加入

	(単位:名)	
A会員	56	
グループ会員	24	
B会員	104	
計	184	

③男女の構成

	(単位:名)	
	男性	女性
A会員	65.7%	34.3%
グループ会員	45.0%	55.0%
B会員	63.6%	36.4%
計	61.7%	38.3%

④年齢分布

	(単位:名)	
10代	0	
20代	4	
30代	22	
40代	38	
50代	97	
60代	150	
70代	217	
80代	98	
90代以上	8	
不明	0	
最高齢	97	
平均	67.35	

【会員の概要】

会員は、個人会員をA会員、また総合展示室・フィルムシアターの観覧を中心とするB会員、2名以上で入会するグループ会員の三つの区分に分け運営を行っている。

前年度に比べ全ての会員区分で新規会員が増加した。これは新型コロナウイルス感染拡大等により入会を控えていた新規会員や、通常通りの展覧会開催日数の見通しが立ったため、一度退会された会員が再入会されたことが要因の一つとも考えられる。

B会員は比較的廉価なため、20~30代の方の新規加入を期待しているが前年度同様高齢者層の新加入が多くなっている。

今後は、さらなる新規会員の獲得を目指すとともに、既会員はもちろんのこと、今年度新たに入会した会員に対して次年度以降も継続して加入してもらえよう、友の会の内容の充実とサービスの向上を図りたい。

⑤職業

	(単位:名)
会社員	113
公務員	17
教員	23
自営業	37
自由業	10
学生	3
その他	53
無職	378

⑥住所分布

	(単位:名)	
京都市内	436	
京都府内	46	
近畿圏内	131	
その他の府県	21	

⑥-2 近畿圏内の内訳

大阪府	80
兵庫県	28
滋賀県	16
奈良県	5
和歌山県	2
計	131

2) 事業概要

① 協力企画

【文化講座】

特別展「新選組展2022—史料から辿る足跡」関連事業

講演会「政治集団としての新選組を考える」

会員参加者17名

講演会「幕末京都の社会史 行幸・大火・新選組」

会員参加者11名

講演会「近藤勇の二人の師—清河八郎・芹澤鴨」

会員参加者12名

特別展「知の大冒険—東洋文庫 名品の煌めき—」関連事業

講演会「知の大冒険攻略ガイド—名品で旅する東洋世界—」
会員参加者12名

② その他

【「友の会通信」発行(毎月)】

会員への情報発信と来館促進のため、「友の会通信」を発行。

V-9 文化財保護基金室

公益財団法人京都文化財団では、京都文化博物館内に文化財保護基金室をおき、文化財の保護、啓発に努めている。

1) 貸付け事業

社寺建築物、美術品等文化財の保全に必要な修理事業などに長期、低利の文化財保護資金貸付事業を行っ

ている。

令和4年度において新規の貸付はなかった。

2) 文化財保護に関するよろず相談

文化財の保存修理等に関して所有者が抱える様々な問題に対処するため、文化財保護関係機関等が一堂に会するよろず相談を開催していたが、令和4年11月に

当館HP内に「よろず相談」窓口を開設し、通年でお問い合わせいただける形とした。

3) 文化財保護の啓発普及

①「文化財レポート」の発行

文化財の重要性を認識し、保護意識の高揚を図るための普及誌として「文化財レポート」第36号2,000部を発行した。

V-10 「福寿園・お茶の文化賞」

株式会社福寿園名誉会長・故福井正典氏の遺志を受け継ぎ、21世紀に京都からお茶にまつわる文化芸術がより多彩により根強く日本や世界に波及していくことを願って昨年「福寿園・お茶の文化賞」を創設し、お茶の文化賞選考委員会（2022年4月12日）による選考を経て、第1回福寿園・お茶の文化賞を授与した。

授賞式：2022年6月12日（日）午前11時～

場 所：京都文化博物館 3階フィルムシアター

受賞者：大 賞 大森 正司氏 ※大妻女子大学名誉教授。茶の科学的研究の第一人者。

奨励賞 京都府立木津高等学校 ※国内唯一の茶業教育を行う高等学校。

VI ギャラリー事業

VI-1 5・6階展示室

絵画、彫刻、工芸、書、デザイン、写真、華道の作家として活発な創作活動をしている方々の展覧の場としての利用や、府民をはじめ広く一般の方々の文化芸

術活動の発表の場としての利用、京物の紹介を目的とした展示会、見本市、内見会等、文化芸術活動の展示公開の場を提供している。

1) 美術・工芸作家の利用

開館以来5階展示室及び6階展示室(1997年7月)より美術・工芸作家が利用できる場を設けており、利用は府内に活動の本拠を持つ作家及び府内にゆかりのある作家としている。展示作品は、絵画・彫刻・工芸・書・デザイン・写真・華道などのジャンルで、内容の充実しているものとし、利用の可否については、展示

室運営委員会において利用申込者の作品を審議して決定している。

今年度については、新型コロナウイルス感染症拡大により中止・延期していた催事が開催したことにより、利用は増えたが、空調工事による臨時休館があり、2022年度の利用件数は、30件であった。

作家利用一覧

会 期	展 覧 会 名	分 野
2022 4.1 ~ 4.3	金彩友禅 和田光正の世界展	染織
4.8 ~ 4.10	第34回面風會展	諸工芸(能面)
4.12 ~ 4.17	第48回京都春季創画展	日本画
4.20 ~ 4.24	第45回日本画春季光玄展	日本画
4.20 ~ 4.24	湯浅三郎「京の歳時記108景」	美工総合
4.21 ~ 4.24	第15回京都創造藝術協會展	美工総合
4.22 ~ 4.24	第30回祐門会能面展	諸工芸(能面)
4.29 ~ 5.6	吉川蕉仙の書II	書
5.13 ~ 5.15	第41回辛酉会書展	書
6.21 ~ 6.26	第75回京都丹平写真展	写真
6.29 ~ 7.3	2022京都日本画家協会第9期展	日本画
7.12 ~ 7.24	田川絵理というはたらき	洋画
8.17 ~ 8.21	第40回六藝會篆刻作品展 與鯉鱗展	書(篆刻)
8.17 ~ 8.21	第27回ファインド・アイズ現代・文人光画展	写真
10.19 ~ 10.23	京の名工展	工芸総合
10.26 ~ 10.30	徳田嘉孝作品展	洋画
10.26 ~ 10.30	選抜 京都墨彩画壇秋季展	日本画(水墨画・墨彩画)
10.26 ~ 10.30	書・十月の会	書
10.27 ~ 10.30	第41回 聚英展	書
11.16 ~ 11.20	第33回光風工芸「明日へのかたち」展	工芸総合
11.17 ~ 11.20	第29回光熱能面會展	諸工芸(能面)
11.23 ~ 11.27	第33回 工芸美術 創工会展	工芸総合
12.14 ~ 12.18	第18回京都現代写真作家展 受賞者記念展	写真
2023 1.11 ~ 1.15	第3回 菟園會展	書
2.24 ~ 2.26	京都橘大学 2022年度卒業制作展	書
2.23 ~ 2.26	水明書道会 第16回 墨聚展	書
3.8 ~ 3.12	第一美術 サムホール展	洋画
3.22 ~ 3.26	第66回 あまがつ会人形展	諸工芸
3.22 ~ 3.26	第30回 新日美 京都支部展	美術総合

3.23 ~ 3.26	第43回 京都現代書芸展	書
計 30件 (113日間) 28,102名		

作家利用分野別件数・入場者数一覧

	美術						工芸				美術工芸 総合	総計
	日本画	洋画	書	写真	彫刻	美術総合	染織	陶芸	諸工芸	工芸総合		
使用件数	5	3	9	3	0	1	0	0	4	3	2	30
割合 (%)	17%	10%	30%	10%	0%	3%	0%	0%	13%	10%	7%	100%
入場者数	7,376	1,870	7,263	2,757	0	796	0	0	1,953	4,989	1,098	28,102
1件平均入場者数	1,475	623	807	919	0	796	0	0	488	0	0	937

*諸工芸には、能面・人形を含む。

2) 京都文化財団展示室運営委員会

美術・工芸作家等が京都文化博物館5・6階展示室及び京都府立文化芸術会館展示室を使用するにあたって、展示室運営を適正かつ円滑に進めるために、京都文化財団では展示室運営委員会を設置している。本委員会の委員は学識経験者ならびに美術・工芸作家の中から理事長が委嘱し、任期は2年である。委員会の構成は学識者1名、日本画3名、洋画2名、彫刻1名、工芸3名（染織・陶芸・諸工芸各1名）、書2名（仮名・漢字各1名）、写真1名の計13名で、展示室の使

用を希望する美術・工芸作家などの作品について審議している。

2022年度の委員会は以下のとおり開催した。

【展示室運営委員会】

委員会開催日	審議対象期間	件数
2022年7月5日	2022年12月～2023年3月	8
2022年11月8日	2023年4月～2023年7月	14
2023年2月21日	2023年8月～2023年11月	9

3) 生涯学習的発表期間の利用

1998年より、5・6階各展示室に生涯学習的発表期間を設けた。これは美術・工芸作家の利用期間に準ず

る期間として、美術・工芸作家及び技能芸能継承者の指導するグループの発表期間を設けたものである。

生涯学習利用展覧会別入場者一覧

	会期	展覧会名	分野	入場者数
5階	2022 4.7 ~ 4.10	気楽会 書道展	書	194
	5.20 ~ 5.22	第八十回展 龍門社書展—大藪清雅先生を偲んで—	書	512
	6.15 ~ 6.19	第36回「竹の会」木版画展	諸工芸	312
	6.16 ~ 6.19	《十人十色 百角百巡》栄美子 戸田ローブとニューゼファーズ キルト展	諸工芸	908
	7.28 ~ 7.31	小田玉瑛卒寿の小品展	諸工芸	231
	8.24 ~ 8.28	第10回 ハクビ和紙ちぎり絵学院 京都全国展	諸工芸	457
	8.24 ~ 8.28	第10回 カリグラファーズ・ギルド作品展	諸工芸	610
	9.7 ~ 9.11	着物リメイク (NHK JEUGIA) 教室発表会	諸工芸	357
	9.8 ~ 9.11	第33回 虹の会 中藤益子画伯とその仲間たち	日本画	331
	10.7 ~ 10.10	創部86年 京都大学 写真部OB展	写真	367
	10.8 ~ 10.10	第18回 京都ヴォーグ 素敵なおニット展	諸工芸	218
	10.8 ~ 10.10	第39回 龍雲会書展	書	519

2023	10.14 ~ 10.16	SKYふれあい作品展2022	(美術) 総合	1,508
	11.4 ~ 11.6	第59回 仏教美術展	(美術) 総合	1,605
	11.10 ~ 11.13	第55回記念 心象書展	書	1,540
	1.20 ~ 1.29	第35回 京都美術文化賞 受賞記念展〈23日休室〉	美術工芸総合	1,309
	2.16 ~ 2.19	京都工芸繊維大学 卒業・修了制作展2023 デザイン・建築学課程	(美術) 総合	1,440
	3.1 ~ 3.5	'22 写人展	写真	436
	3.3 ~ 3.5	第36回 全国シルバー書道展 京都展	書	540
	3.8 ~ 3.12	第22回 福知山市佐藤太清賞公募美術展	(美術) 総合	371
	3.16 ~ 3.19	CROSSING BORDERS 2023 in KYOTO	諸工芸	1,152
	3.31 ~ 4.2	創立四十五周年記念 宏志會書展	書	353

計22件 使用日数：90日

15,270名

※「創立四十五周年記念 宏志會書展」(3/31～4/2)については、利用件数及び入場者数を今年度に含める。

	会期	展覧会名	分野	入場者数	
6階	2022	4.20 体験学習 (狂言鑑賞)	その他	220	
		4.23 風楽和〈華〉コンサート Vol.10 地歌から現代邦楽	その他	60	
		5.21 ~ 5.22 第51回 京都女流京華会 いけ花展	(美術) 総合	792	
		5.24 体験学習 (落語鑑賞)	その他	138	
		5.26 体験学習 (落語鑑賞)	その他	144	
		5.28 ~ 5.29 第16回 いづみ会書展	書	394	
		5.31 体験学習 (雅楽鑑賞)	その他	145	
		6.4 体験学習 (漫才鑑賞)	その他	119	
		6.5 体験学習 (漫才鑑賞)	その他	200	
		6.15 体験学習 (漆器色絵付)	その他	224	
		6.16 体験学習 (学年集会)	その他	192	
		6.19 京都文博 晰の会 Vol.20 玉川太福 独演会	その他	85	
		6.26 地唄奨励会 (勉強会)	その他	46	
		7.15 体験学習 (振り返り学習)	その他	70	
		7.17 競技かるた練習会	その他	50	
		7.23 第9回 京 笑いの会	その他	70	
		8.26 ~ 8.28 オール花園大学書道展	書	489	
		9.11 京都文博 晰の会 vol.21 笑福亭松喬 独演会	その他	180	
		10.9 花形演芸フェスティバル in 京都	その他	120	
		10.10 桂三風 たったひとり会 ~つなぐ~	その他	130	
		10.13 ~ 10.16 繡華の饗宴	諸工芸	426	
		10.22 ~ 10.23 第38回 文化書道近畿連合会展	書	472	
		11.6 華道 御幸遠州流展 2022 - 秋麗 - あきうらら	(美術) 総合	560	
		11.17 体験学習 (舞妓鑑賞)	その他	148	
		11.23 第10回 京 笑いの会	その他	60	
		11.26 ~ 11.29 馨椒会書展 (28日休室)	書	251	
		12.2 ~ 12.4 美の装い 表具展 絵画を活かす伝統の技	その他	859	
		12.10 京都文博 晰の会 Vol.22 笑福亭たま 独演会	その他	132	
		12.24 浪曲でつづるあなたの町の物語 京都編~文覚、親鸞、左甚五郎に宮本武蔵!	その他	100	
		2023	1.9 令和五年 知ふみ書道 新春書初展	書	620
			2.16 ~ 2.19 京都工芸繊維大学 卒業・修了制作展2023 デザイン学専攻	(美術) 総合	1,385
			3.10 ~ 3.12 アルスシムラ 2022年度卒業制作展 (3/11 関連講演会開催)	染織/染色	665
			3.16 ~ 3.19 CROSSING BORDERS 2023 in KYOTO	諸工芸	1,130

計33件 使用日数：53日

10,676名

【生涯学習利用分野別件数・入場者数】

	和装 呉服	美 術							工 芸					美術 工芸 総合	総計	
		日本画	洋画	書	写真	その他	美術総合	小計	染織	陶芸・金 竹・漆	諸工芸	工芸総合	小計			
5階	件数	—	1	—	6	2	—	4	13	—	—	8	—	8	1	22
	日数	—	4	—	18	9	—	15	46	—	—	35	—	35	9	90
	人数	—	331	—	3,658	803	—	4,924	9,716	—	—	4,245	—	4,245	1,309	15,270
6階	件数	—	—	—	5	—	22	3	30	1	—	2	—	3	—	33
	日数	—	—	—	11	—	24	7	42	3	—	8	—	11	—	53
	人数	—	—	—	2,226	—	3,492	2,737	8,455	665	—	1,556	—	2,221	—	10,676

※6階「その他」は体験学習、落語会、邦楽演奏会等。
 ※「(美術)総合」に絵画、華道含む。

4) 一般の利用

5階展示室及び6階展示室は美術・工芸作品の展覧会などの他、京物と称される京都の伝統産業製品を紹介することを目的とした展示会、内見会、見本市などの会場としても利用されている。

【一般利用分野別件数・入場者数】

	和装呉服	染織	美術	工芸	その他	小計	
5階	件数	2	—	1	—	2	5
	日数	5	—	4	—	6	15
	人数	450	—	254	—	2,100	2,804
6階	件数	18	—	—	—	—	18
	日数	39	—	—	—	—	39
	人数	2,740	—	—	—	—	2,740

※美術：日本画、洋画、書、写真、華道など

VI-2 別館ホール

旧日本銀行京都支店（重要文化財）の営業室であった別館ホールは、通常は明治時代の代表的な洋風近代建築の内部を公開しているが、一方で多目的ホールとしての機能も持っている。特別展の開会式やレセプション、音楽会など館主催の事業に使用するとともに、貸会場として展覧会や音楽会、また展示即売会等の商業

催事からファッションショーまで様々な催事の利用に供している。

近年は、KYOTOGRAPHIEやARTISTS' FAIR KYOTOなど、大型展覧会の開催により新たな客層の賑わいが生まれており、ホールの利用に合わせたサブイベントとして、講義室やウッドデッキの利用も増えている。

【別館利用状況一覧】

会 期	展覧会・音楽会名	会 期	展覧会・音楽会名
4.1 ~ 4.3	第36回 建築家展	5.22	京都フィルハーモニー室内合奏団 第245回 定期公演B 「バロック音楽の楽しみ」
4.3	ぶんぱくアートマルシェ	5.21 ~ 5.22	【ろうじ空きブース】 Artisan 極
4.9 ~ 5.8	KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭2022 ギイ・ブルダン The Absurd and The Sublime Presented by CHANEL NEXUS HALL	5.21 ~ 5.22	【三条ウッドデッキ】 ぶんぱくアートマルシェ
4.29 ~ 5.1	【ろうじ空きブース】 Artisan 極	5.27	修士演奏への道 丹治樹 打楽器リサイタル
5.14	【講義室】 ぶんぱく京都講座	5.28	京都フランス歌曲協会コンサート 「動物たちの音楽」
5.14	通崎睦美コンサート 今、甦る！ 木琴デイズ vol.16 「く木琴らしさ」を求めて」	5.29	リコのコンサート No.17
5.15	moumoon -SPRING ACOUSTICS 2022-	5.26	【講義室】 日本工芸会
5.21	染織光悦会	5.28	【ろうじ空きブース】 楽紙館 WS
		6.4	おむろんプラス 1st Concert

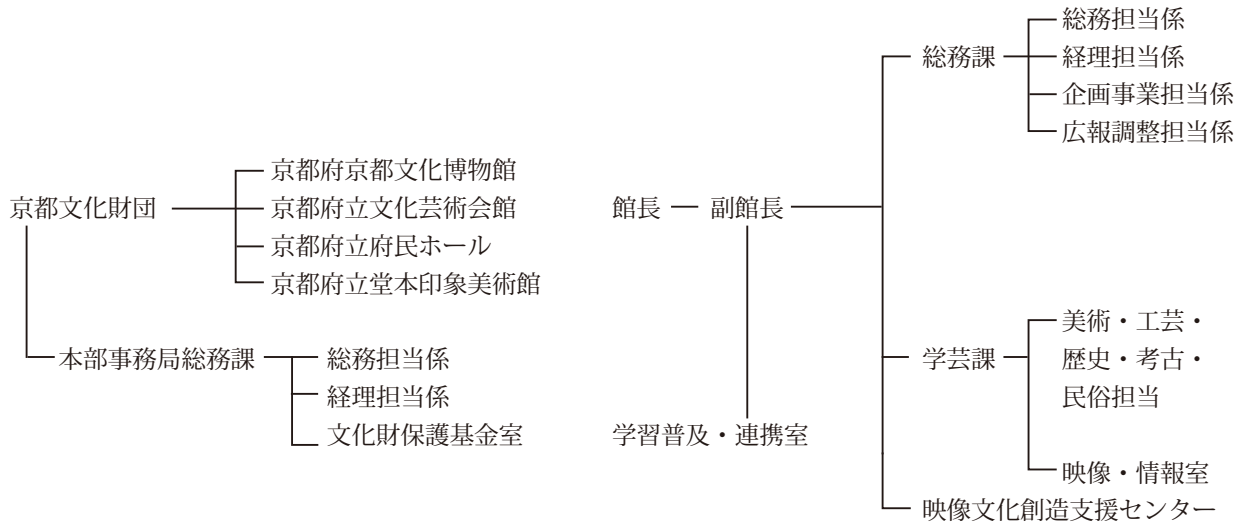
会 期	展覧会・音楽会名	会 期	展覧会・音楽会名
6.5	ジュスカ・グランペール Live Best Album “home” ツアーファイナルコンサート	9.4	【三条ウッドデッキ】 ぶんぱくアートマルシェ
6.7 ~ 6.12	【三条ウッドデッキ】 三条であそんでみよし	9.4	京都クラウディオ・モンテヴェルディ合唱団 第70回定期演奏会
6.9	ジラルデッリ青木美那 ヴァイオリンリサイタルwith佐藤卓史	9.9 ~ 9.11	京都手書道具市
6.11	J教授と気象予報士ともくんが探検する地球の未来(2回公演)	9.13	PAX MUNDI CONCERT タラス・デムチシン 綾・クレバーン デュオリサイタル
6.12	fulare_pad (フラリーパッド) ライブ	9.14	ドナルド・キーン生誕100年記念 街かど古典カフェ「キーンさんが愛した京都」
6.17	【講義室】 古代学協会	9.23 ~ 9.25	京都アート・クラフトマーケット2022秋
6.17 ~ 6.19	第37回 建築家展	9.27	Jazz at The Museum of Kyoto
6.17	【講義室】 三条まちづくり協議会総会	10.1	【講義室】 ぶんぱく京都講座
6.18 ~ 6.19	【三条ウッドデッキ】 ぶんぱくアートマルシェ	10.6	福井麻衣 佐藤響 ジョイントリサイタル
6.24	文博でうたおう! 合唱ワークショップ特別版 in 京都	10.7	大久保香・光永里子 フルードデュオリサイタルVol.6
6.25	PIANO QUARTET CONCERT Quartet Zingare ピアノ四重奏演奏会	10.8	京都 ♪音楽のおもちゃ箱♪ 主催 「京都から…音の贈り物」(2回公演)
6.26	mama!milk アネテ マチネとソワレの音楽会 un été un concert en matinee et soiree	10.9	坂本美雨 “birds fly Concert” in Kyoto
6.30	えばたんち with Friends!! In Kyoto	10.10	Hitoshi Nakatsugawa presents 西村理恵51st Anniversary Live ~生まれた街で~
7.3	遊佐未森コンサート	10.11 ~ 10.13	會田瑞樹・谷口かな ヴィブラフォンデュオリサイタル
7.8	KIRINJI 弾き語り ~ひとりで伺います	10.14 ~ 10.16	第4回 きょうと椅子
7.9	バレエとクラシック音楽によるコンサート『宮廷への誘い』 ~Bijoux~ 珠玉	10.20	平沼有梨 feat. 古澤巖 「光芒Vol.5」
7.10	笠原たか ソプラノリサイタル「思い出を辿って」	10.22 ~ 10.23	【三条ウッドデッキ】 ぶんぱくアートマルシェ
7.14	びっくりコンセルヴェ22「あら、ちょっと、訛ってません？」 異邦人のフランス音楽	10.22 ~ 10.23	第38回 建築家展
7.16 ~ 7.18	【三条ウッドデッキ】 ぶんぱくアートマルシェ	10.25	レクチャー・コンサート 東欧ユダヤ音楽クレスマー演奏会 〜シャガールが愛した、故郷の旋律「ウクライナのクレスマー」
7.16	祇園祭ミュージアムコンサート公益財団法人鷹山保存会 囃子方によるお囃子・鉦体験	10.28 ~ 10.30	京焼・清水焼伝統工芸士会40周年記念展「古都のWAZA」
7.17	祇園祭ミュージアムコンサート等曲生田流宮城社麗調会 による演奏会	11.5	ヒストリカ XR
7.18	京都すばる高校吹奏楽部OB会祇園祭コンサート	11.9	On & On, 洋の東西に潜む緋笛
7.22	【ARE YOU EXPERIENCED ?】 PERSONZ NEO ACOUSTIC SESSION 【中止】	11.11 ~ 11.13	KPA 「メイキングワークショップ2023」
7.23	通崎睦美 子どものための木琴デイズ	11.15	南佳孝 Soloism in Kyoto
7.24	祇園祭の宵に岩崎千恵子開軒44周年記念邦楽演奏会	11.16	通崎睦美コンサート 今、甦る! 木琴デイズ vol.17 「木 琴で愉しむオペラの世界」(2回公演)
7.28	京フィル第247回創立50周年記念 定期公演B「知られざる 名曲」	11.18 ~ 11.20	第24回 佐々木真弓・アトリエエンジェル ステンドグラスランプ展
7.16 ~ 7.18	【三条ウッドデッキ】 丹山酒造	11.19 ~ 11.20	【三条ウッドデッキ】 ぶんぱくアートマルシェ
7.20 ~ 7.23	【三条ウッドデッキ】 丹山酒造	11.22	工芸美術創工会 授賞式
7.29 ~ 7.31	「本山秀毅コーラス・ワークショップ2022」	11.23	チャラン・ポ・ランタンコンサート (2回公演)
8.6	哀愁の調べ再び 京へ 崎村潤子ツインパロンリサイタル	11.25 ~ 11.27	第39回 建築家展
8.7	NaKaNaKa × NakaYoshi vol.3 二組の連弾デュオによる ジョイントリサイタル	11.29 ~ 12.5	貴久樹 天竺展
8.11	京都バッハ合唱団特別演奏会「時代精神に息づく信仰」 【知られざるイタリアバロックの名曲を集めて】	12.1	【講義室】 日本工芸会近畿支部会議
8.13	アンサンブルグループさいさい 打楽器アンサンブルコン サート vol.3	12.6	ヴァイオリン、ヴィオラ、ピアノによる 年忘れ 室内楽コンサート
8.14	フェリックス室内合奏団 第33回演奏会	12.7	Amo Italia! 2022
8.16 ~ 8.18	COOL MUSIC SPOT in The Museum of Kyoto	12.8 ~ 12.9	The Light + Your Right # 瀕死の白鳥
8.19	伊澤一葉 “8888”	12.10	西垣正信 クリスマスギターリサイタル
8.20 ~ 8.21	君島大空 京都単独公演「外は夏の形」	12.10	【講義室】 ぶんぱく京都講座
8.24 ~ 8.25	サマーミュージアムコンサート2022 at 京都文化博物館	12.11	moumoon' s Christmas Acoustics 2022 (2回公演)
8.27	第23回 夏のひととき	12.15	寺尾紗穂 わたしの好きなならべうた
8.28	トランペット発表会 (福田裕司)	12.16	アンサンブル・プリンチピ・ヴェネツィアーニ 「クリスマス物語」
8.31	アンサンブルココア 新進演奏家・合唱団とともに	12.17 ~ 12.18	京都市立芸術大学 THE GIFT BOX 2022
8.27 ~ 8.28	【三条ウッドデッキ】 ぶんぱくアートマルシェ	12.20	石崎ひゅーい ナイトミルク LIVE 10th Anniversary Christmas Special
9.2	京都市立芸術大学 古典派音楽研究会同窓会による室内楽 の夕べ	12.21	北野幼稚園 歌とリズムの音楽会
9.3	※7/22(金)延期公演【ARE YOU EXPERIENCED ?】 PERSONZ NEO ACOUSTIC SESSION	12.22	京都フィルハーモニー室内合奏団定期公演B 「今年の暮 れはブラームス」
		12.23	武満徹 SONGS (中嶋俊晴・岡本拓也)

会 期	展覧会・音楽会名	会 期	展覧会・音楽会名
12.24	Marihiko Hara 《For A Silent Space 2022》（2回公演）	2.18 ～ 2.19	【三条ウッドデッキ】ぶんぱくアートマルシェ
12.25	Joyful Bells 第15回ハンドベルコンサート（2回公演）	2.21	京都市立芸術大学 古典派音楽研究会 第6回定期演奏会
12.24 ～ 12.25	【三条ウッドデッキ】ぶんぱくアートマルシェ	2.22	【ろうじ店舗空スペース】マイナンバー
1.7	新春西村由紀江コンサート【中止】	2.23	京都ファインアーツ・プラス 第24回演奏会
1.8	JMコンサート	3.4 ～ 3.5	ARTISTS' FAIR KYOTO 2023
1.9	混声合唱団 アンサンブル・アワーズ コンサート	3.3 ～ 3.5	【ろうじ店舗空スペース】ARTISTS' FAIR KYOTO 2023
1.13	安藤裕子アコースティックツアー『アナタ色ノ街』2022-2023	3.11 ～ 3.12	第20回 みやこの粋 京の技展
1.14	視覚文化連続講座「視覚文化に分け入る」大野淑嵩と日本画の作家達	3.15	井伊光瑠ヴァイオリンリサイタル
1.14	【講義室】ぶんぱく京都講座	3.17 ～ 3.19	京都アート・クラフトマーケット2023春
1.15	アンサリー/浜端ヨウヘイコンサート	3.21	JEUGIA ミュージックサロン京都駅 発表会 Recital 2023
1.21 ～ 2.5	Kyoto Art For Tomorrow 2023 京都府新鋭選抜展	3.24 ～ 3.26	第40回 建築家展
1.26	【講義室】日本工芸会	3.25 ～ 3.26	【三条ウッドデッキ】ぶんぱくアートマルシェ
1.28 ～ 1.29	【三条ウッドデッキ】ぶんぱくアートマルシェ	3.30	松浦萌歌 前田柚子 鈴木杏奈 トリオリサイタル
2.3	【講義室】日本工芸会	3.31	田久保友妃 無伴奏ヴァイオリン&弦楽四重奏リサイタル
2.16 ～ 2.19	京都工芸繊維大学 建築学専攻終了制作展2023		入場者数 計120,406名

VII 管理・運営

VII - 1 組織と職員

1) 組織



※総務担当係および経理担当係は京都文化財団本部総務課を兼ねる

2) 京都文化財団

【京都文化財団役員名簿】

2023年3月31日現在

職名	氏名	所属等	職名	氏名	所属等
顧問	西脇 隆俊 千 玄室	京都府知事 前京都文化財団副理事長、前茶道裏千家家元	理事	高階 絵里加	京都大学大学院地球環境学堂教授、 京都大学人文科学研究所教授
理事長	山田 啓二	京都文化博物館館長、前京都府知事		並木 誠士	京都工芸繊維大学特定教授、美術工芸資料館館長
常務理事	金谷 宗子	京都文化博物館副館長、京都文化財団事務局長		深尾 憲一	弁護士
理事	植村 幸弘	京都中央信用金庫常務理事		吉田 忠嗣	吉忠株式会社代表取締役社長
	奥野美奈子	株式会社京都銀行取締役	監事	光田 周史	公認会計士
	金田 章裕	京都府立京都学・歴史館館長、京都府公立大学法人理事長		中村 健児	一般社団法人京都銀行協会専務理事

【京都文化財団評議員名簿】

職名	氏名	所属等	職名	氏名	所属等
評議員会長	山極 壽一	総合地球環境学研究所所長、前京都大学総長	評議員	坂口 博翁	僧侶・一般財団法人京都仏教会常務理事 (*2023.1.31就任)
評議員	赤松 玉女	公立大学法人京都市立芸術大学理事長・学長		佐々木正子	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学学長、 学校法人大覚寺学園理事
	池坊 雅史	華道家元池坊総務所事務総長		潮江 宏三	美術評論家、京都市立芸術大学名誉教授
	上原 雅明	学校法人小野幼稚園理事長・園長		杉本 節子	料理研究者、公益財団法人奈良屋記念杉本家 保存会常務理事
	上村 淳之	日本画家		田中 恆清	石清水八幡宮宮司
	梅原ひまり	ヴァイオリニスト		名和 修	公益財団法人陽明文庫常務理事・文庫長
	大西 祐資	京都新聞社代表取締役社長・主筆 (*2022.11.23就任)		古川 博規	京都府副知事
	杭迫 柏樹	書家		冷泉 為人	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長
	兒島 宏尚	京都商工会議所専務理事			
	金剛 永謹	能楽金剛流宗家			

3) 京都文化博物館

【京都文化博物館職員名簿】

2023年3月31日現在

所 属	職 名	氏 名	担 当 業 務
	名誉館長 館長 副館長	荒巻 禎一 山田 啓二 金谷 宗子	館総括 館業務総括
総務課	総務課長 総務課参事（文化財保護基金担当課長兼務）総務担当係長事務取扱 経理担当係長 課長補佐兼企画事業担当係長・文化財保護基金担当係長 調査役 主任 副主査 担当係長 主任 主事 主事 主事 主事	田尻 篤子 佐藤 幸央 西村 尚久 海老名 和孝 磯野 真知子 高桑 鉄則 宮本 幸樹 新谷 婦美子 竹内 文香 岡田 友美 大矢 亜美 武田 依子 森 麻紀子	課総括 総務担当業務 経理担当業務 企画事業担当業務 広報調整担当業務 企画事業担当業務 企画事業担当業務 企画事業担当業務 広報調整担当業務 総務担当業務 経理担当業務 企画事業担当業務 広報調整担当業務
学芸課	課長 映像文化創造支援センター長、映像・情報室長事務取扱 課長補佐 主任学芸員 調査役 学芸員 学芸員 学芸員 学芸員 学芸員 学芸員 学芸員 学芸員 学芸員	洲鎌 佐智子 森脇 清隆 橋本 章 畑 智子 林 智子 植田 彩芳子 西山 剛 村野 正景 大矢 敦子 清水 智世 有賀 茜 佐藤 稜介 上村 茉梨絵	課総括 映像・情報 民俗 工芸 染織 絵画 歴史・文献 歴史・考古 映像・情報 絵画 絵画 歴史・文献 デジタルアーカイブ

VII-2 施設

1) 本館関係

所在地：京都市中京区高倉通三条上ル東片町623-1
 設計：京都府土木建築部営繕課・株式会社久米建築事務所

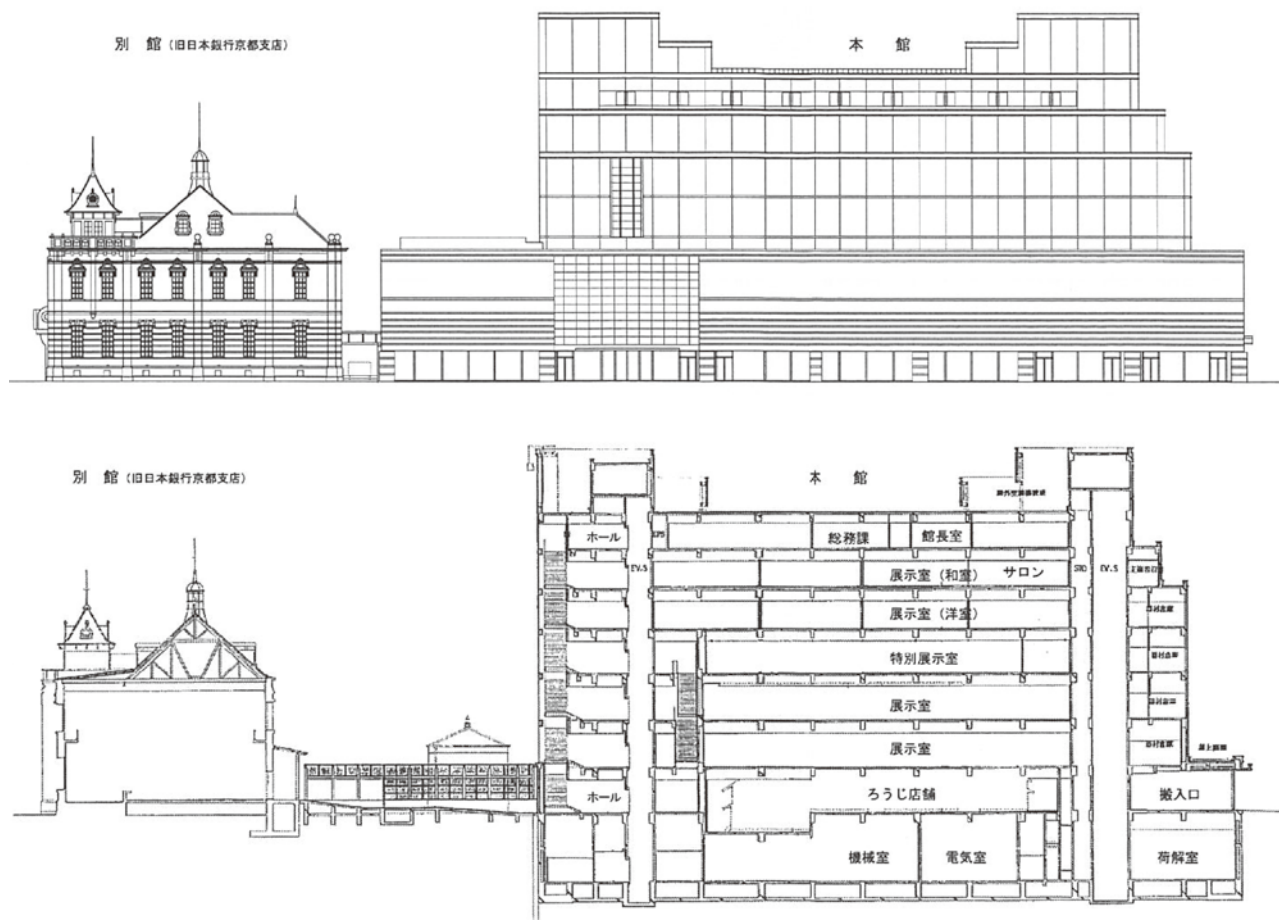
施工期間：1986年10月～1988年9月
 2010年12月～2011年7月
 (リニューアル工事実施)

敷地面積：4,830.0㎡ (別館を含む)
 建築面積：3,646.5㎡ (別館を含む)
 延床面積：15,854.7㎡ (別館を含む)
 本館床面積：13,591.8㎡

(内訳) 地階 2,242.4㎡ / 1階 2,251.7㎡
 2階 1,892.8㎡ / 3階 1,908.7㎡
 4階 1,442.1㎡ / 5階 1,442.1㎡
 6階 1,218.2㎡ / 7階 1,010.4㎡
 塔屋 182.8㎡

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造 / 一部鉄骨造

【京都文化博物館断面図】



2) 別館関係

所在地：京都市中京区三条通高倉西入ル
 菱屋町48番地

設計：辰野金吾・長野宇平治

施工期間：1903(明治36)年9月
 ～1906(明治39)年6月

延床面積：2,249.3㎡

別館構造：建築面積……819.7㎡

煉瓦造、2階建一部地下1階

スレート・銅板葺、両翼塔屋付

旧金庫構造：建築面積……237.1㎡

煉瓦造、1階建、棧瓦葺

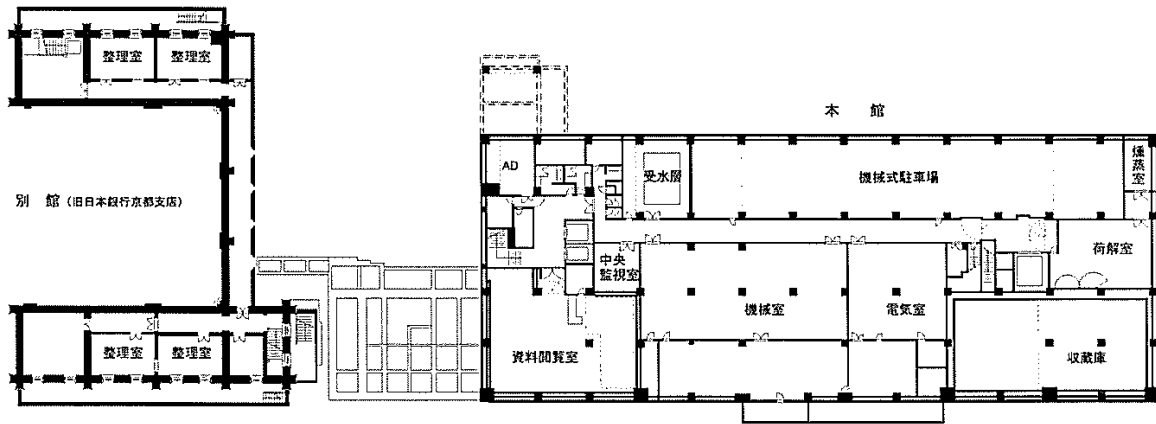
指定：重要文化財

指定名称 旧日本銀行京都支店

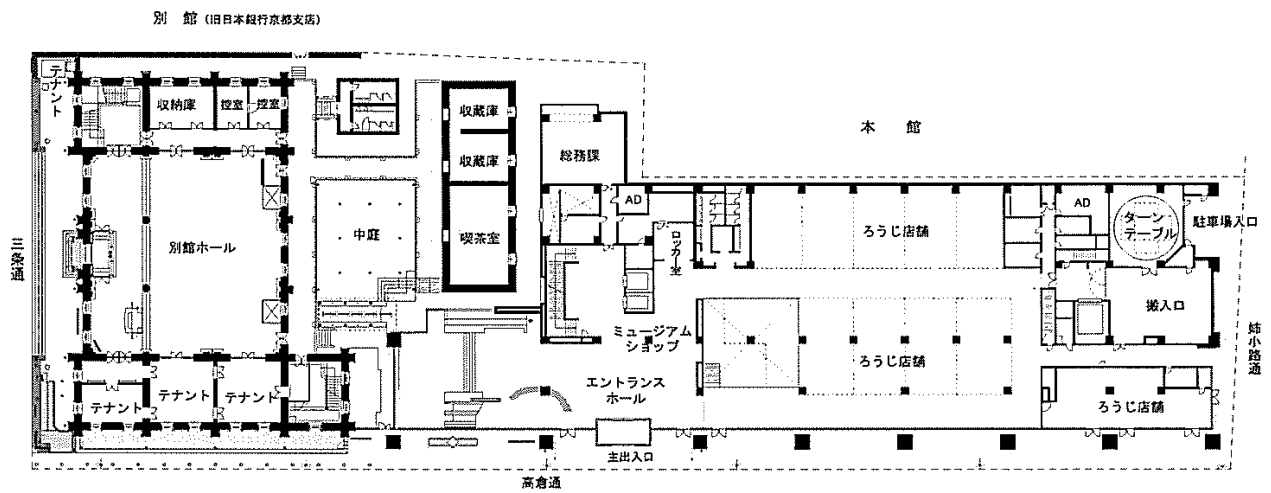
指定年月日 1969年3月12日

指定書番号 建第1,708号

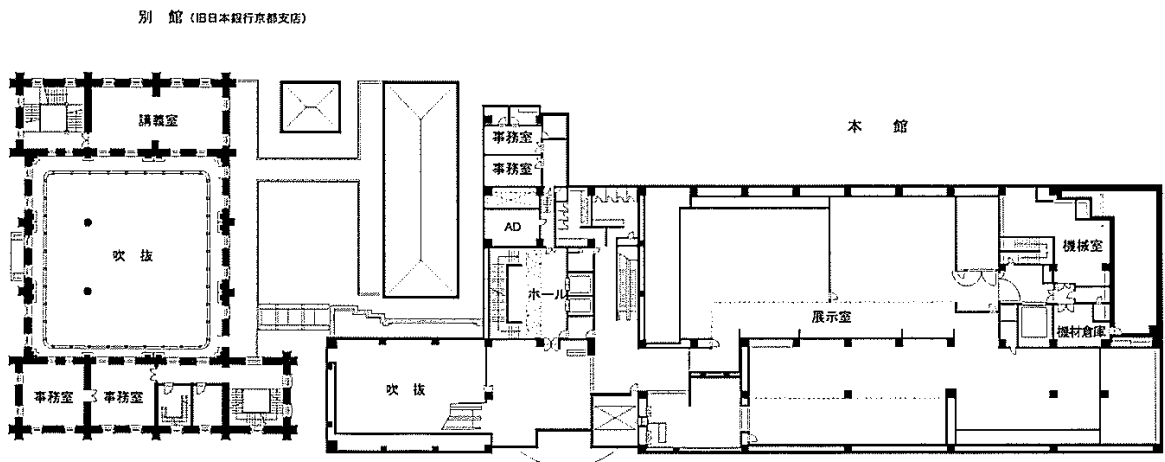
【京都文化博物館 地下1階平面図】



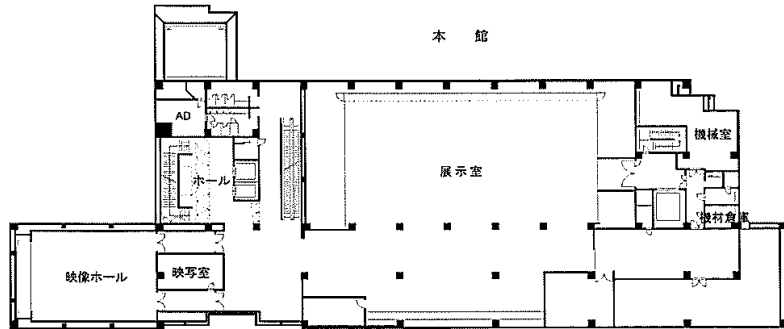
【京都文化博物館 1階平面図】



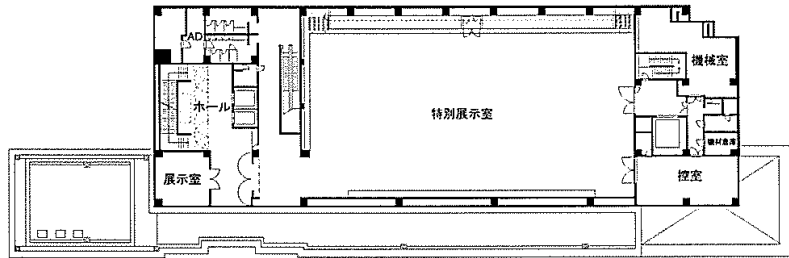
【京都文化博物館 2階平面図】



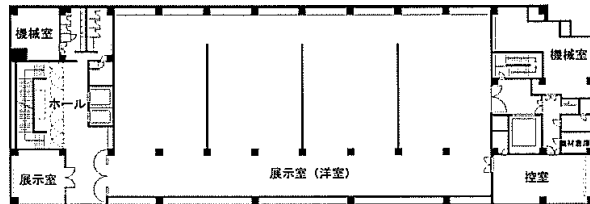
【京都文化博物館 3階平面図】



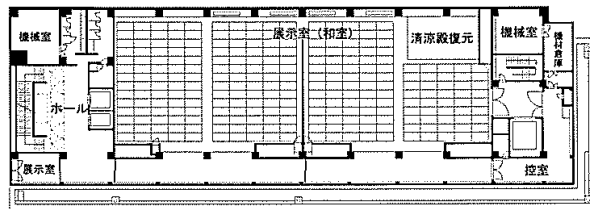
【京都文化博物館 4階平面図】



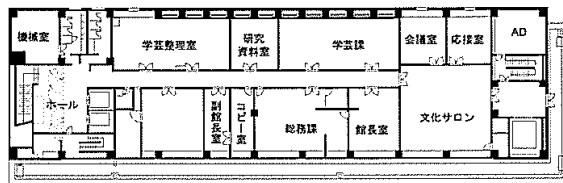
【京都文化博物館 5階平面図】



【京都文化博物館 6階平面図】



【京都文化博物館 7階平面図】



VII-3 館内店舗

「ろうじ店舗」は本館1階にあり、江戸時代末期の京町家の表構えを復元したものである。高倉通側には主に飲食店、西側の路地では物販店を営業している。別館には、明治の洋風建築をそのまま活用した物販店や、旧金庫室を改造した喫茶店があり、京町家の建築

美や近代日本の歴史に触れながら、営業している。また、店舗各店で作る「ろうじ店舗博和会」は当館の協力会として催しにあわせて積極的に活動している。本年度のろうじ店舗利用者は84,853名であった。

1) ろうじ店舗一覧

- ◇和紙と和紙小物の店—楽紙館
- ◇京の精進食堂 松富や壽 采
- ◇「あめとかふえ とにまる」

- ◇東京料理 京都 なた万賓館
- ◇京・嵐山上流の蔵 京丹山
- ◇Ququul 京都文化博物館ミュージアムショップ

◆店舗スペース 催事等の活用実績

Artisan 極「アーティストと職人たちによる祭典」	4月29日（金・祝）～5月1日（日）
Artisan 極「アーティストと職人たちによる祭典」	5月20日（金）～5月22日（日）
楽紙館「和紙ネイルでネイルチップを作ろう！」	5月28日（土）
ゴールデンカムイ展 物販他控え室利用	7月9日（土）～9月11日（日）
京都アートクラフトマーケット控え室利用	9月22日（木）～25日（日）
ART for the Future 2「五劫のすりきれ」	9月24日（土）～10月10日（月・祝）
とにまる 臨時お客様席利用	10月28日（金）～10月30日（日）
ART for the Future 2「龍の存在を無視できない」	11月29日（火）～12月11日（日）
JTB 京都市マイナンバーカード出張申請窓口	2023年2月22日（水）
京都アートクラフトマーケット控え室利用	3月16日（木）～19日（日）

2) 別館店舗一覧

- ◇前田珈琲 文博店
- ◇Contemporary Art JARFO 京・文博

- ◇和雑貨—くろちく 文博店
- ◇かばん onomasato

3) 博和会・ろうじ店舗行事

【博和会行事】

区 分	名 称	開催日/期間	参加者数
博和会イベント	2022京都文化博物館ライトファンタジー ハンドベルミニコンサート	2022年11月25日（金）	120名
博和会キャンペーン	SNSキャンペーン（ろうじ店舗の写真をSNS投稿） 抽選で5名にプレゼント	2023年4月19日（水）締切り	34名
	特別展・総合展の半券でおトクキャンペーン	2023年4月～	—

VIII 新型コロナウイルス 感染症予防対策

VIII-1 新型コロナウイルス感染症予防対策による休止等の対応

感染予防対策については、京都府対策本部会議の決定及び日本博物館協会ガイドラインに沿って、当館ガイドラインを改定し、マスク着用が個人の判断となった3月13日以降も引き続き基本的な感染防止対策に取り組んだ。

●通年でおこなった具体的な取組

- ・展示室混雑状況のツイッター発信
- ・受付カウンター等にアクリル板、フロアマーカの設置
- ・抗菌・抗ウイルスコーティング剤の塗布
- ・マイナスイオン発生機の設置
- ・電子マネー、クレジットカードのキャッシュレス決済
- ・別館ホールにネットワーク環境整備
- ・エレベーターの定員9名(令和5年5月8日終了)
- ・サーモグラフィーカメラの設置による検温(令和5年5月8日終了)
- 令和4年10月1日以降の対応(令和5年5月8日終了)
 - ・事情でマスクが着用できない場合、入館不可ではなく、大声を出さないよう協力依頼
 - ・フィルムシアターについては、マスク着用要請エリアとして着用ない場合は入場不可。
 - ・講演会講師については、アクリル板で感染予防対策
- 令和5年3月13日以降の対応(令和5年5月8日終了)
 - ・マスクの着用は個人の判断
 - ・館内音声でのマスク着用呼びかけ、貼り紙を廃止
 - ・来館者等府民応対窓口は原則マスク着用

VIII-2 新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(第3次版)

京都文化博物館

新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(第3次版)
令和4年10月1日改定

I 共通事項(施設利用者、従業員(館内店舗、委託業者を含む))

(1) 来館前の検温実施の要請の他、来館自粛を求める条件を事前にホームページ等で周知するとともに、館内に明示する。従業員に対しては、必要に応じて医療機関等の受診を促すとともに、自宅待機させる。
— 平熱と比べて高い発熱(目安として37.5℃以上、以下同じ。)のある場合、咳・咽頭痛等感冒様の症状がある場合
— 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合
— 過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある場合 等

(2) サーモグラフィー等による来館者に対する検温を実施し、平熱と比べて高い発熱がある場合は、入館を制限する。

(3) 対人間の接触をできるだけ避け、最低限人と人が接触しない程度の間隔を確保し、入口等の行列が生じる時は、必要に応じてフロアマーカ等を設置し、十分な間隔(最低1m)を空けた整列等を促す。

(4) マスク着用の要請、咳エチケット、手洗い、配置された手指消毒剤による手指の消毒を徹底する。

(5) 対面での対応する場合、アクリル板等により来館者との間を遮蔽する。

(6) 従業員は現金等を扱う際は手袋を着用し、現金の取扱いを減らすためキャッシュレス決済を導入する。

(7) 施設内共有部分(エレベーターボタン、手すり等)の定期的な消毒、ペーパーカー、車椅子等の貸出物の消毒を行う。

(8) エレベーターの定員は、9人とする。

(9) 施設内が密になる時間帯の空調の換気を強化するなど適切な換気に努める。

(10) 大声を出さないよう注意喚起する。

(11) 従業員のユニフォーム等のこまめな洗濯を行う。

(12) 万一が感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、来館者(観覧会、フィルムシアター、貸館利用者)等の連絡先の把握に努める。

(13) 感染者が発生した場合は、保健所等の聞き取りに協力し、必要な情報提供を行う。

(14) 従事者及び来館者に対し、差別防止の徹底について周知する。

II 観覧会での留意点

(1) 感染予防のため、チケット等のもぎり等は原則来場者本人にしてもらう。

(2) 感染予防のための入館の制限を実施する。

(3) 展示室内で入場者の滞留が発生しないための措置を講じるとともに、会話を控えるよう求める。

(4) ハンズオン作品は原則展示しない。やむを得ない場合は職員が管理して消毒を徹底する。

1

(5) 感染者の発生等にもない、保健所等の指導による展示室等の消毒が行われる場合、露出展示されている展示物や展示ケースへの悪影響に備え、あらかじめ展示物や展示ケースと来館者の距離を長めに設定し、導線を検討する。

III 博物館における公演等の開催に際し、「I 共通事項」の他に前すべき対策

施設において、講演会、コンサートや演劇等の公演等(以下「公演等」という。)が開催される場合には、以下の措置を講ずることとし、その際、措置を講ずるべき主体は、公演等の主催者であることに留意し、施設管理者との連携・協力の下で以下の対策を実施する。

1 公演等前

- 主催者において、チケットシステム等により把握している範囲で当該公演等の来場者(以下「公演来場者」という。)の氏名及び緊急連絡先の把握に努める。また、公演来場者に対して、こうした情報が必要に応じて保健所等の公的機関へ提供され得ることを事前に周知する。
- 公演等のスタッフ(以下「公演スタッフ」という。)の氏名及び緊急連絡先を把握し、名簿を作成する。また、公演スタッフに対して、こうした情報が必要に応じて保健所等の公的機関へ提供され得ることを事前に周知する。
- 本ガイドライン及び施設ごとの対応方針について、全員に周知徹底を図る。

2 公演等当日

- 公演来場者の感染防止策は「I 共通事項」及び以下のとおりとする。
 - マスクを着用していない公演来場者に対してマスクの着用を要請する。
 - 密が、密が発生しない程度の間隔(最低限人と人が接触しない程度の間隔)を確保する。また、大声を出す者がいた場合、個別に注意、対応等ができるような体制を整備する。
 - 合唱等の演者が発声する公演等については、舞台から公演来場者の間隔を最低2m確保するとともに、演者間の感染リスクが低減される措置を講ずる。
 - 公演等中の公演来場者同士の接触は控えるよう周知する。
 - 公演来場者と接触するような演出(公演来場者をステージにあげる、ハイタッチをする等)は行わないこととする。
 - 場内における会話制限を実施する。
 - 公演スタッフの感染予防策として、催事の運営に必要な最小限の人数とする。
- 会場内の換気を行う。
- 人員の配置や導線の確保等により、休憩時間や待合場所等での密集を回避する。
- 入待ち・出待ちは控えるよう呼びかける。
- 感染が疑われる者が公演等中に発生した場合は、VI(5)と同様に取り扱う。
- 感染が疑われる者が公演等の終了後に発生したことが判明した場合、京都文化博物館に連絡を行うとともに、保健所等の公的機関による聞き取りに協力し、必要な情報提供を行う。

IV フィルムシアターでの留意点

マスクを着用していない来場者に対してマスクを販売、配布するなど、常時マスク着

2

用を徹底する。

入退出時(入退出時の行列含む)や集合場所等において人と人との十分な間隔(できるだけ2m、最低1m)を確保し、入口前にフロアマーカを設置する。

V 貸館での留意点

主催者は、当ガイドラインに基づき事業を実施するとともに、施設管理者が通知する留意事項に従う。十分な感染対策等が講じられないと判断された場合は、当該主催者に対して開催の自粛を促す。

VI 施設の感染対策

(1) 飲食

- 飲食用に感染防止策を行ったエリア以外での飲食を制限する。
- 対面での飲食や会話を回避するよう促す。

(2) トイレ

- 清掃を徹底するとともに、不特定多数が接触する場所は、清拭消毒を行う。
- トイレの水を流す際は、トイレの蓋を開けて行うよう表示する。

(3) 清掃、消毒等

- 清掃従事者は、殺菌が認められる薬品等を利用し、不特定多数が触れる環境表面を清拭消毒する。
- 清掃従事者は、異水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛る。
- 清掃従事者は、必ずマスクや手袋を着用し、作業完了後手洗いを要する。
- 清掃従事者は、業務完了後にマスクや手袋を脱いだ後、必ず石鹸と流水で手を洗う。

(4) 店舗

テナント事業者等と連携の上、以下の措置を講ずる。

- 飲食物を提供する場合、家族等の一集団と他の集団との間隔が概ね1m以上となるよう座席を配置するよう、各店舗において席の位置を工夫する。
- 混雑時の入場制限を実施する。
- 施設内の換気を徹底する。
- 食器、テーブル、椅子等の消毒を徹底する。
- 飲食施設に関わる従業員は、体調管理、マスクの着用及び手指消毒を徹底し、飲食施設の利用者も手指消毒を行ってから入場する。
- 物販を行う場合は、多くの者が触れるようなサンプル品・見本品は取り扱わない。

(5) その他

館内において、感染が疑われる者が見つかった場合、以下のとおり対応する。

- 感染が疑われる者を速やかに待機場所へ隔離する。
- 対応する従事者は、マスク、防護服、手袋の着用等適切な防護対策を講ずる。
- 速やかに、保健所等へ連絡をとり指示を仰ぐ。
- 当該者が感染していた場合は、保健所等との連携の下に、速やかな情報公開等事後の対策を講ずる。
- 貸展示室利用者等において、感染が疑われる者が見つかった場合は、速やかに京都文化博物館総務課まで連絡をとること。

3

IX 2022(令和4)年度 のあゆみ

※事項欄の「FT」はフィルムシアターの略

月日	事項	
2022年4月1日	常設上映「ジャパニーズ・ロード・ムービー旅する時代劇」	～4月22日/FT
4月2日	総合展「鎌倉武士の物語と京都」	～6月5日/2階
4月23日	特別展「鈴木敏夫とジブリ展」	～6月19日/3・4階
4月23日	常設上映「【鈴木敏夫とジブリ展 関連映画上映】みんな映画が好きだった、僕も。ー京都府所蔵映画作品より鈴木敏夫セレクションー」	～6月19日/FT
6月4日	総合展「没後70年 梶本一洋 ～優美なる日本画の世界～」	～7月31日/2階
6月11日	総合展「祇園祭 ～鷹山復興記念展～」	～8月7日/2階
6月21日	EUフィルムデーズ2022映画でつながるヨーロッパ	～7月18日/FT
7月9日	特別展「ゴールデンカムイ展」	～9月11日/3階・4階
7月20日	常設上映「祇園祭と京の文化・伝統工芸」	～8月3日/FT
8月5日	第28回 京都国際子ども映画祭	～8月7日/FT
8月6日	総合展「ドナルド・キーン 生誕100年記念 ドナルド・キーンと画家・井澤元一」	～10月2日/2階
8月9日	常設上映「【没後10年】山田五十鈴と淡島千景を偲ぶ」	～9月11日/FT
8月13日	総合展「池大雅と玉瀾」	～10月10日/2階
8月14日	大野松雄 × 谷川俊太郎『聞いてきた音これから聞く音』対談ムービー上映会 in 京都	FT
9月2日	【第42回 日本映像学会関西支部夏期映画ゼミナール2022年】特集・東映京都撮影所ースターシステムから実録路線をこえてー	～9月4日/FT
9月13日	常設上映「【生誕120年記念】五所平之助監督初期作品集」	～9月30日/FT
9月15日	熱源設備(空調)等改修工事による臨時休館(1回目)	～9月22日
9月17日	京都府立京都学・歴史館展覧会「中井貞次と井俣慶人」	～11月6日/歴史館
9月24日	総合展「basement #01 五劫のすりきれ」	～10月10日/1階
10月1日	特別展「新選組展2022」	～11月27日/3・4階
10月1日	常設上映「【新選組展2022記念上映】映画に見る幕末京都の青春群像」	～10月28日/FT
10月8日	総合展「近衛家 王朝のみやび 陽明文庫の名宝12 宮廷行事と宸翰と歌懐紙」	～12月4日/2階
10月8日	総合展「京都洋画新人展 1967-1975」	～12月4日/2階
10月15日	総合展「ある画家による京都 西川純の素描」	～12月11日/2階
10月22日	京都ヒストリカ国際映画祭×立命館大学映像学部 第14回京都ヒストリカ国際映画祭イベント ～中国アニメ映画への招待～	FT
10月29日	第14回京都ヒストリカ国際映画祭	～11月6日/FT
11月19日	第44回びあフィルム・フェスティバル(PFF)	～11月27日/FT
11月29日	総合展「basement #02 藤 浩志展「龍の存在を無視できない」」	～12月11日/1階
12月2日	京まちなか映画祭2022 in 京都文化博物館	～12月4日/FT
12月10日	総合展「京都府内の学校所在資料展2」	～1月29日/2階
12月17日	総合展「信仰の美ー筆に託した祈りの世界ー」	～2月5日/2階
12月18日	京都建築映像祭2022	FT
12月23日	EUフィルムデーズ2022特別上映	FT
12月24日	UNDERGROUND CINEMA FESTIVAL '22 サイケデリックと越境の旅	～12月25日/FT
12月25日	熱源設備(空調)等改修工事による臨時休館(2回目)	～2023年1月6日
2023年1月14日	京都府立京都学・歴史館展覧会「いけばなを極めるー宮本溪雄旧蔵コレクション展」	～3月5日/歴史館
1月20日	日本映画テレビ技術協会京都支部・大阪支部共催「映像技術賞受賞作品を見る会」	FT
1月21日	「Kyoto Art for Tomorrow 2023ー京都府新鋭選抜展」	～2月5日/4階・別館
2月3日	第25回京都国際学生映画祭	～2月5日/FT
2月4日	総合展「続・戦後京都の「色」はアメリカにあった！」	～4月2日/2階
2月6日	熱源設備(空調)等改修工事による臨時休館(3回目)	～2月14日
2月15日	総合展「雛人形名品展」	～4月9日/2階
2月15日	文化庁 ndjc 若手映画作家育成プロジェクト 2022年度合評上映会	FT
2月18日	企画展「原派、ここに在りー京の典雅ー」	～4月9日/3階
2月18日	アカデミー・フィルム・アーカイブ映画コレクション	～3月1日/FT
2月21日	特別展「知の大冒険ー東洋文庫 名品の煌めきー」	～4月9日/4階
3月2日	『わが映画人生』特別上映会ー映画監督は語るー	～3月12日/FT

京都文化博物館 2022(令和4)年度年報

発行日 2023年9月30日
編集・発行 京都府京都文化博物館
〒604-8183 京都市中京区三条高倉
TEL：075-222-0888
FAX：075-222-0889
印刷 株式会社 ITP